PENTAX

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラK-mをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

このカメラで使用できるレンズは、基本的にDA・DA L・D FA・FA Jまたは絞り**A**（オート）位置のあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.46およびp.240をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、smc PENTAXはHOYA株式会社の登録商標です。
K-m、PENTAX PHOTO Browser、PENTAX PHOTO Laboratory、SDMはHOYA株式会社の商標です。
SDHCロゴは商標です。
この製品はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の許可のもと、DNG技術を取り入れています。
DNGロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。特に、口に含むと感電の恐れがありますのでご注意ください。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、電池またはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- このカメラで使用できる電池（単3形ニッケル水素充電池、単3形リチウム電池、単3形アルカリ電池）のうち、充電式のニッケル水素充電池以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- ストロボ発光部に手を密着させたり、衣服をかぶせたまま発光させないでください。火傷を負ったり、衣服が焦げる恐れがあります。

電池の取り扱いについての注意

- このカメラでは、決められた電池以外は使用しないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池を交換するときは、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池の「＋」と「－」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池は分解しないでください。また、このカメラで使用できる電池のうち単3形ニッケル水素充電池以外は充電しないでください。無理に分解や充電をすると、破裂や液漏れの原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像の記録内容の保証についてはご容赦ください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ほこり・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.43）をご覧ください。
- レンズ、ファインダー窓のほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CCDの清掃につきましては、できるだけ当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などを生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属していますCD-ROMと弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」をご参照ください。

目次

ストロボの活用 135

撮影のための設定 149

カメラから印刷する 199

カメラの設定をする 211

設定をリセットする 231

付録 235

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称や機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関する様々な機能を説明しています。

5 ストロボの活用

内蔵ストロボや外付けストロボの使用方法を説明しています。

6 撮影のための設定

画像処理、保存形式の設定方法を説明しています。

7 いろいろな再生

様々な再生のしかた、消去、プロテクト方法について説明しています。

8 画像を加工する

画像のサイズ変更やフィルター加工、RAW画像の現像方法を説明しています。

9 カメラから印刷する

印刷設定やカメラとプリンターを直接つないだときの印刷方法を説明しています。

10カメラの設定をする

画面表示やファイル命名規則など、カメラの設定変更のしかたを説明しています。

11設定をリセットする

変更した設定を初期状態に戻す方法を説明しています。

12付録

困ったときの対処のしかたや別売品のご紹介、各種資料を記載しています。

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

お使いになる前に、同梱品とカメラ各部の名称や機能を確認してください。

K-mカメラの特長

- 23.5×15.7mm、有効画素数約1020万画素のCCDを採用し、高精細、高ダイナミックレンジの撮影ができます。
- イメージセンサーシフト方式の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）を搭載。レンズの種類を問わずに手ぶれを防いで美しく撮影できます。
- 倍率約0.85倍で視野率約96％の従来の35ミリ判カメラと違和感のないファインダーで、マニュアルによるピント合わせが簡単にできます。
- 画像モニターには、2.7型の大型液晶を採用。約23万ドットの高精細・広視野角タイプ、明るさ・色調整機能付きで見やすさを向上させています。
- 単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素充電池、単3形アルカリ電池が使用できます。
- 使用中にカメラの使い方を確認できるヘルプ機能を搭載。操作がわからないときに？（ヘルプ）ボタンを押すと、画像モニターに説明が表示されます。？ボタンには、他に4つの機能が割り当てられるので、カメラの操作に慣れたら、より使いやすく設定できます。
- ユニバーサルデザインの考え方を随所に導入し、大きな文字とハイコントラストで見やすい大型画像モニター、わかりやすいメニューにより、さらに操作しやすくなりました。
- CCDにはゴミがつきにくいSPコーティングが施されています。さらにダストリムーバル機能で付着したゴミを落とすことができます。
- カメラ内でフィルタ処理ができるデジタルフィルタを搭載。撮影時に、白黒やソフトなどのフィルタを使用して撮影したり、撮影後にフィルタで加工することができます。
- 画像の仕上がり具合をプレビューしながら調整・設定ができるカスタムイメージを搭載し、より豊かな表現力を備えています。
- 画像の記録形式は汎用性の高いJPEG形式と、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式が選べるほか、JPEG+RAWの同時記録が可能。またRAWで撮影した画像は、カメラ内部でも簡易的な現像ができます。
- デジタルカメラならではの露出コントロールの手段として、任意に設定したISO感度に応じて絞り値・シャッター速度が自動調整される感度優先モード**Sv**が搭載されています。

35ミリ判一眼レフカメラとK-mでは、35ミリ判フィルムとCCDのフォーマットサイズが異なるために、同じレンズを使用しても写る範囲（画角）は同じにはなりません。

35ミリ判フィルムとCCDの大きさ

35ミリ判フィルム　：36×24mm
K-mのCCD　：23.5×15.7mm

K-mと35ミリ判カメラでほぼ同じ範囲（画角）を撮影するには、35ミリ判カメラのレンズの焦点距離を約1.5で割った焦点距離のレンズを使用してください。

例）35ミリ判カメラで150mmのレンズを使う場合と同じ画角にするには、
150÷1.5＝100
K-mでは、100mmのレンズを使用すればいいことになります。

逆に、K-mで使用しているレンズの焦点距離を35ミリ判カメラの焦点距離に換算するには、約1.5倍してください。

例）K-mに300mmレンズを使用した場合、
300×1.5＝450
35ミリ判カメラで450mmレンズ相当を使用したのと同じになります。

手ぶれ補正機構SRについて

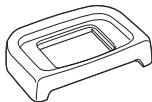
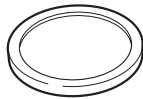
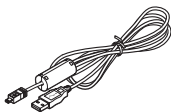
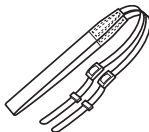
K-mの手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）は、ペンタックス独自の方式でイメージセンサーを磁力により高速で移動させ、ぶれを補正する機構になっています。
構図の変更などでカメラを振ると音がしますが、故障ではありませんのでご安心ください。

ヘルプ機能について

K-mのヘルプ機能は、DAおよびDA Lレンズとの組み合わせを前提にガイド表示を作成しています。
従来のレンズを使用してレンズの絞りを**A**（オート）位置以外にすると、一部のガイド表示の内容が実際と一致しない表現になる場合があります。

主な同梱品の確認

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
カメラをお使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

アイカップFQ
（カメラ装着）

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

USBケーブル
I-USB7

ストラップ
O-ST84

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW84

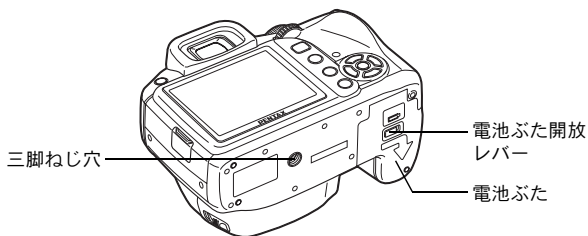
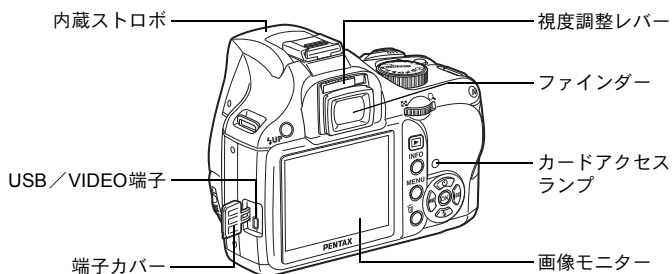
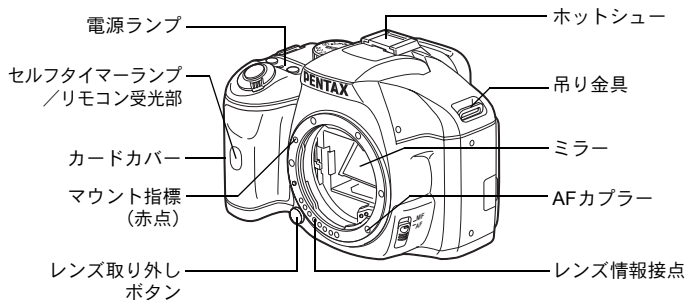
単3形リチウム電池4本

使用説明書（本書）

簡単ガイド

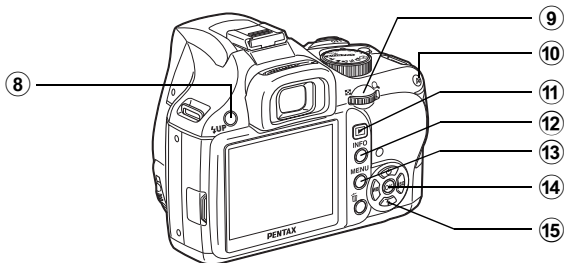
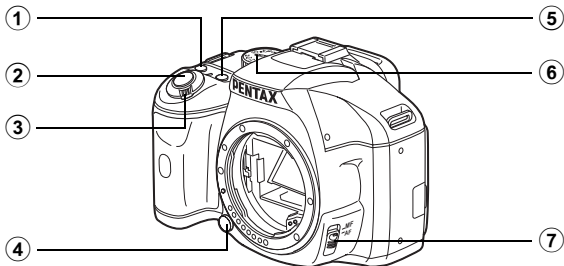
PENTAX PHOTO Browser 3
／PHOTO Laboratory 3
使用説明書

保証書

各部の名称と機能

※ 中央の図はアイカップFQを外した状態のイラストです。

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

メモ ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更することができます。

① **❓（ヘルプ）ボタン**
画像モニターに機能や操作の説明を表示します。（p.34）
他の機能を割り当てることもできます。（p.154）

② **シャッターボタン**
画像を撮影します。（p.62）

③ **電源レバー**
電源のON／OFFをします。（p.49）

④ **レンズ取り外しボタン**
レンズを取り外すときに押します。（p.47）

⑤ **AvボタンAv**
露出補正値や絞り値を設定します。（p.91、p.98、p.104）

⑥ **モードダイヤル**
撮影モードを切り替えます。（p.80）

⑦ **フォーカスモードレバー**
オートフォーカス（p.109）とマニュアルフォーカス（p.116）を切り替えます。

⑧ **UPボタン**
内蔵ストロボをポップアップします。（p.65）

⑨ **電子ダイヤル**
シャッター速度／絞り値／ISO感度／露出補正値を設定します。

⑩ **AFボタン**
ピントを合わせたり、露出値を記憶するように設定することができます。（p.100、p.105、p.110）

⑪ **▶ボタン**
再生モードに切り替えます。（p.72、p.166）

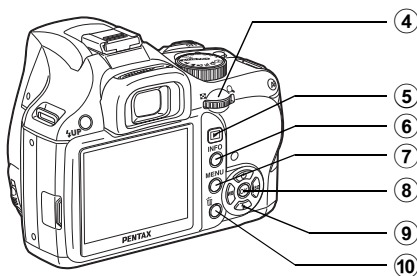
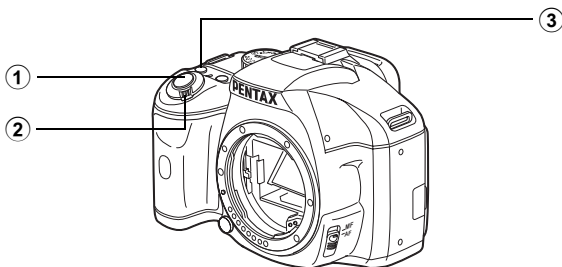
⑫ **INFOボタン**
画像モニターにステータススクリーンを表示／非表示します。（p.23）

⑬ **MENUボタン**
「撮影1」メニュー（p.77）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、他のメニューに切り替わります。

⑭ **OKボタン**
コントロールパネルを表示します。（p.23）コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、選択した項目を決定します。

⑮ **十字キー（▲▼◀▶）**
ドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／ISO感度の設定画面を呼び出します。（p.76）コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

① **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

② **電源レバー**
電源のON／OFFをします。（p.49）

③ **❓（ヘルプ）ボタン**
画像モニターに機能や操作の説明を表示します。（p.34）

④ **電子ダイヤル**
再生した画像を拡大表示（p.167）、またはマルチ画面表示（p.169）します。

⑤ **▶ボタン**
撮影モードに切り替えます。

⑥ **INFOボタン**
画像モニターに撮影情報を表示します。（p.24）

⑦ **MENUボタン**
「▶再生1」メニュー（p.166）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、他のメニューに切り替わります。

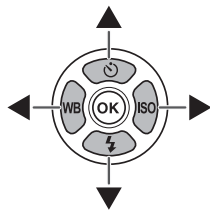
⑧ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した設定を決定します。

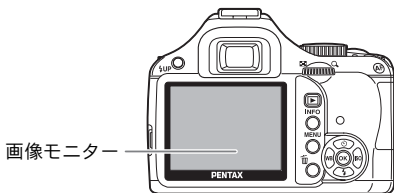
⑨ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。

⑩ **🗑ボタン**
画像を消去します。（p.73）

キーの表記について

本書では、十字キーを次のように表記します。

撮影情報の表示

画像モニター

画像モニターには、カメラの状態によって様々な情報が表示されます。

画像モニターの明るさと色味を調整することができます。（p.221、p.222）

電源ON時／モードダイヤル操作時

電源を入れたとき、またはモードダイヤルを回したときに、画像モニターに3秒間（初期設定）ガイドが表示されます。

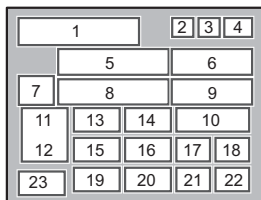
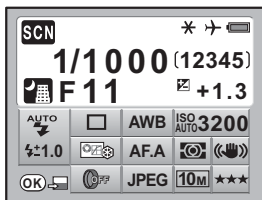
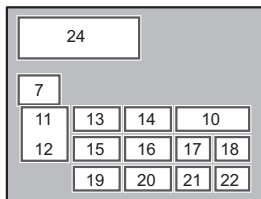
「🔧詳細設定1」メニューの「ガイド表示」をオフにすると、ガイドは表示されません。（p.220）

1 撮影モード（p.80）
2 ワールドタイム（p.216）（設定が目的地のときのみ表示）
3 現在の日時（p.54）

撮影時

撮影時にはステータススクリーンが表示され、撮影機能の設定内容が表示されます。**OK** ボタンを押すと、コントロールパネルが表示され、設定を変更することができます。

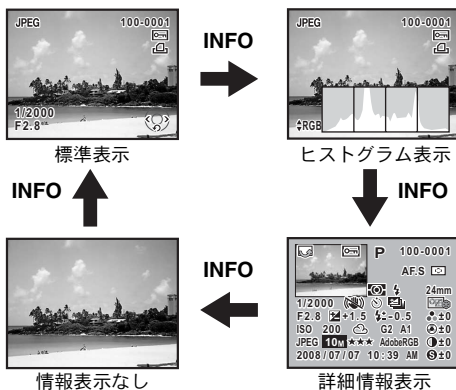
● ステータススクリーン／コントロールパネル

（説明のため項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1	撮影モード（p.80）	**13**	ドライブモード（p.76）
2	AEロックマーク（p.105）	**14**	ホワイトバランス（p.159）
3	ワールドタイム（p.216）	**15**	カスタムイメージ（p.157）
4	電池残量（p.39）	**16**	フォーカスモード（p.109）
5	シャッター速度（p.85）	**17**	測光方式（p.101）
6	撮影可能枚数	**18**	手ぶれ補正（p.121）
7	SCN（シーン）モード（p.82）	**19**	デジタルフィルタ（p.132）
8	絞り値（p.85）	**20**	記録形式（p.152）
9	露出補正値（p.104）	**21**	JPEG記録サイズ（p.150）
10	ISO感度（p.87）	**22**	JPEG画質（p.151）
11	ストロボモード（p.65）	**23**	操作ガイド
12	ストロボ光量補正値（p.70）	**24**	選択中の機能の説明

- カメラの設定状況により変更できない項目は、選択できません。
- ステータススクリーンは、「**C** カスタム1」メニューの「3. 測光作動時間」で設定した時間（初期設定：10秒）が経過すると消えます。**INFO** ボタンを押すと、再度表示されます。
- 「**C** カスタム3」メニューの「21. ステータスの常時表示」をオフにすると、**INFO** ボタンを押したときだけステータススクリーンが表示されます。（p.221）

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すごとに、表示情報が切り替わります。

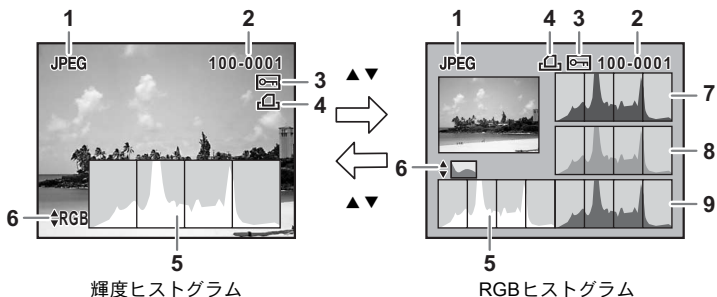
標準表示	撮影画像と操作ガイドを表示します。
ヒストグラム表示	画像とヒストグラム（輝度／RGB）を表示します。
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を表示します。
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

再生時に最初に表示される情報は、前回最後に表示した画面です。「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.229）で「再生情報表示」を□（オフ）に設定すると、常に標準表示から表示させることもできます。

● **詳細情報表示**

1 回転情報
2 撮影画像
3 プロテクト
4 撮影モード
5 測光方式
6 ストロボモード
7 シャッター速度
8 手ぶれ補正
9 ドライブモード
10 露出ブラケット
11 絞り値
12 露出補正値
13 ストロボ光量補正値
14 フォルダNo.-ファイルNo.
15 フォーカスモード
16 AFエリア
17 レンズ焦点距離
18 画像仕上
19 彩度／フィルタ効果
20 色相／調色
21 コントラスト
22 シャープネス／ファインシャープネス
23 ISO感度
24 ホワイトバランス
25 GM補正値（ホワイトバランス微調整）
26 BA補正値（ホワイトバランス微調整）
27 記録形式
28 JPEG記録サイズ
29 JPEG画質
30 色空間
31 撮影日時

※ 6・13はストロボが発光した画像のみ表示されます。

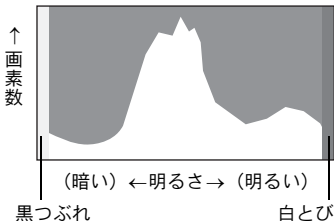
● ヒストグラム表示

K-mでは、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムが表示できます。「輝度ヒストグラム」と「RGBヒストグラム」の表示は十字キー（▲▼）で切り替えます。

1 記録形式
2 フォルダNo.-ファイルNo.（p.224）
3 プロテクト（p.184）
4 DPOF設定（p.200）
5 ヒストグラム（輝度）（p.26）
6 輝度ヒストグラム／RGBヒストグラム切り替え
7 ヒストグラム（R）
8 ヒストグラム（G）
9 ヒストグラム（B）

※ 3はプロテクトが設定されている画像のみ、4はDPOFが設定されている画像のみ表示されます。

「▶再生2」メニューの「再生時の表示方法」で「白とび黒つぶれ警告」を☑（オン）にすると、白とび黒つぶれ部分が点滅表示されます。（p.168）

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を積み上げて示します。

撮影前や撮影後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

☞露出を補正する（p.104）

画像の明るさを見る

極端な明暗部がない適正な明るさの画像の場合、グラフは中間域に分布します。暗い画像ではグラフの分布は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

明部暗部の少ない画像

明るい画像

また、画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。

K-m には、黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。

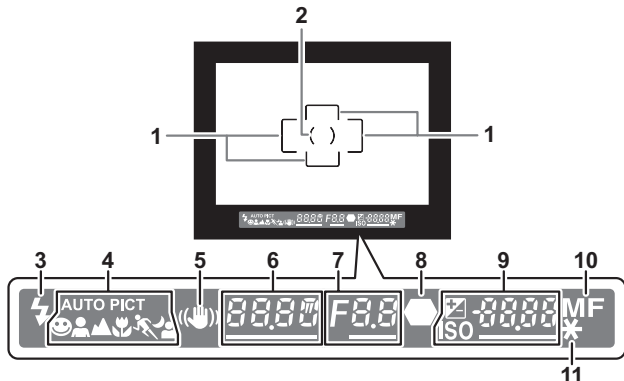
☞撮影した画像を再生する（p.72）
☞クイックビューの表示を設定する（p.222）

色のバランスを見る

「RGBヒストグラム」では各色ごとの強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色のみ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

☞ホワイトバランスを調整する（p.159）

ファインダー

ファインダー内には次の情報が表示されます。

1 AFフレーム（p.48）

2 スポット測光フレーム（p.101）

3 ストロボマーク（p.65）
点灯：ストロボが発光可能なとき
点滅：ストロボ使用がお勧めなのに発光する設定になっていないとき

4 ピクチャーモードアイコン（p.80）
ピクチャーモードで撮影する場合に、撮影時のモードが点灯
☻（AUTO PICTの標準モード）／人（人物）／山（風景）／花（マクロ）／走（動体）／夜（夜景人物）

5 手ぶれ補正（p.121)
手ぶれ補正機能が有効なときに点灯

6 シャッター速度（p.85）
撮影時および調整時のシャッター速度
電子ダイヤルでシャッター速度調整が可能なときはアンダーラインが点灯

7 絞り値（p.85）
撮影時および調整時の絞り値
電子ダイヤルで絞り調整が可能なときはアンダーラインが点灯

8 合焦マーク（p.60）
点灯：合焦したとき（ピントが合ったとき）
点滅：非合焦のとき（ピントが合わなかったとき）

9 撮影可能枚数／露出補正値／ISO感度
現在の画質、記録サイズ設定であと何枚撮影できるかを表示
露出モードが**M**のときは、適正露出値との差を表示（p.99）
OKボタンを押している間、ISO感度を表示（p.88）
±点灯： 露出補正値を表示（p.104）
±**Av**ボタンを押している間は、電子ダイヤルで露出補正値が調整可能となり、アンダーラインが点灯
ISO点灯：ISO感度を表示
電子ダイヤルでISO感度が調整可能なときはアンダーラインが点灯

10 フォーカスモード（p.109）
MFのときに点灯

11 AEロック（p.105）
AEロック中に点灯

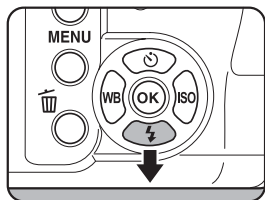
メモ
撮影可能枚数の最大表示は「9999」です。撮影可能枚数が10000枚以上の場合も「9999」と表示されます。

機能の設定方法

機能は、ダイレクトキー、コントロールパネルまたはメニューで設定します。よく使う機能はダイレクトキーかコントロールパネルで設定し、それ以外の機能はメニューから操作します。ダイレクトキーとコントロールパネルの両方、コントロールパネルとメニューの両方で設定できる機能もあります。
ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

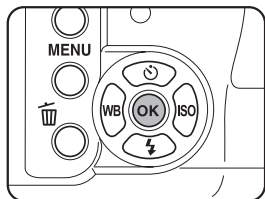
ダイレクトキーで設定する

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、ドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／ISO感度が設定できます。（p.76）
ここではストロボモードを設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

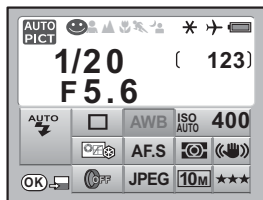
2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

3 OK ボタンを押す

ステータスがスクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

コントロールパネルで設定する

撮影時に表示されるステータススクリーンで設定を確認し、コントロールパネルに切り替えて設定を変更することができます。
ここではJPEG画質を設定する場合を例に説明します。

1 ステータススクリーンを確認し、OKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

変更できない項目は選択できません。

3 OKボタンを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で設定値を選ぶ

5 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

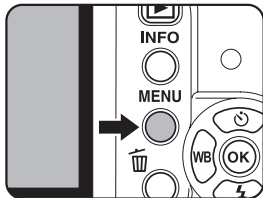
メモ

p.31の手順2で変更する項目が選択されている状態で電子ダイヤルを回して、設定を変更することもできます。パラメータなどの詳細設定は、**OK**ボタンを押してから変更します。

メニューで設定する

「撮影」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／「**C**カスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影2」メニューの「測距点切替」を設定する場合を例に説明します。

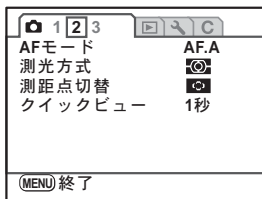
1 撮影モードでMENUボタンを押す

画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。
再生モードで**MENU**ボタンを押すと「再生1」メニューが表示されます。また、モードダイヤルが**SCN**（シーン）になっているときは、「**SCN**シーン」メニューが表示されます。

2 十字キー（▶）を押す

1回押すごとに「📷撮影2」メニュー→「📷撮影3」→「▶再生1」メニュー→「▶再生2」メニュー・・・と順に切り替わります。

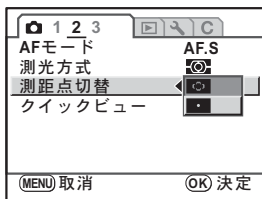
電子ダイヤルでメニューを切り替えることもできます。

1 2 3 C
カスタムイメージ
デジタルフィルタ
記録形式 JPEG
JPEG記録サイズ 10M
JPEG画質 ★★★
RAWファイル形式 PEF
色空間 sRGB
MENU 終了

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

設定できる項目が表示されます。

ポップアップがあるときは、十字キー（▶）でポップアップに移行します。

5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

6 OKボタンを押す

メニュー画面に戻ります。続いて他の項目を設定できます。

MENUボタンを押すと、メニュー選択前の画面に戻ります。

MENUボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源を入れたまま電池を取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定は保存されません。

ヘルプ機能を利用する

操作が分からないときなどに、❓（ヘルプ）ボタンを押して現在のカメラの状態や操作の説明を画像モニターに表示することができます。
ヘルプ画面を表示できるのは、以下のときです。

- 撮影モード
- 再生モード（1画像表示／マルチ画面表示／カレンダー表示／フォルダ表示／拡大表示）

1 ❓ボタンを押す

現在の状態を確認する画面が表示されます。
再生モードで❓ボタンを押したときは、手順3に進みます。

2 もう一度❓ボタンを押す

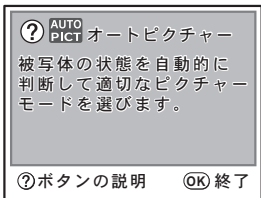
キー入力受付画面が表示されます。

3 操作を確認したいボタンを押す

説明が表示されます。
AF ボタンまたはシャッターボタンを押した場合は、説明は表示されずに撮影モードになります。

4 ❓ボタンまたはOKボタンを押す

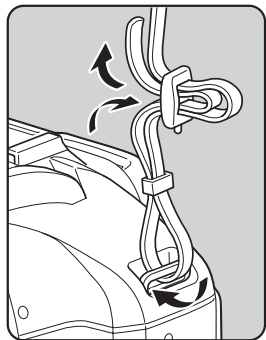
❓ボタンを押すと、ヘルプ機能を終了します。**OK** ボタンを押すと、キー入力受付画面に戻ります。

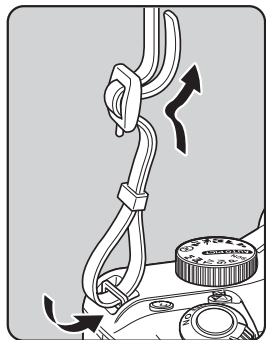
? AUTO PICT オートピクチャー
被写体の状態を自動的に判断して適切なピクチャーモードを選びます。
?ボタンの説明　OK 終了

メモ
❓ボタンにはヘルプ機能のほかに、撮影時に使用する機能を割り当てることができます。カメラの操作に慣れたら、他の機能が使えるように設定すると便利です。（p.154）

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでに必要な準備について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作をしてください。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側に固定する**

2 **もう一方のストラップの先端をカメラのもう一方の吊り金具に通し、留め具の内側に固定する**

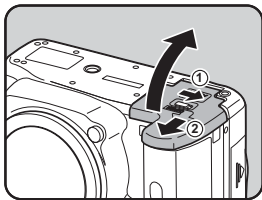
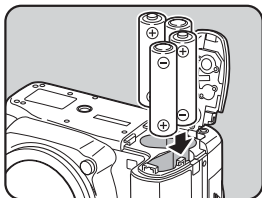
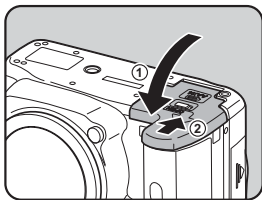
電池を入れる

カメラに電池をセットします。電池は、単3形リチウム電池／単3形ニッケル水素充電池／単3形アルカリ電池のいずれか4本を使用します。

動作確認用として、単3形リチウム電池を同梱していますが、他にも使用できる電池があります。用途に合った電池を選んでご使用ください。

対応電池	特性
単3形リチウム電池	同梱品の電池です。低温に強く、寒い地域での撮影に向いています。
単3形ニッケル水素充電池(Ni-MH)	充電して繰り返し使用することができるので経済的です。(充電には、ご使用の充電池に対応した市販の充電器が必要です。)
単3形アルカリ電池	お使いの電池が消耗してしまっても、手軽に入手できます。ただし、使用条件によっては、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用や動作確認用として以外は、使用をお勧めしません。

注意

- ニッケルマンガン電池は電圧特性上、誤動作の恐れがあるため使用をお勧めしません。
- このカメラで使用する単3形リチウム電池／単3形アルカリ電池は充電式ではありません。
- 電源がONのときに、電池ぶたを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液漏れをすることがあります。
- 長時間電池を取り外して、新しく電池を入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」(p.54)の手順に従って、設定し直してください。
- 電池は正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、電池の電極はよく拭いてから入れてください。
- 電池は、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で交換してください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。電池容量が正しく表示されないなど誤動作の原因となります。

1 **電池ぶた開放レバーを矢印の方向（①）に押しながら、電池ぶたをレンズ側にスライド（②）する**

2 **電池の向きを電池室内の「＋」「－」表示に合わせて、挿入する**

3 **電池ぶたで電池を押さえながら電池ぶたを閉め（①）、矢印の方向にスライドする（②）**

電池ぶたは完全に閉じてください。電池ぶたが開いていると電源が入りません。

- 長時間ご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC84J（別売）をご使用ください。（p.40）
- 電池交換をしても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

電池容量の確認

ステータススクリーンに表示された で、電池の残量を確認することができます。

	点灯	：	電池がまだ十分に残っています。
↓			
	点灯	：	容量が少なくなりました。
↓			
	点灯	：	残量がほとんどありません。
↓			

「電池容量がなくなりました」と表示後、電源OFFとなります。

低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても ／ が点灯することがあります。電源を入れ直してみて が表示されれば、そのままお使いになれます。

撮影可能枚数と再生時間（新品電池交換時）

電池	（使用温度）	一般撮影	ストロボ撮影 使用率50％	ストロボ撮影 使用率100％	再生時間
単3形リチウム電池	（23°C）	約1650枚	約1000枚	約800枚	約750分
	（ 0°C）	約1400枚	約850枚	約690枚	約640分
単3形ニッケル水素充電池（2700mAh）	（23°C）	約1100枚	約640枚	約500枚	約510分
	（ 0°C）	約750枚	約500枚	約350枚	約430分
単3形アルカリ電池	（23°C）	約360枚	約260枚	約160枚	約350分
	（ 0°C）	不適	不適	不適	約240分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

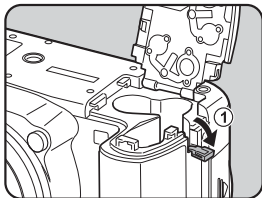
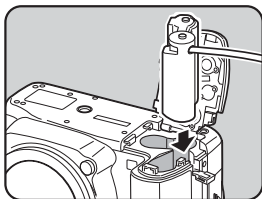
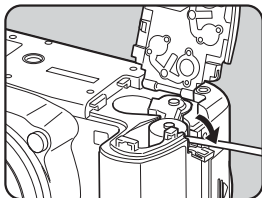
- 使用環境の温度が下がると、電池の性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備の電池を用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備電池をご用意ください。

ACアダプター（別売品）を使用する

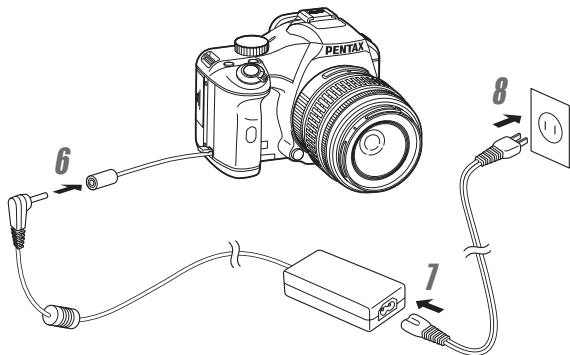
画像モニターを長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプターキットK-AC84J（別売）のご使用をお勧めします。

1 **カメラの電源がOFFになっていることを確認する**

電池がセットされていた場合は、電池ぶたを開けて電池を取り出します。p.38の手順1をご覧ください。

2 **電池ぶたを開けて電池室右側面の接続ケーブルカバー（①）を外側に引き出す**

3 **電池室にDCカプラーを挿入する**

4 **図のようにDCカプラーの接続ケーブルを引き出す**

5 電池ぶたを閉める

p.38の手順3をご覧ください。

6 DCカプラーとACアダプターのDC端子を接続する

7 ACコードをACアダプターに接続する

8 コンセントに電源プラグを差し込む

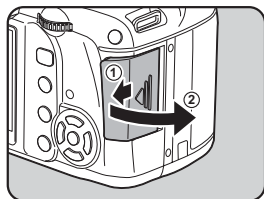
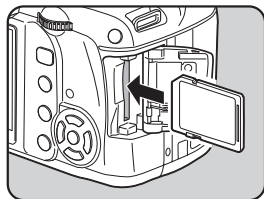
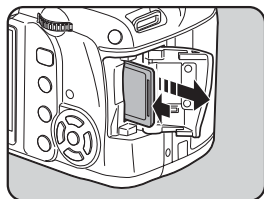
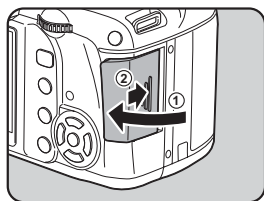
- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- 各端子はしっかりと接続してください。カメラがSDメモリーカードにデータを記録、または読み出している間に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損する恐れがあります。
- ACアダプターを使用しないときは、接続ケーブルカバーを閉じておいてください。

ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC84Jの使用説明書をあわせてご覧ください。

SDメモリーカードを入れる／取り出す

このカメラで使用できるカードはSDメモリーカードとSDHCメモリーカードです（使い方はいずれも同じです。本書では以下SDメモリーカードと表記します）。SDメモリーカード（市販品）を入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 未使用または他のカメラやデジタル機器で使用した SD メモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」(p.214)をご覧ください。

1　カードカバーを矢印の方向にスライド（①）させてから開く（②）

2　SD メモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで押し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。

3 カードカバーを閉じ（①）、矢印の方向にスライドさせる（②）

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへの画像の記録／再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SD メモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録／読み出し中にカードを取り出したり、電池を抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。

- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
  ☞SDメモリーカードをフォーマットする（p.214）
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊する、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

画像の記録サイズと画質

記録形式が「JPEG」の場合

撮影する画像の記録サイズ（縦横の大きさ）と画質（JPEG画像記録時のデータ圧縮率）は、撮影後の画像の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値や画質の★の数が多くなるほど、プリントしたときに鮮明な画像を得ることができます。しかし、画像の容量が増えるので、撮影できる枚数（SDメモリーカードに記録できる枚数）は少なくなります。
また、撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さには、画質設定や露出制御などの撮影時の設定や使用するプリンターの解像度なども関係するので、記録サイズをむやみに大きくする必要はありません。例えば、はがきサイズにプリントする場合は、2M（1824×1216）程度が目安です。用途に応じて適切な記録サイズと画質を設定してください。

JPEG画像の記録サイズと画質の設定は、コントロールパネルで行います。
☞JPEG記録サイズを設定する（p.150）
☞JPEG画質を設定する（p.151）

● JPEG記録サイズ／JPEG画質と撮影可能枚数の目安

JPEG画質 / JPEG記録サイズ	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
10M（3872×2592）	231枚	343枚	586枚
6M（3008×2000）	387枚	570枚	974枚
2M（1824×1216）	902枚	1549枚	2627枚

- この表の数値は、1GBのSDメモリーカードを使用した場合の枚数です。
- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

記録形式が「RAW」の場合

K-mでは、汎用性の高いJPEG形式のほかに、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式を選ぶことができます。また、RAWのファイル形式として、ペンタックス独自のファイルフォーマットのPEFと、Adobe Systems社が提唱する汎用の公開フォーマットのDNG（Digital Negative）のいずれかが選択できます。撮影可能枚数は、1GBのSDメモリーカードの場合、PEFは59枚、DNGは58枚が目安です。

☞記録形式を設定する（p.152）

レンズを取り付ける

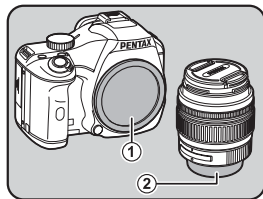
カメラ本体にレンズを取り付けます。
K-mでは、以下のレンズを使うと、カメラの露出モードがすべて利用できます。
(a) DA・DA L・D FA・FA Jレンズ
(b) 絞り**A**（オート）位置のあるレンズを**A**位置で使用

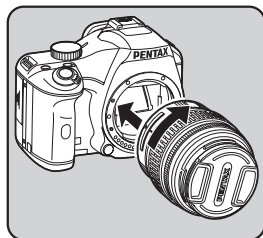
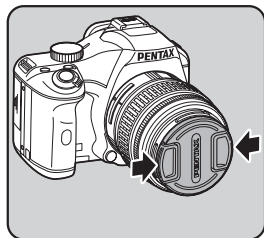
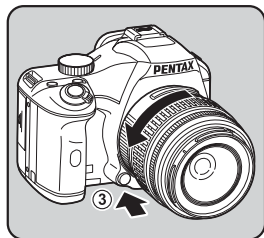
注意 不用意なレンズの動きを防ぐため、レンズを着脱するときは電源を切ってください。

- (b) のレンズを絞り **A** 位置以外で使用する場合は、機能が制限されます。「「19. 絞りリングの使用」設定時の注意」(p.241) をご覧ください。
- 上記以外のレンズやアクセサリーを使用する場合は、工場出荷時の設定ではカメラが作動しません。「**C**カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」に設定してください。(p.241)

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズカバー（②）を取り外す

レンズカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズのマウント指標（赤点）を合わせ、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 図のように矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン（③）を押しながらレンズを左へ回してください。

- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

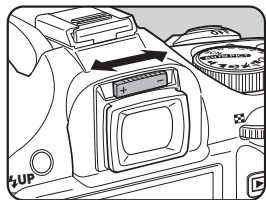
メモ

ボディマウントカバー（①）は工場出荷時の傷やほこり防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディマウントキャップKをご用意しています。

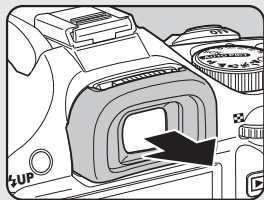
ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。ファインダー内の表示が見づらいときは、視度調整レバーを左右に動かして、見やすい位置に調整してください。
視度は、約–2.5～+1.5m^{-1}の範囲で調整できます。

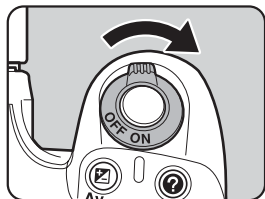
1 ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内のAFフレームがはっきり見える位置に調整します。
白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。

AFフレーム

- 工場出荷時には、ファインダー部にアイカップFQが装着されています。アイカップFQを付けたままでも、視度調整は可能ですが、アイカップを外すと調整がしやすくなります。
- アイカップFQを外す場合は、矢印の方向に引っ張って外します。
  付けるときは、アイカップFQをファインダーアイピースの溝に確実にはめてください。

- 視度調整レバーを使っても、ご自分の視力に合わせることができない方のために、別売アクセサリーとして視度調整レンズアダプターMをご用意しています。ご利用の際は、アイカップFQを外してお使いください。（p.250）

電源を入れる

1 電源レバーを「ON」に合わせる

電源が入ります。
電源レバーを「OFF」に合わせると電源が切れます。

- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます。電源をONにするには、電源を入れ直すか、次のいずれかの操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタンを押す
  - **INFO**ボタンを押す
- 自動的に電源が切れるまでの時間は、初期設定では1分間です。「🔧詳細設定2」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.225）

初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定は必要ありません。

Language/言語
English Dansk Ελληνικά
Français Svenska Русский
Deutsch Suomi 한국어
Español Polski 中文繁體
Português Čeština 中文简体
Italiano Magyar 日本語
Nederlands Türkçe
MENU Cancel OK OK

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.54)の手順に従って日時を設定してください。

日時設定
表示スタイル 年/月/日 24h
日付 2008/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消 OK 決定

言語を設定する

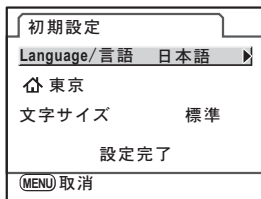
使用する言語を日本語に設定します。

1 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

Language/言語
English Dansk Ελληνικά
Français Svenska Русский
Deutsch Suomi 한국어
Español Polski 中文繁體
Português Čeština 中文简体
Italiano Magyar 日本語
Nederlands Türkçe
MENU 取消 OK 決定

2 OKボタンを押す

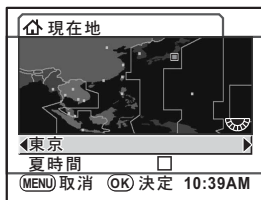
日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていたら、十字キー（▼）を2回押し、p.52の手順10に進んでください。

初期設定
Language/言語　日本語
⌂ 東京
文字サイズ　標準
設定完了
MENU 取消

3 十字キー（▼）を押す

カーソルが⌂に移動します。

4 十字キー（▶）を押す。

「⌂現在地」画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で「東京」を表示する

6 十字キー（▼）を押す

カーソルが「夏時間」の□に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

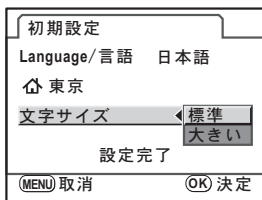
8 OKボタンを押す

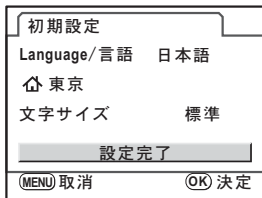
「初期設定」画面に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

カーソルが「文字サイズ」に移動します。

10 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「標準」／「大きい」を選ぶ

「大きい」を選ぶと選択しているメニュー項目が拡大して表示されます。

11 OKボタンを押す

12 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

13 OKボタンを押す

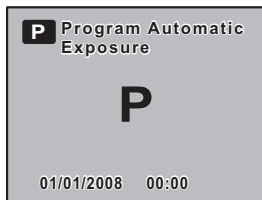
「日時設定」画面が表示されます。

メモ
本書では、以降のメニュー画面は「文字サイズ」を「標準」に設定して説明します。

言語設定を間違えてしまったら

「Language/言語」画面で日本語以外の言語を選んで「日時設定」画面に進んでしまった場合は、以下の手順で日本語に設定できます。
撮影モード（撮影できる状態）まで進んでしまったときは、手順2から設定をやり直してください。

1 MENUボタンを1回押して、画像モニターにガイドを表示させる

右のガイド表示画面は一例です。選択した言語によって表示は異なります。
画像モニターのガイド表示は3秒間のみ表示されます。

2 MENUボタンを1回押す

上部タブに「📷1」が表示されます。
モードダイヤルがSCNのときは「SCN」が表示されます。

3 十字キー（▶）を5回押す

上部タブに「🔧1」が表示されます。
モードダイヤルがSCNのときは、十字キー（▶）を6回押します。

4 十字キー（▼）で「Language/言語」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「🔧詳細設定1」メニューが表示されます。
「現在地」と「日時」を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照して、「現在地」を東京に、「日時」を現在の日時に設定してください。

- 現在地を変更する場合：「ワールドタイムを設定する」（p.216）
- 日時を変更する場合：「日時とその表示スタイルを変更する」（p.216）

- 現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに、再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。
- 「日時設定」画面に進む前であれば、「Language/言語」を選択して十字キー（▶）で言語を選び直すことができます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを設定する

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で、24h（24時間表示）または12h（12時間表示）を設定する

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

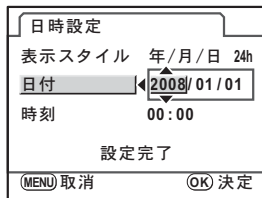
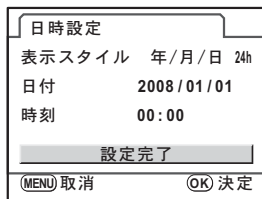
6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

10 OKボタンを押す

ステータススクリーンが表示され、撮影できる状態になります。
メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押してください。

日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。日時を設定しないまま次回電源を入れた場合に、初期設定が設定されていれば、最初に「日時設定」画面が表示されます。あとから日時をメニュー操作で設定することもできます。（p.216）

- 手順10で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.216、p.219）

3 使ってみよう

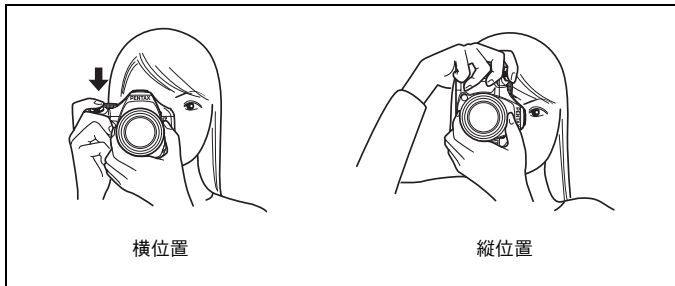
この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルをAUTO PICT（オートピクチャー）に設定した場合の基本操作について説明しています。

高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降をご覧ください。

撮影の基本操作

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。
- カメラを両手でしっかりと持ちます。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

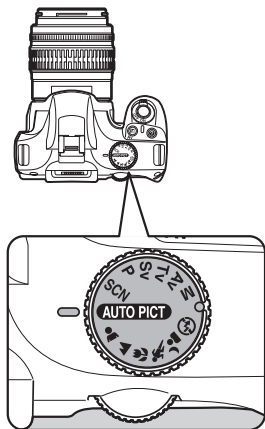
横位置　　縦位置

- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると手ぶれを防ぐ効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には 1/（焦点距離 ×1.5）が手持ち撮影の限界シャッター速度とされています。例えば、焦点距離が50mmでは1/75秒、100mmでは1/150秒程度です。これ以下のシャッター速度になる場合は、三脚または手ぶれ補正機能（p.121）を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。
- 三脚を使用する場合は、手ぶれ補正機能は使用しないでください。（p.122）

カメラまかせで撮影する

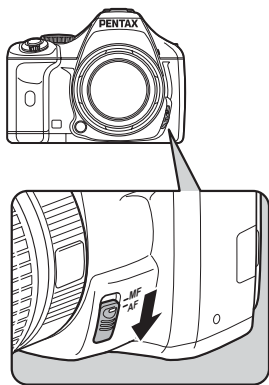
K-m には、撮影者の意図に的確に応じる様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの、最も簡単な撮影方法を説明します。

1 モードダイヤルを AUTO PICT に合わせる

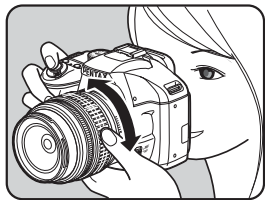
被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。

☞撮影モードを選ぶ（p.80）

2 フォーカスモードレバーを AF に合わせる

フォーカスモードが **AF**（オートフォーカス）モードになります。

AF では、シャッターボタンを半押しにすると自動的にピントを合わせ、シャッターがきれるようになります。（p.109）

3 ファインダーをのぞいて、被写体を確認する

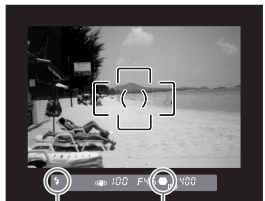
ズームレンズを使うと被写体の大きさを変えることができます。

☞ズームレンズを使う （p.64）

4 AF フレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

AUTO PICT（オートピクチャー）では、☻（標準）／👤（人物）／▲（風景）／🌷（マクロ）／🏃（動体）／🌙👤（夜景人物）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。

ストロボ発光が必要な場合には、ストロボが自動的にポップアップします。

☞シャッターボタンの操作 （p.62）
☞オートフォーカスが苦手なもの（p.63）
☞内蔵ストロボを使う （p.65）

5 シャッターボタンを全押しする

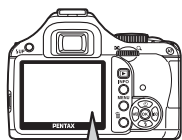
撮影されます。

6 画像モニターで撮影した画像を確認する

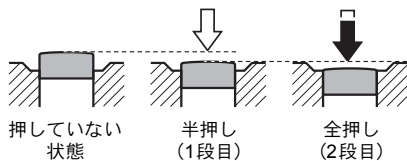
撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

☞クイックビューの表示時間 （p.222)

クイックビュー表示中に、電子ダイヤルで拡大表示できます。（p.167）

クイックビュー表示中に 🗑 ボタンを押すと、画像を消去できます。（p.73）

- シャッターボタン半押しによる合焦動作を、**AF** ボタンで行うこともできます。（p.110）
- 撮影前に画像モニターにプレビューを表示して、構図・露出・ピントを確認できます。（p.119）
- ファインダー内の表示は、シャッターボタンを半押ししている間は表示されています。指を離しても測光タイマー作動中の約10秒間（初期設定）は表示されたままになります。（p.28、p.103）

シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押し（1段目まで押し込む）すると、ファインダー内に情報が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む（2段目まで押し込む、全押しする）と撮影されます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、半押しと全押しの感覚をつかんでおいてください。

オートフォーカスが苦手なもの

オートフォーカス機構は、万能ではありません。撮影するものが以下のようなときには、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク●を利用した手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）でも同様です。

(a) AFエリアの内側が白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低いものだけの場合
(b) AFエリアの内側に光を反射しにくいものがある場合
(c) 非常に速い速度で移動しているもの
(d) 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るいもの）
(e) AFエリアの内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合
(f) 遠近のものがAFエリアの内側に同時に存在する場合

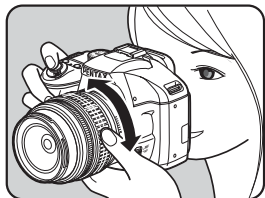
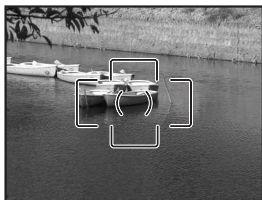
ピントが合わないときは、フォーカスモードレバーを**MF**に合わせて、ファインダーのマット面を利用して手動でピント合わせをしてください。（p.117）

上記の条件（e）（f）のときはファインダー内に●（合焦マーク）が表示されていても、写したいものにピントが合わないことがあります。

ズームレンズを使う

ズームレンズを使うと、写したいものを大きくしたり（望遠)、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

ズームリングを右に回すと望遠に、左に回すと広角になります。

広角

望遠

- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると撮影する範囲が広い広角側に、大きくすると遠いものを大きく撮影する望遠側になります。
- このカメラでは、パワーズーム機能（イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームなど）は使用できません。

内蔵ストロボを使う

背景が撮りたいものより明るい場合や逆光撮影など、意図的に内蔵ストロボを発光させたい場合は、次の手順で使用します。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7～5mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、設定ISO感度によって多少異なります。（p.138））

内蔵ストロボとレンズの適合

内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレが生じることがあります。事前にテスト撮影をして確認されることをお勧めします。

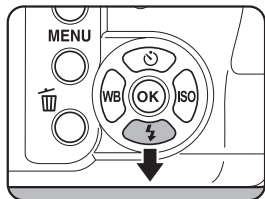
☞レンズと内蔵ストロボの適合 （p.139）

注意
- 内蔵ストロボを使用する場合は、レンズフードを外して撮影してください。
- 絞り**A**（オート）位置の機能がないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

ストロボモードを設定する

ストロボモード	機能
自動発光	周りの明るさをカメラが自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。手ぶれしやすいシャッター速度のときや逆光時など、ストロボの発光が必要な場合は自動的にポップアップします（（風景）／（動体）／SCN（シーン）モードの（ナイトスナップ）を除く）。ポップアップしていても、発光の必要がない場合は、発光しません。
強制発光	ストロボの発光を手動で行います。ストロボをポップアップすると発光し、収納すると発光しません。
自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
強制発光＋赤目軽減	ストロボの発光を手動で行います。発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
W ワイヤレスモード	専用外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）とシンクロコードを使わずに同調させることができます。

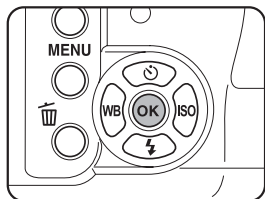
1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

電子ダイヤルを回してストロボ光量の補正ができます。（p.70）

モードダイヤルを**P**／**Sv**／**Tv**／**Av**／**M**のいずれかに合わせたときは、AUTO／⚡A◎は選択できません。

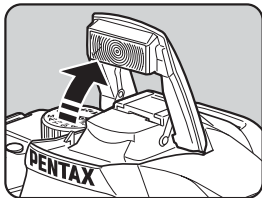
3 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

自動発光 / （ストロボオートポップアップ）で使用する

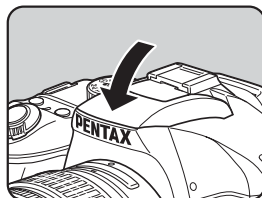
1 モードダイヤルをSCN／AUTO PICT／／／のいずれかに合わせる

SCN（シーン）モードで（夜景）／（夕景）／（ステージライト）／（キャンドルライト）／（美術館）のどれかに設定したときは、ストロボは発光禁止になります。また、SCN（シーン）モードの（ナイトスナップ）に設定したときは、ストロボはオートポップアップしません。

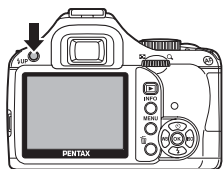
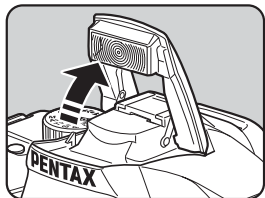
2 シャッターボタンを半押しする

必要に応じて内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電が終わると、ファインダー内にが表示されます。（p.28）

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

4 図の矢印の部分を押し下げ、ストロボを収納する

メモ
内蔵ストロボがポップアップした状態でUPボタンを押すと、自動発光と強制発光を切り替えられます。

強制発光⚡／⚡◉で使用する

1 ⚡UPボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。ストロボ発光モードの設定にかかわらず強制発光になります。
充電が終わると、ファインダー内に⚡が表示されます。（p.28）

2 シャッターボタンを全押しする

ストロボが発光し、撮影されます。

3 ストロボを押し下げ、収納する

モードダイヤルが⚡（ストロボオフ）になっているときは、**⚡UP**ボタンを押しても内蔵ストロボはポップアップしません。

内蔵ストロボの赤目軽減機能

「赤目現象」とは、暗い中で人物のストロボ撮影をしたときに、目が赤く写る現象です。赤目現象は、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。周りが暗いときには瞳孔が開いているため、赤目現象が目立ちます。
赤目現象は完全に防ぐことはできませんが、軽減するには次のような対策が有効です。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用している場合には、広角側にして近距離で撮影する
- 赤目軽減発光機能のあるストロボを使う
- 外付けのストロボを使用する場合は、できるだけカメラから離す

このカメラには、内蔵ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。赤目軽減機能では、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

ピクチャーモード／SCN（シーン）モードで赤目軽減機能を使う場合は、⚡A👁／⚡👁を選択します。それ以外の撮影モードでは、⚡👁を選択します。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを使って撮影すると顔が陰にならないきれいな写真が撮れます。このようなストロボの使い方を「日中シンクロ」といいます。日中シンクロでは、ストロボを強制発光にして撮影します。

● **撮影の方法**

1 ストロボをポップアップし、ストロボモードが⚡になっていることを確認する（p.68）
2 ストロボの充電完了を確認する
3 撮影する

ストロボなし

ストロボ使用 日中シンクロ

背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で変えることができます。設定ステップが1/2 EVか1/3 EVかで、光量補正値は以下のようになります。

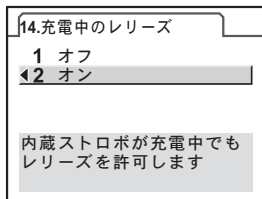
ステップ幅	光量補正値
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0

ステップ幅は、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.105）で設定します。

光量補正は､｢ストロボモード｣画面で電子ダイヤルを回して設定します。

- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、–側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

ストロボ充電中に撮影できるようにする

内蔵ストロボが充電中でも撮影できるようにすることができます。
「**C** カスタム2」メニュー（p.78）の「14. 充電中のレリーズ」で「オン」を選択します。初期設定では、ストロボ充電中は撮影できません。

再生する

撮影した画像を再生する

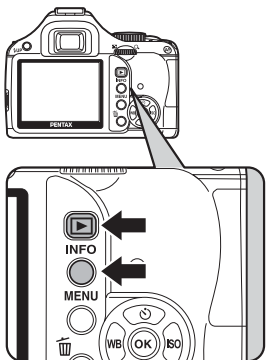
撮影した画像をカメラで再生する方法を説明します。

パソコンを使って再生するには、付属のソフトウェア「PENTAX PHOTO Browser 3」をご使用ください。ソフトウェアの使用方法は、「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」をご覧ください。

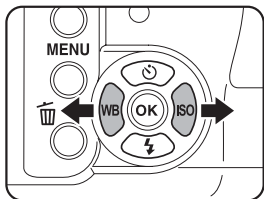
1 撮影後に、▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が画像モニターに表示されます。

画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示中の画像に関する撮影情報などの表示が切り替わります。

表示内容の詳細は、p.24～26をご覧ください。

2 十字キー（◀▶）を押す

◀：前の画像を表示

▶：次の画像を表示

再生モード機能の詳細は、「いろいろな再生」（p.166）をご覧ください。

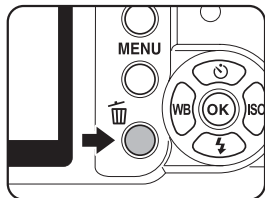
画像を消去する

画像を1つずつ消去します。

注意
- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ

RAW+で保存されている画像は、どの記録形式の画像を消去するか選択します。

JPEG消去	JPEG画像のみを消去します。
RAW消去	RAW画像のみを消去します。
RAW+JPEG消去	両形式とも消去します。

4 OKボタンを押す

画像が消去されます。

複数の画像をまとめて消去する場合は、「複数画像を消去する」（p.180）をご覧ください。

4 いろいろな撮影

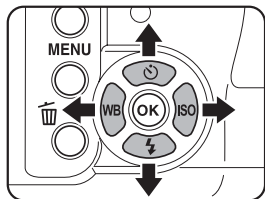
撮影の基本から応用まで、K-mでできる様々な撮影方法をご紹介します。

撮影関連機能の操作

撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「A撮影」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」（p.32）をご覧ください。

ダイレクトキーの設定項目

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。

キー	項目	機能	参照
▲	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／オートブラケットを選択します。	p.106 p.125 p.128 p.130
▼	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.65
◀	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.159
▶	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.87

ダイレクトキーの設定項目は、コントロールパネルで設定することもできます。（p.31）

撮影メニューの設定項目

「A撮影1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影モードでMENUボタンを押すと、「A撮影1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
A1	カスタムイメージ*	色味やコントラストなどの画像の仕上がり具合を設定します。	p.157
	デジタルフィルタ*	フィルタ効果をかけて撮影します。	p.132
	記録形式*	ファイルフォーマットを設定します。	p.152
	JPEG記録サイズ*	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	p.150
	JPEG画質*	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	p.151
	RAWファイル形式	RAWで記録した場合のファイルフォーマットを設定します。	p.153
	色空間	使用する色空間を設定します。	p.164
A2	AFモード*	オートフォーカスの方法を設定します。	p.111
	測光方式*	ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.101
	測距点切替	ファインダー内のどの部分にピントを合わせるかを設定します。	p.113
	クイックビュー	クイックビューの表示時間やヒストグラム、白とび黒つぶれ警告を表示するか否かを設定します。	p.222
A3	モードメモリ	電源を切ったとき、どの項目の設定を保存しておくかを設定します。	p.229
	ヘルプボタン	?（ヘルプ）ボタンを押したときに使用する機能を割り当てます。	p.154
	Shake Reduction*	手ぶれ補正機能を設定します。	p.121
	焦点距離入力	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に、レンズ焦点距離を設定します。	p.124

* コントロールパネルで設定することもできます。

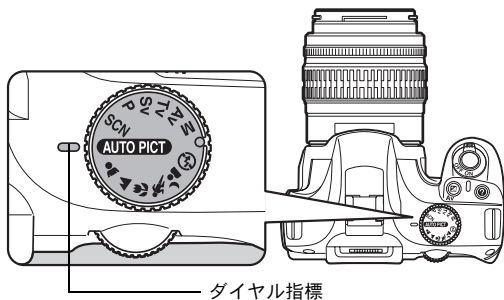
カスタムメニューの設定項目

「**C**カスタム1～4」メニューでは、一眼レフカメラの機能をフルに生かして撮影するための機能を設定します。

メニュー	項目	機能	参照
C1	1. 露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.105
	2. ISO感度ステップ	ISO感度の調整ステップを設定します。	p.87
	3. 測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.103
	4. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するか否かを設定します。	p.115
	5. 測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピント合わせ位置）を関連付けるか否かを設定します。	p.103
	6. ブラケット撮影順	オートブラケット撮影時の順序を設定します。	p.106
	7. シャドー補正	シャドー部分の階調を自動的に補正します。	—
C2	8. ホワイトバランス微調整	ホワイトバランスの微調整ができるように設定します。	p.162
	9. **AF**ボタンの機能	**AF**ボタンに割り当てる機能を設定します。	p.105 p.110
	10. リモコン時のAF	リモコン撮影するときにオートフォーカスするか否かを設定します。 「オン」にすると、リモコンでのレリーズ時に、AFを行った後シャッターがきれます。合焦しないとシャッターがきれません。「オフ」にすると、リモコンでのレリーズ時はAF動作を行いません。	p.129
	11. 長秒時NR	低速シャッター時にノイズリダクションをかけるか否かを設定します。	p.89
	12. 高感度NR	高感度撮影時にノイズリダクションをかけるか否かを設定します。かける場合は、3段階の調整ができます。	p.89
	13. **P**時の電子ダイヤル	**P**（プログラム）モード時に電子ダイヤルでプログラムシフトするか否かを設定します。	p.92
	14. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするか否かを設定します。	p.71

メニュー	項目	機能	参照
C3	15. ワイヤレス時の発光	内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方法を設定します。	p.144
	16. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスをストロボに変更するか否かを設定します。	p.160
	17. ISO感度常時表示	ファインダー内の撮影可能枚数表示をISO感度表示に変更するか否かを設定します。	—
	18. キャッチインフォーカス	「オン」に設定しておくと、マニュアルフォーカスレンズを取り付けて、AFモードを **AF.A** ／ **AF.S** にセットしたときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。	p.118
	19. 絞りリングの使用	レンズの絞りリングが **A** 位置以外のときに撮影可能にするか否かを設定します。	p.241
	20. 電源ランプ	電源ランプの明るさを設定します。	p.227
	21. ステータスの常時表示	画像モニターに常にステータススクリーンを表示するか否かを設定します。	p.221
C4	カスタムのリセット	「**C** カスタム1～3」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.233

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、撮影モードを切り替えます。

K-m には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

ピクチャーモード	AUTO PICT（オートピクチャー）／人物アイコン（人物）／風景アイコン（風景）／マクロアイコン（マクロ）／動体アイコン（動体）／夜景人物アイコン（夜景人物）／ストロボオフアイコン（ストロボオフ）
SCN（シーン）モード	夜景アイコン（夜景）／サーフ&スノーアイコン（サーフ＆スノー）／料理アイコン（料理）／夕景アイコン（夕景）／ステージライトアイコン（ステージライト）／キッズアイコン（キッズ）／ペットアイコン（ペット）／キャンドルライトアイコン（キャンドルライト）／美術館アイコン（美術館）／ナイトスナップアイコン（ナイトスナップ）
露出モード	**P**（プログラム）／**Sv**（感度優先）／**Tv**（シャッター優先）／**Av**（絞り優先）／**M**（マニュアル）

ピクチャーモード

AUTO PICT（オートピクチャー）モードで思うような画像が撮れない場合は、モードダイヤルで、（人物）／（風景）／（マクロ）／（動体）／（夜景人物）／（ストロボオフ）を選んでください。
各モードの特徴は次の通りです。

モード	特徴
AUTO PICT（オートピクチャー）	人物／風景／マクロ／動体／夜景人物モードおよびカメラの標準設定（標準モード）から最適な撮影モードを自動的に選択します。
（人物）	人物撮影に適しています。
（風景）	ピントが合って見える範囲を前後に深くし、木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。
（マクロ）	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
（動体）	スポーツなど動きのある被写体に適しています。
（夜景人物）	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。
（ストロボオフ）	ストロボを発光禁止にします。その他の設定はAUTO PICTの標準モードと同じです。

注意

では、ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（☞スローシンクロ（p.136））。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないようご注意ください。

SCNモード

モードダイヤルをSCN（シーン）に合わせると、次の10種類の撮影シーンから選択して撮影できます。

モード	特徴
（夜景）	夜景撮影に最適です。三脚などで固定して撮影してください。
（サーフ&スノー）	砂浜や雪山など背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。
（料理）	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。
（夕景）	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。
（ステージライト）	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。
（キッズ）	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。
（ペット）	動き回るペットを撮影するのに適しています。
（キャンドルライト）	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。
（美術館）	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。
（ナイトスナップ）	暗いところでスナップ写真を撮影するのに適しています。

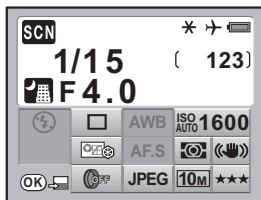
／／／／では、ストロボは発光禁止となります。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないようご注意ください。

撮影シーンを選ぶ

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

シーンモードのステータススクリーンになります。

2 OKボタンを押す

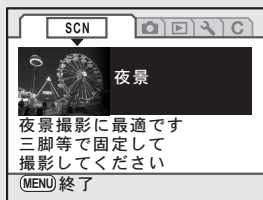
コントロールパネルが表示され、現在設定されている撮影シーンのアイコンが表示されます。

3 OKボタンを押す

シーンモード選択画面になります。

4 十字キー（▲▼◀▶）、または電子ダイヤルでシーンを選ぶ

5 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- モードダイヤルをSCNに合わせて**MENU**ボタンを押すと、「SCNシーン」メニューが表示されます。「SCNシーン」メニューでシーンを選択することもできます。
- ／の場合、記録サイズは2Mに固定されます。また、画像の保存に時間がかかることがあります。

露出モード

感度・シャッター速度・絞りを任意に変更し、撮影者の意図に合った画像を撮影したいときに使用します。

モード	特徴	参照
P（プログラム）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.89
Sv（感度優先）	任意に設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	
Tv（シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	
Av（絞り優先）	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	
M（マニュアル）	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った絵作りをしたいときに使います。	

露出を設定する

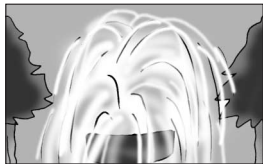
絞りとシャッター速度の効果について

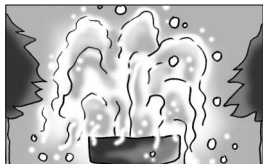
撮りたいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。被写体の適正露出を決めるシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選択することで、画像の撮影効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度を操作することで、作品の中の時間表現を操ることができます。目に見えない一瞬を捉えたり、時間の流れを一枚の画像に写し込むなど、シャッター速度の設定によって、様々な表現ができます。
Tv（シャッター優先）モードを利用します。

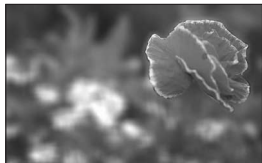
● シャッター速度を遅くする

シャッターが開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある画像になります。

● シャッター速度を速くする

動きのあるものでも動きを止めて撮影することができます。
また、シャッターをきるときにカメラぶれを起きにくくする効果があります。

絞りの効果

絞りを操作することで、ピントの合っている奥行き（被写界深度）を変化させることができます。作品の一点に注目させたり、奥行き感を与えるなど、作品のイメージを大きく変えることができます。
Av（絞り優先）モードを利用します。

● 絞りを開く（絞り値を小さくする）

ピントを合わせたものに比べて、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景のボケを大きくし、花だけを浮き上がらせる効果があります。

● 絞りを絞る（絞り値を大きくする）

ピントが合って見える範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景までピントが合っているように見えます。

絞りと被写界深度

絞りを操作することによって、被写界深度は次のように変化します。また、レンズや被写体との距離によっても被写界深度が変わります。

絞り	絞りを開く（絞り値を小さく）	←→	絞りを絞る（絞り値を大きく）
被写界深度	浅い	←→	深い
ピントが合って見える範囲	狭い	←→	広い
レンズの焦点距離	長くする（望遠）	←→	短くする（広角）
被写体までの距離	近い	←→	遠い

- レンズによる違いはありますが、K-mに35ミリカメラ用のレンズを使用した場合は、35ミリカメラに使用したときと比べて約1絞り程度、被写界深度が浅く（ピントが合って見える範囲が狭く）なります。
- 広角レンズほど、また被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。（ズームレンズなど、機構上、被写界深度の目盛が付いていないレンズもあります。）

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「AUTO（自動調整）」か、ISO 100～3200相当の間で設定できます。初期設定は「AUTO」です。

1 撮影モードで十字キー（▶）を押す

「ISO感度」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で、ISO感度を選択する

ISO感度
AUTO 100-800
AUTO
100
200
400
800
1600
3200
D-Range
OK 決定

3 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- 露出モードが**Sv**（感度優先）のときは、「ISO感度」画面でISO感度を設定できません。ステータススクリーンで電子ダイヤルを回して設定します。（p.92）
- SCN（シーン）モードの（ステージライト）／（ナイトスナップ）を選択したときは、ISO感度はAUTO（200～3200）になり、ダイナミックレンジ拡大（p.88）は常にオンになります。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「**C**カスタム2」メニューの「12. 高感度NR」でノイズを軽減できます。（p.89）
- ISO感度設定のステップを1 EVに固定するか、露出設定ステップ（p.105）に合わせるかを「**C**カスタム1」メニュー（p.78）の「2. ISO感度ステップ」で設定できます。

ISO AUTO時に自動調整する範囲を設定する

ISO感度を「AUTO」にしているときに、どの範囲でISO感度の自動調整をするかを設定する機能です。初期設定では「ISO 100-800」の範囲で自動調整します。

「ISO感度」画面で、電子ダイヤルを回してISO感度の上限を設定します。

露出モードが**M**（マニュアル）のときは、「AUTO」は選択できません。

撮影モードでISO感度を確認する

撮影モードで**OK**ボタンを押すと、設定されているISO感度がファインダー内に表示されます。

露出モードが**Sv**（感度優先）のときは、**OK**ボタンを押すと撮影可能枚数が表示されます。

ダイナミックレンジを拡大する

ダイナミックレンジとは、CCDの画素が明部から暗部でどのくらい階調表現できるかを表した比率のことで、大きいほど、明るい部分から暗い部分まできれいに表現できます。

ダイナミックレンジを拡大すると、表現できる階調の幅が広がり、白とびが起こりにくくなります。

「ISO感度」画面で、**Av**ボタンを押してオン／オフを切り替えます。オンにすると、ダイナミックレンジが200%に拡大され、ISO感度の範囲はISO 200～3200に狭まります。

ノイズリダクションについて

デジタルカメラの撮影では、長時間露光をしたり、ISO感度を高く設定していると画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。
ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減することができます。ただし、画像保存に時間がかかるようになります。

● **長秒時NR**
長時間露光したときにノイズリダクション処理をします。
「**C**カスタム2」メニュー（p.78）の「11. 長秒時NR」でオン／オフを設定します。

● **高感度NR**
ISO高感度時にノイズリダクション処理をします。
「**C**カスタム2」メニュー（p.78）の「12. 高感度NR」でオフ／微弱／弱／強を設定します。

露出モードを切り替える

このカメラには、5つの露出モードが用意されています。各露出モードで設定できる項目は以下の通りです。

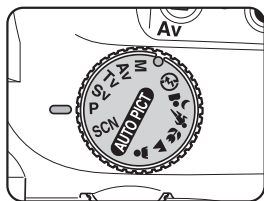
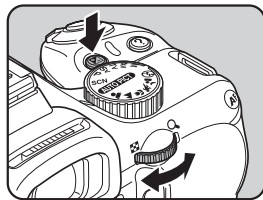
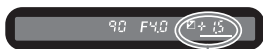
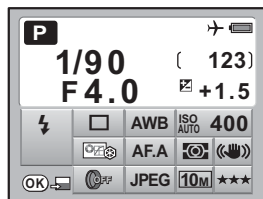
露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	参照
P（プログラム）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	○	△*	△*	○	p.90
Sv（感度優先）	任意に設定したISO感度に合わせて、シャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	○	×	×	Auto以外	p.92
Tv（シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。	○	○	×	○	p.94

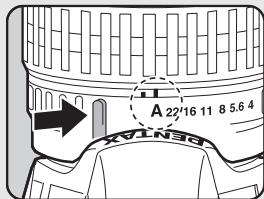
露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	参照
Av (絞り優先)	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。	○	×	○	○	p.96
M (マニュアル)	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った絵作りをしたいときに使います。	×	○	○	Auto以外	p.98

* 「**C**カスタム2」メニューの「13. **P** 時の電子ダイヤル」で、電子ダイヤルでシャッター速度と絞りが変更できるように設定できます。（p.92）

P（プログラム）モードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。
電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞りを変更することもできます。（p.92）

1 モードダイヤルを P に合わせる

2 露出を補正する場合は、☒Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回して、露出を調整する

ステータススクリーンとファインダー内に露出補正値が表示されます。
露出を調整中は、シャッター速度と絞り値も表示されます。

露出補正値

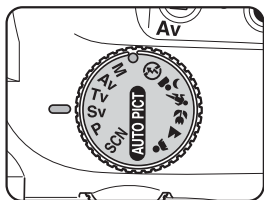
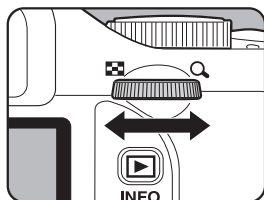
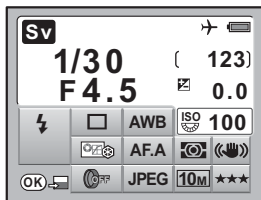
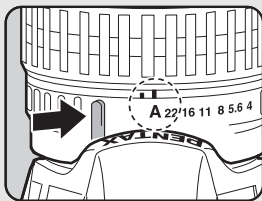
- 露出補正値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- 設定した条件では適正露出が得られない場合に、適正露出を得られるようにISO感度を自動調整できます。「ISO感度」画面で「AUTO」に設定します。（p.87）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、レンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

P モードと電子ダイヤル

P（プログラム）モードで電子ダイヤルを回したときの動作を、「**C** カスタム2」メニュー（p.78）の「13. **P** 時の電子ダイヤル」で設定します。

1	オフ	プログラム自動露出時の電子ダイヤルの操作を無効にします。
2	プログラムシフト	絞り値とシャッター速度の組み合わせが適正露出になるようシフトします。

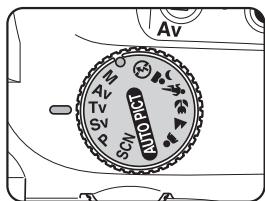
Sv（感度優先）モードを利用する

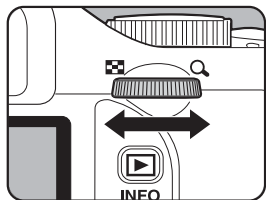
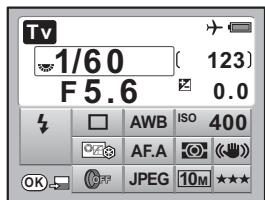
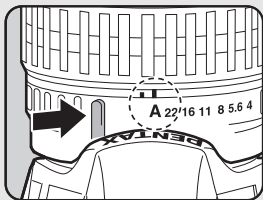
ISO感度を任意に設定して、被写体の明るさに応じた撮影ができます。設定したISO感度に合わせて、シャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。

1 **モードダイヤルをSvに合わせる**

2 **電子ダイヤルを回して ISO 感度を調整する**

ステータススクリーンとファインダー内にシャッター速度と絞り値、ISO感度が表示されます。

- ISO感度は、ISO 100～3200相当の間で設定できます。「AUTO（自動調整）」には設定できません。
- 露出を補正するときは、**Av**ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.104）
- ISO感度は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- 「ISO感度」画面でISO感度は設定できません。
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、レンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

Tv（シャッター優先）モードを利用する

シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。シャッター速度を速くして動きの速い被写体を止まっているように撮影したり、シャッター速度を遅くして躍動感を出したりできます。
なお、絞り値は使用するシャッター速度に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

☞絞りとシャッター速度の効果について（p.85）

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度を調整する

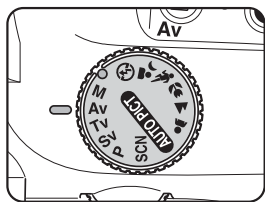
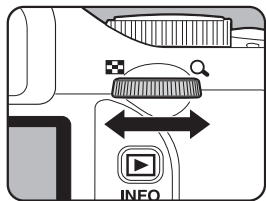
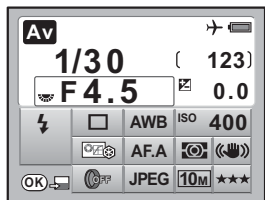
シャッター速度の設定可能範囲は1/4000～30秒です。

ステータススクリーンとファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

- 露出を補正するときは、⊠Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.104）
- シャッター速度は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは、「C カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に、適正露出を得られるようにISO感度を自動調整できます。「ISO感度」画面で「AUTO」に設定します。（p.87）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、レンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

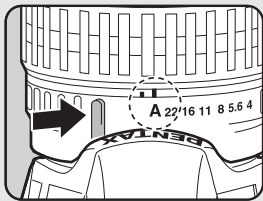
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影することができます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

☞絞りとシャッター速度の効果について（p.85）

1 **モードダイヤルをAvに合わせる**

2 **電子ダイヤルを回して絞り値を調整する**

ステータススクリーンとファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

- 露出を補正するときは、Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.104）
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に、適正露出を得られるようにISO感度を自動調整できます。「ISO感度」画面で「AUTO」に設定します。（p.87）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、レンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

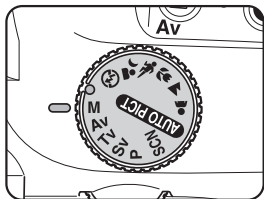
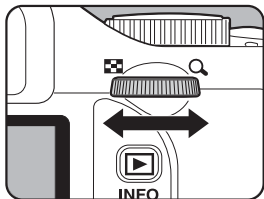
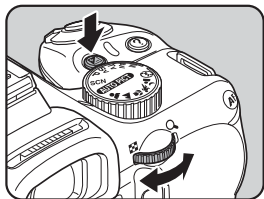
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞り値を開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。

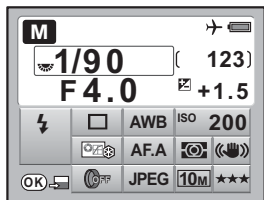
明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

M（マニュアル）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの絵作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

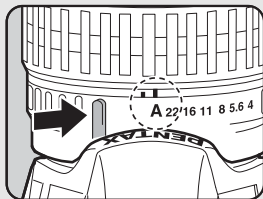
☞絞りとシャッター速度の効果について （p.85）

1　モードダイヤルをMに合わせる

2　電子ダイヤルを回してシャッター速度を調整する

3　⊠Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回して、絞り値を調整する

ステータススクリーンとファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

ステータススクリーンの表示では、シャッター速度と絞り値のうち、調整中の方に電子ダイヤルのマークが表示されます。

ファインダー内の表示では、シャッター速度と絞り値のうち、調整中の方のアンダーラインが点灯します。

シャッター速度または絞り値の調整中は、適正露出との差が数値（EV値）で表示されます。「0.0」の表示になったところが適正露出です。

適正露出との差

- ISO感度が「AUTO」の設定で露出モードを**M**（マニュアル）モードにした場合、ダイナミックレンジがオフのときはISO100相当、オンのときはISO200相当で作動します。
- シャッター速度と絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、レンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

露出警告

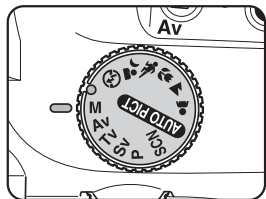
シャッター速度または絞り値の調整中に適正露出との差が「±3.0」以上になると、点滅表示します。

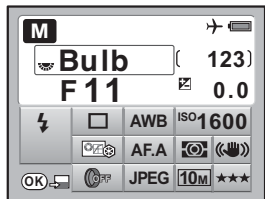
AEロックを利用する

「**C** カスタム2」メニューの「9. **AF** ボタンの機能」を「AEロック」に設定している場合、**AF** ボタンを押すと、露出値を記憶させることができます。（p.105）
例）シャッター速度が1/125秒で、絞りがF5.6の状態を **AF** ボタンで記憶した場合、電子ダイヤルでシャッター速度を1/30秒に変えると絞り値は自動的にF11へ変わります。

バルブ撮影を利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間シャッターを開いておく必要のあるときに利用します。
シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度をBulbにする

Bulb は、シャッター速度の最も遅い側（30秒の次）にあります。

バルブ撮影では、露出補正・連続撮影・露出ブラケットは設定できません。

- 絞り値を調整するときは、⊠Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.104）
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.105）
- バルブ撮影では、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。
- バルブ撮影をするときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用してください。
- リモコン撮影（p.128）を利用すると、リモコンのシャッターボタンを押している間、バルブ撮影をすることができます。
- シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画像のざらつきやムラ）を減らす処理をすることができます。「**C** カスタム2」メニューの「11. 長秒時NR」で設定します。（p.89）
- ISO感度が「AUTO」の設定でシャッター速度を **Bulb** にした場合、ダイナミックレンジがオフのときはISO100相当、オンのときはISO200相当で作動します。
- バルブ撮影時のISO感度の上限は1600です。

測光方式を選択する

ファインダーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。次の3つの測光方式が用意されています。初期設定は、◙（分割測光）です。

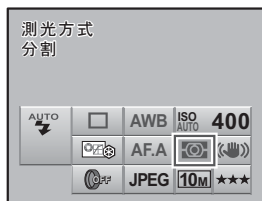
◙	分割測光	ファインダーを16分割して、それぞれの部分を測光し、最も適切と思われる露出を決めます。
⦾	中央重点測光	ファインダーの中央に重点を置きつつ、ファインダー全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
⊡	スポット測光	ファインダー中央の一部分だけを測光し、露出を決めます。

1 ステータススクリーンで OK ボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO** ボタンを押します。

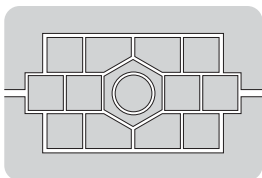
2 十字キー（▲▼◀▶）で「測光方式」を選択し、OKボタンを押す

「測光方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測光方式を選択する

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

分割測光を利用する

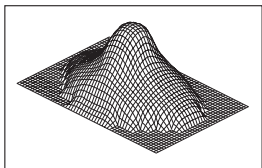
分割測光では、図のようにファインダーを16に分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正されます。

DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・A以外のレンズ、または絞りリングが**A**位置でないときには、分割測光は選択できません。

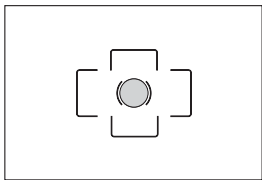
分割測光時に測距点と露出を関連付ける

「**C** カスタム1」メニュー（p.78）の「5. 測距点と露出の関連付」で、分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。初期設定は、「オフ」です。

1	オフ	露出値は、測距点の位置と関係なく設定されます。
2	オン	露出値は、測距点の位置に応じて調整されます。

中央重点測光を利用する

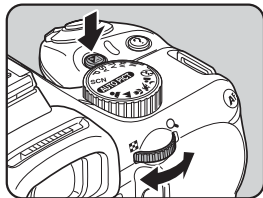
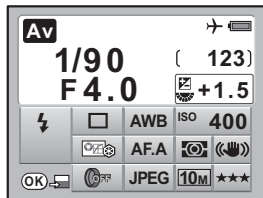
ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラまかせではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。中央重点測光では、図のように高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行われません。

スポット測光を利用する

スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能（p.105）と組み合わせて利用すると便利です。

測光時間を設定する

「**C** カスタム1」メニュー（p.78）の「3. 測光作動時間」で、測光タイマーの作動時間を3秒／10秒／30秒から設定できます。初期設定は、「10秒」です。

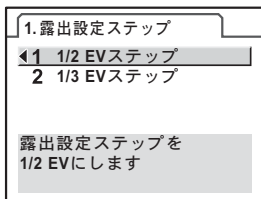
露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
設定ステップは、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップのいずれかを選びます。–2～+2（EV）の範囲で露出を補正できます。

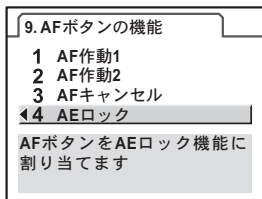
1 Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回して、補正値を設定する

補正中はステータススクリーンとファインダー内にが表示されます。

補正値

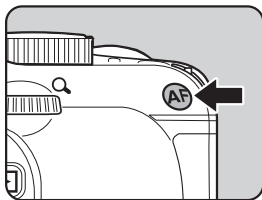
- 露出モードを**M**（マニュアル）モードに設定しているときは、露出補正はできません。
- 電源を切ったり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。

露出設定ステップを変更する

「**C** カスタム1」メニュー（p.78）の「1. 露出設定ステップ」で、露出設定のステップを1/2 EVか1/3 EVに設定できます。

撮影前の露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどにお使いください。

1 「Cカスタム2」メニューの「9. AFボタンの機能」で「AEロック」を選択する

2 AFボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。
AEロック中は、ステータススクリーンとファインダー内に✱が表示されます。
もう一度押すと解除されます。

- **AF** ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。**AF** ボタンから指を離しても、測光タイマーの半分～2倍の時間は露出が記憶されています。
- **AF** ボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないようにすることもできます。（p.215）
- シャッター速度が **Bulb** に設定されているときは、AE ロックは利用できません。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは､AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AE ロックした時点の明るさで画像は撮影されます。
- フォーカスロック時に露出を固定できます。「**C** カスタム1」メニューの「4. AFロック時のAE-L」で設定します。（p.115）

露出を自動で変えて撮る（オートブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して撮影できます。初期設定では、1枚目は補正なしの画像、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の画像、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の画像を撮影します。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

撮影順は「**C** カスタム1」メニュー（p.78）の「6. ブラケット撮影順」で設定します。

ブラケット撮影順	0 → – → +／– → 0 → +／+ → 0 → –／0 → + → –

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2　十字キー（▶）で 🖼（オートブラケット）を選ぶ

3　電子ダイヤルを回して露出補正値を設定する

「C カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」(p.105) で設定したステップ幅によって、下記の露出補正値が設定できます。

ステップ幅	ブラケット幅
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0

4　OK ボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク ● が点灯し、ステータススクリーンとファインダー内に露出補正値が表示されます。

6　シャッターボタンを全押しする

「C カスタム1」メニューの「6. ブラケット撮影順」で設定した順番に補正して、3枚の画像が連続撮影されます。

- AF モードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマー（p.103）の2倍（初期設定：約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影することができます。この場合、各コマごとにピント合わせが行われます。測光タイマーの2倍を過ぎると、1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボ、または外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続して撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- シャッター速度を**Bulb**に設定しているときは、露出ブラケット撮影はできません。

オーバー方向またはアンダー方向のみの画像を撮るには

露出補正機能（p.104）と組み合わせることで、オーバー方向、またはアンダー方向のみのオートブラケット撮影ができます。どちらの場合も、露出補正値を中心としたオートブラケット撮影が行われます。

ピントを合わせる

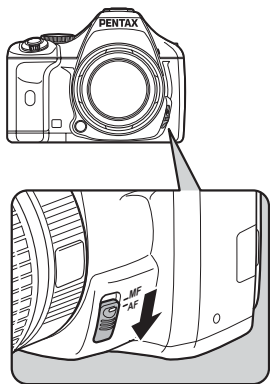
ピント合わせの方法には、以下の2通りがあります。

AF	オートフォーカス	シャッターボタンを半押しにすると自動的にピントを合わせます。
MF	マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。

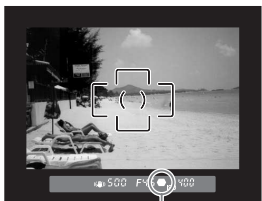
オートフォーカスを利用する

オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うとその位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と、半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニュアスモード）、**AF.S**と**AF.C**を自動で切り替える**AF.A**（オート）があります。初期設定は、**AF.A**です。

☞ AFモードを設定する（p.111）

1 **フォーカスモードレバーをAFに合わせる**

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（点滅しているときは、ピントは合っていません）。

☞ オートフォーカスが苦手なもの（p.63）

合焦マーク

AFボタンを使ってピントを合わせる

AF ボタンを押したときにピント合わせをするように設定できます。シャッターボタンの半押しによるオートフォーカス操作がわずらわしい場合などにご利用ください。

1 「Cカスタム2」メニューの「9. AFボタンの機能」で「AF作動1」または「AF作動2」を選択する

AF作動1：**AF** ボタンとシャッターボタンのどちらでもオートフォーカスができます。

AF作動2：シャッターボタン半押しを無効にし、**AF** ボタンを押したときだけオートフォーカスをします。

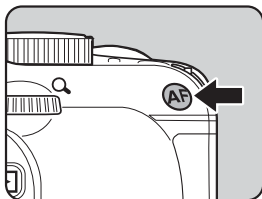
9. AFボタンの機能

1 AF作動1
2 AF作動2
3 AFキャンセル
4 AEロック

ボタンを押すとAFが
作動します

2 AFボタンを押す

ピント合わせが行われます。

メモ

「AFキャンセル」を選択すると、**AF**ボタンを押している間は、ファインダー内に**MF**が表示され、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません（**AF**ボタンを離せば、通常のAF撮影に戻ります）。

AFモードを設定する

オートフォーカスの方法を以下の3つから選択できます。初期設定は、**AF.A**（オート）です。

AF.A	オート	被写体の状況に応じて**AF.S**と**AF.C**を自動で切り替えます。
AF.S	シングルモード	シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置にピントを固定します。
AF.C	コンティニュアスモード	シャッターボタンを半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターがきれます。

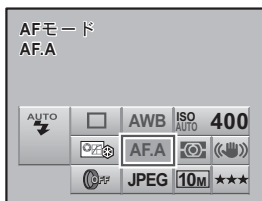
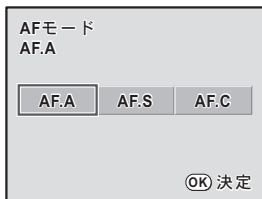
1 フォーカスモードレバーをAFに合わせる

2 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

3 十字キー（▲▼◀▶）で「AF モード」を選択し、OK ボタンを押す

「AFモード」画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でAF モードを選択する

5 OK ボタンを押す

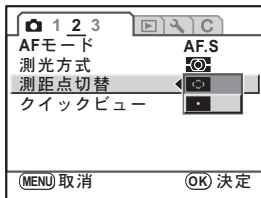
ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- ピクチャーモード／SCN（シーン）モードでは、AFモードを変更できません。
- **AF.C** が設定できるのは、モードダイヤルを **P**／**Sv**／**Tv**／**Av**／**M** のいずれかに合わせた場合です。ピクチャーモードの（動体）および SCN（シーン）モードの（ステージライト）／（キッズ）／（ペット）／（ナイトスナップ）では、**AF.C** に固定されます。
- **AF.C** のときには、合焦後もピントが固定されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。
- **AF.S** では、ファインダー内の合焦マーク●が点灯している間はピントが固定（フォーカスロック）されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。
- **AF.S** に設定されているときは、ピントが合わない限りシャッターがきれません。被写体に近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手なもの（p.63）の場合は、マニュアルでピントを調整してください。（p.116）
- **AF.S** では、被写体が暗くて内蔵ストロボが発光可能な状態であれば、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵ストロボがマルチ発光され、ピントが合いやすくなります。
- **AF.A**／**AF.C** では、シャッターボタンの半押しや **AF** ボタンでピント合わせを行っているときにカメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測を行います。
- DAレンズのクイックシフト•フォーカス•システムを利用する場合は、必ず **AF.S** に設定してください。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

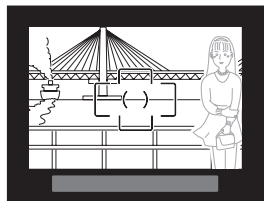
ファインダーのどの位置にピントを合わせるかを設定できます。初期設定は、[ワイドアイコン]（ワイド）です。

[ワイドアイコン]	ワイド	自動的に測距点を選択してピントを合わせます。
[スポットアイコン]	スポット	中央にピントを合わせます。

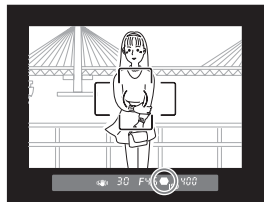
「[カメラアイコン]撮影2」メニュー（p.77）の「測距点切替」で設定します。

DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は[スポットアイコン]（スポット）に固定されます。

ピントを固定する（フォーカスロック）

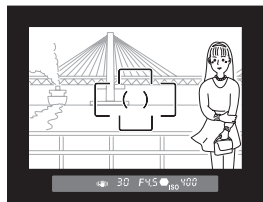
オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものがAFエリアの範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合は、**AF.S**（シングルモード）にして、いったんAFエリアの範囲内で被写体にピントを合わせて固定（フォーカスロック）し、画像の構図を変えて撮影してください。

1 撮りたい画像の構図をファインダーで確認する

（例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

2 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（点滅しているときは、ピントは合っていません）。

3 フォーカスロックする

シャッターボタンを半押しにしたままにすると、そのままフォーカスロックされます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻す

- 合焦マークが点灯している間は、フォーカスロックされます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.215）
- AFモードが**AF.C**（コンティニュアスモード）のときと、ピクチャーモードの（動体）および**SCN**（シーン）モードの（ステージライト）／（キッズ）／（ペット）／（ナイトスナップ）に設定されているときは、フォーカスロックできません。これらの場合は、シャッターをきるまでカメラがピントを追い続けます（コンティニュアスオートフォーカス）。

フォーカスロック時に露出値も固定する

「**C** カスタム1」メニュー（p.78）の「4. AFロック時のAE-L」を使ってフォーカスロック時に露出値を固定できます。初期設定では、フォーカスロック時に露出値は固定されません。

1	オフ	フォーカスロック時に露出値を固定しません。
2	オン	フォーカスロック時に露出値を固定します。

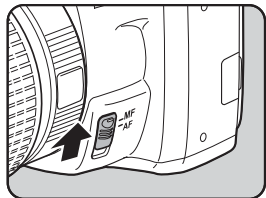
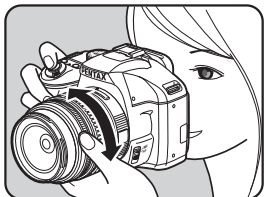
4. AFロック時のAE-L
1 オフ
2 オン
フォーカスロック時には
AEロックを行いません

マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダーのマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

マニュアルフォーカスでもピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。
合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

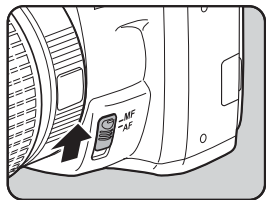
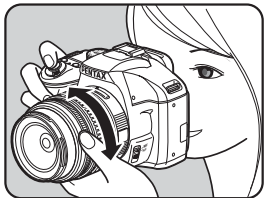
1 フォーカスモードレバーをMF の位置に合わせる

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

合焦マーク

- 被写体がオートフォーカスの苦手なもの（p.63）に該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.215）

マット面を利用する

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1　フォーカスモードレバーをMFに合わせる

2　ファインダーをのぞきながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す

キャッチインフォーカス撮影について

「**C** カスタム3」メニュー（p.79）の「18. キャッチインフォーカス」を「オン」に設定しておくと、下記の条件にあてはまるレンズを取り付けて、AFモードを **AF.A**／**AF.S** に設定したときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。

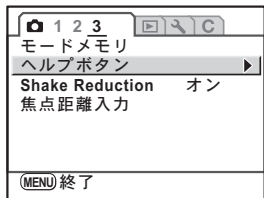
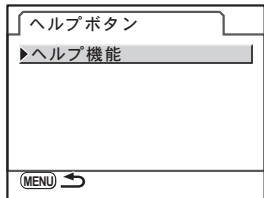
- マニュアルフォーカスレンズ
- レンズ側で **AF**／**MF** の切り替えが可能なDA・FAレンズ（撮影前にレンズ側も **MF** に切り替えておきます）

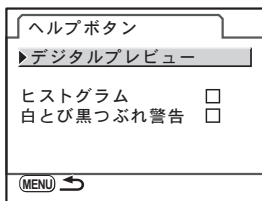
● **撮影方法**

1 カメラにレンズを取り付ける
2 フォーカスモードレバーを **AF** に合わせる
3 AFモードを **AF.A**／**AF.S** に設定する
4 写したいものが通りそうな位置に、ピントを合わせる
5 シャッターボタンを押しきった状態にする
写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

撮影前に構図／露出／ピントを確認する（デジタルプレビュー）

プレビュー機能を利用すると、撮影するときにピントが合って見える範囲（被写界深度）・構図・露出・ピントなどを撮影前に確認することができます。
まず、❓（ヘルプ）ボタンにデジタルプレビューの機能を割り当てます。

1 **「📷 撮影3」メニューの「ヘルプボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で「デジタルプレビュー」を選択し、OKボタンを押す**

4 十字キー（▲▼）で「ヒストグラム」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

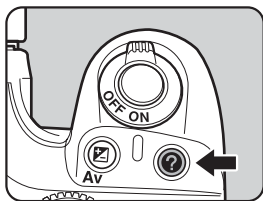
6 十字キー（▲▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

8 MENUボタンを2回押す

?ボタンにデジタルプレビューの機能が割り当てられます。
ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

9 撮りたいものにピントを合わせてから、ファインダーで構図を決めて?ボタンを押す

画像モニターにプレビュー中を示すアイコン（⦿）が表示され、構図・露出・ピントを確認できます。
シャッターボタンを半押しするとデジタルプレビューが終了し、カメラが合焦動作に入ります。

- デジタルプレビューの表示時間は最長60秒です。
- デジタルプレビュー中に、電子ダイヤルで拡大表示ができます。（p.167）

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）を使うと手ぶれを防いで撮影することができます。

手ぶれ補正について

手ぶれ補正機能とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。手ぶれ補正機能をオンにした場合、シャッター速度で約4段階程度の効果があります。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。
- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

手ぶれした写真

手ぶれ補正された写真

注意
- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

手ぶれ補正機能とレンズ焦点距離について

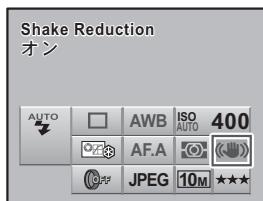
手ぶれ補正機能は、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。ご使用のレンズがDA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズの場合は、手ぶれ補正機能を使用するときにレンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されます。
それ以外のレンズで手ぶれ補正機能を使用する場合は、レンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されません。この場合は、「焦点距離入力」画面が表示されるので、レンズ焦点距離を設定してください。
☞レンズ焦点距離を設定する（p.124）

手ぶれ補正機能を有効にする

1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

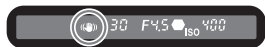
2 十字キー（▲▼◀▶）で「Shake Reduction」を選択し、OKボタンを押す

「Shake Reduction」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で「オン」を選択する

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

5 カメラを被写体に向け、シャッターボタンを半押しする

ファインダー内に((✋))が表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

- 三脚を使用する場合は、必ず手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- 次の条件では、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - バルブ撮影
  - 外付けストロボをワイヤレスモードで使用するとき

メモ

- レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.122）を使用している場合は、「焦点距離入力」画面が表示されます。「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。
- 手ぶれ補正機能を使わない場合は、Shake Reductionを「オフ」にします。
- カメラの電源を入れた直後およびオートパワーオフからの復帰直後（それぞれ約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正の効果を十分に得るには、手ぶれ補正機能の安定を待って、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に((✋))が点灯すれば撮影可能です。
- *K-m* に装着できる弊社製レンズであれば、種類を問わず、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、絞り **A**（オート）位置のあるレンズを絞り **A** 位置以外で使用したり、**A** 位置のないレンズを装着した場合、「**C** カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しませんので、あらかじめ設定してください。なお、その場合は機能制限がありますので、「「19. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.241）もあわせてご覧ください。

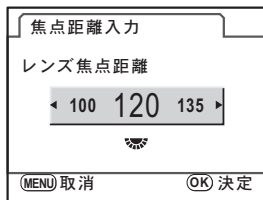
レンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.122）を使用している場合は、Shake Reductionの設定が「オン」の状態でカメラの電源を入れると、「焦点距離入力」画面が表示されます。
「焦点距離入力」画面で、レンズ焦点距離を設定します。

- レンズ焦点距離などの情報が取得できるレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面は表示されません。
- 絞り **A** 位置がないレンズの場合および絞りを **A** 位置から外して使用する場合は、「**C** カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。（p.241）

1 十字キー（◀▶）または電子ダイヤルでレンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離は次の34種類から選択できます。（初期設定：35）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	45	50	55	65	70	75	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						

- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合も同様に、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。
- 手ぶれ補正の効果は、焦点距離の情報だけでなく撮影距離にも影響されます。近距離での撮影には十分な効果が現れない場合があります。

2 OK ボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

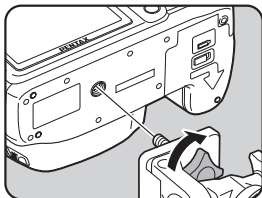
メモ

レンズ焦点距離の設定を変更する場合は、「📷 撮影3」メニュー（p.77）の「焦点距離入力」で設定します。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマー撮影には、⏲と⏲2sの2種類があります。

⏲	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
⏲2s	シャッターボタンを押すとすぐにミラーがアップし、約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で⏲を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で⏲／⏲2sを選ぶ

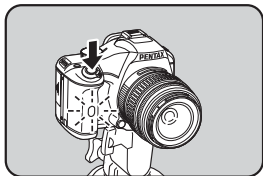
5 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

6 撮りたいものが画面に入っているかファインダーで確認し、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

7 シャッターボタンを全押しする

⏲の場合、カメラ正面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

⏲2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマーの電子音が鳴らないように設定できます。（p.215）
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.105）をご利用ください。露出モードを**M**（マニュアル）に設定している場合（p.98）はファインダーから入る光は影響しません。
- セルフタイマー撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、⏲／⏲2s以外のモードに切り替えてください。なお「📷撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.229）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。
- ⏲／⏲2sに設定すると、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。

ミラーアップ機能を使う

三脚などに固定して撮影する場合、リモコン（別売品）などを使ってもまだカメラぶれが気になるときは、ミラーアップ機能を使う方法があります。
2秒セルフタイマーを使うと、シャッターボタンを押してミラーがアップしてから2秒後にシャッターがきれるので、ミラーアップ時の振動を避けることができます。
ミラーアップ機能を使って撮影するときは、以下の手順で操作してください。

1 カメラを三脚などで固定する

2 ドライブモードで2sを選ぶ

p.125の手順1～5をご覧ください。

3 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

4 シャッターボタンを全押しする

ミラーがアップした後、2秒後にシャッターがきれます。露出値はミラーアップ直前の値でAEロックされます。

リモコン（別売品）を使って撮影する

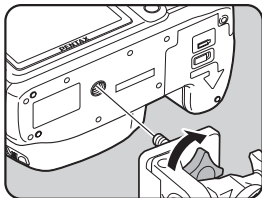
別売のリモコンFを使うと、カメラから離れた所から撮影することができます。リモコン撮影には、（即レリーズ）と（3秒後レリーズ）の2種類があります。

	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
3s	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でを選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／3sを選ぶ

セルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態であることをお知らせします。

5 OKボタンを押す

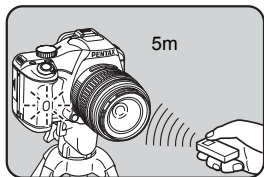
ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク が点灯します。

7 リモコンをカメラ正面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約5mです。
 の場合、シャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。

 の場合、シャッターボタンを押してから3秒後にシャッターがきれます。
撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「C カスタム2」メニュー（p.78）の「10. リモコン時のAF」で、リモコンでピント合わせができるように設定することもできます。
- リモコン撮影時は、ストロボモードを （自動発光）に設定しても、自動でポップアップしません。ストロボを使用したいときはあらかじめ手動でポップアップしてください。（p.68）
- リモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.105）をご利用ください。露出モードを**M**（マニュアル）に設定している場合（p.98）はファインダーから入る光は影響しません。
- リモコン撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、 ／ 以外のモードに切り替えてください。なお「 撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.229）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。
- ／ に設定されていると、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- リモコン用電池は、約 30,000 回リモコン送信することができます。電池の交換（有料）については当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。

連続撮影をする

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。
連続撮影には、カメラのバッファメモリがいっぱいになるまで最速で連続撮影を行う（連続撮影（Hi））と、撮影間隔を一定に保って連続撮影する（連続撮影（Lo））の2種類があります。

連続撮影（Hi）	10MのJPEG画像（画質★★★）の場合、約3.5コマ/秒で、5コマまで連続撮影します。カメラのバッファメモリがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
連続撮影（Lo）	10MのJPEG画像（画質★★★）の場合、約1.1コマ/秒で、カードの空き容量まで連続撮影します。

メモ
記録形式がRAW形式の場合、（連続撮影（Hi））は最大4コマ、（連続撮影（Lo））は最大7コマまで連続撮影できます。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選ぶ

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

6 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッターボタンから指を離すと、連続撮影を終了します。

- AFモードが**AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、最初の合焦位置にピントが固定され、等間隔に撮影されます。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、「**C**カスタム2」メニューの「14. 充電中のレリーズ」で、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。（p.71）
- 連続撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、連続撮影アイコン以外のモードに切り替えてください。なお「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.229）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。

デジタルフィルタを使って撮影する

撮影時にフィルタをかけて撮影することができます。
以下のフィルタがあります。

フィルタ名	効果	パラメータ
トイカメラ	おもちゃのカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：+1／+2／+3
		ぼかし：+1／+2／+3
		トーンブレイク：赤／緑／青
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	+1／+2／+3
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像を撮影します。	+1／+2／+3
クロス	夜景や水面の光の輝きなど､ハイライト部にクロス状の光条を表現し､キラキラした雰囲気を強調します。	個数：少／中／多
		大きさ：短／中／長
		角度：0／30／45／60°
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	ブルー／アンバー：-2／-1／オフ／+1／+2
		白枠：細／中／太
色抽出	特定の色だけを抽出し､他の部分を白黒で撮影します。	赤／マゼンタ／シアン／青／緑／イエロー

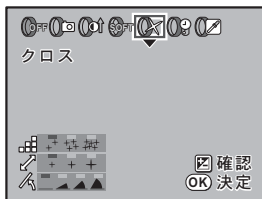
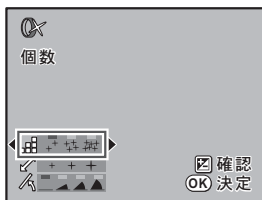
- デジタルフィルタを使用した場合、記録形式は常にJPEGになります。
- フィルタによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。
- デジタルフィルタを使用した場合、ドライブモードの連続撮影／オートブラケット撮影はできません。

1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「デジタルフィルタ」を選択し、OKボタンを押す

フィルタ選択画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でフィルタを選択する

4 十字キー（▲▼）でパラメータを選択し、十字キー（◀▶）でパラメータの値を調整する

5 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- デジタルフィルタ撮影を終了するときは、手順3で「フィルターオフ」を選択します。
- 撮影後にデジタルフィルタで加工することもできます。（p.192）

5 ストロボの活用

K-mの内蔵ストロボの詳細、および外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tv（シャッター優先）モードでストロボを使う

- 動きのあるものを撮影するときに、ブレの効果を変えてストロボ撮影ができます。
- 1/180秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

Av（絞り優先）モードでストロボを使う

- ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は1/180秒から低速側はカメラぶれをしにくいシャッター速度（p.58）まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用のレンズの焦点距離によって変化します。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、（夜景人物）モードや、**Tv**（シャッター優先）モードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。

- スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、手ぶれ補正機能を使用するか、手ぶれ補正機能をオフにしてカメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- スローシンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

Tv（シャッター優先）モードを使う場合

1 モードダイヤルをTvに合わせる

Tv（シャッター優先）モードになります。

2 電子ダイヤルでシャッター速度を設定する

シャッター速度を設定したときに絞り値が点滅していると、背景が適正露出になりません。絞り値が点滅しないようにシャッター速度を調整してください。

3 ϟUPボタンを押す

ストロボが上がります。

4 撮影する

M（マニュアル）モードを使う場合

1 モードダイヤルをMに合わせる

M（マニュアル）モードになります。

2 適正露出になるように、シャッター速度と絞り値を設定する

シャッター速度は1/180秒以下に設定します。

3 ϟUPボタンを押す

ストロボが上がります。
M（マニュアル）モードでは、撮影前のどの時点でストロボを上げても構いません。

4 撮影する

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影の距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100	約11
ISO 200	約15.6
ISO 400	約22
ISO 800	約31.1
ISO 1600	約44
ISO 3200	約62.2

使用絞りから撮影距離を算出する方法

使用絞りが決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。
遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷使用絞り
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷5*
* 上記の「5」という数値は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

例）ISO感度が「ISO 100」の場合、絞り値F2.8で使用すると、

L1＝11÷2.8＝約3.9（m）

L2＝3.9÷5＝約0.8（m）

すなわち、約0.8～3.9mの範囲でストロボが使えます。
ただし、このカメラの内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

使用絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度が「ISO 100」の場合、撮影距離3.5mで計算すると、

F＝11÷3.5＝3.1

上記のように計算で出た数字が「3.1」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2.8」に設定します。

レンズと内蔵ストロボの適合

K-m と組み合わせるレンズによっては、レンズフードなしで取り付けても、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、使用できても条件付きになる場合があります。
下記の一覧表にないDA・DA L・D FA・FA J・FAレンズは、問題なく使用できます。
※一覧表はいずれもフードなしの評価です。

ケラレが発生するので使用不可

レンズ名
DAフィッシュアイ 10-17mm F3.5-4.5ED (IF)
DA12-24mm F4ED AL
DA14mm F2.8ED (IF)
FA★300mm F2.8ED (IF)
FA★600mm F4ED (IF)
FA★250-600mm F5.6ED (IF)

条件付きで使用可能

レンズ名	制限
Fフィッシュアイ 17-28mm F3.5-4.5	焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA16-45mm F4ED AL	焦点距離が28mm未満のとき、および焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
DA★16-50mm F2.8ED AL (IF) SDM	焦点距離が20mm以下の場合と、35mmで撮影距離が1.5m未満ではケラレが発生します。
DA17-70mmF4AL (IF) SDM	焦点距離が24mm未満のとき、および焦点距離が24mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生します。
DA18-250mm F3.5-6.3ED AL (IF)	焦点距離が35mm未満ではケラレが発生します。
FA★28-70mm F2.8AL	焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FAソフト28mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。
FAソフト85mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売品）を使って撮影する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、ストロボの機能に応じて様々なストロボ撮影ができます。下表を参考にしてご使用ください。

（○：使用可　△：条件付使用可　×：使用不可）

ストロボ / カメラの機能	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○
ストロボ自動発光ができる	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○
P（プログラム）／**Tv**（シャッター優先）モードで絞りが自動セットされる	○	○	○
ファインダー内でオートチェックできる	×	×	×
P-TTLオートストロボ撮影ができる（連動ISO感度：ISO 100～3200）	○*1	○*1	○*1
スローシンクロ撮影ができる	○	○	○
ストロボ光量補正ができる	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	×
後幕シンクロ撮影ができる*2	○	○	×
光量比制御モードで撮影ができる	△*3	○	△*4
スレーブ機能が働く	×	○	×
マルチストロボが働く	×	×	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×
ワイヤレスで撮影ができる	△*4	○*5	×

*1 DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可能。
*2 シャッター速度は、1/90秒以下に限定。
*3 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせたとき、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能。
*4 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた場合のみ可能。
*5 AF540FGZ／AF360FGZが複数台、または1台と内蔵ストロボと組み合わせることが必要。

AF360FGZのLCDパネル表示について

AF360FGZの場合、ストロボ単体ではFORMATサイズを「DIGITAL」に設定する機能はありませんが、デジタル一眼レフカメラと組み合わせることで、画角差から生じる35ミリフィルムカメラとK-mとの焦点距離の差を自動で換算表示します。(DA・DA L・D FA・FAJ・FA・Fレンズ使用時)。
換算表示はK-mの測光タイマーがオンの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります(測光タイマーがオフになると、35ミリ判表示に戻ります)。

使用レンズの焦点距離		85mm	77mm	50mm	35mm	28mm	24mm	20mm	18mm
AF360FGZ LCDパネル	測光タイマーオフ	85mm		70mm	50mm	35mm		28mm	24mm※
	測光タイマーオン	58mm		48mm	34mm	24mm		19mm	16mm※

※ワイドパネル使用

P-TTLオートで使う

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合、「P-TTLオート」で撮影できます。本発光前に小光量を発光して、被写体の状態(距離・輝度・輝度差・逆光など)をカメラ側の16分割測光センサーで確認し、その情報を元に本発光の光量を調整しますので、通常のTTLオートよりさらに正確な露出でストロボ撮影ができます。

1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける
2 カメラと外付けストロボの電源を入れる
3 外付けストロボの発光モードをP-TTLオートに設定する
4 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

- P-TTLオート撮影は、AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合のみ可能です。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- ストロボモードが AUTO／ϟ◎の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、ϟUPボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、p.146の方法で接続してください。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ／AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。

AF540FGZ／AF360FGZをカメラに取り付けて撮影する場合

1. カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を取り付ける
2. カメラの露出モードを**Tv**（シャッター優先）または**M**（マニュアル）モードに設定する
3. カメラと外付けストロボの電源を入れる
4. 外付けストロボのシンクロモードを HS ϟ （ハイスピードシンクロ）に設定する
5. 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- シャッター速度が**Bulb**に設定されている場合、ハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）同士の組み合わせ、または内蔵ストロボとの組み合わせで、ストロボ同士をコードで接続しないでP-TTL撮影することができます。

- 外付けストロボの電源スイッチはWIRELESSに合わせてください。
- ハイスピードシンクロモードをワイヤレスで使用するには、AF540FGZ ／AF360FGZが2台以上必要です。内蔵ストロボとの組み合わせでは利用できません。
- カメラから離す側の外付けストロボのワイヤレスモードは、SLAVE に設定してください。

外付けストロボのチャンネルをカメラに登録する

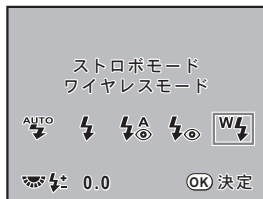
まず外付けストロボのチャンネルをカメラに登録します。

1 外付けストロボのチャンネルを設定する
2 カメラのホットシューに外付けストロボを取り付ける
3 カメラと外付けストロボの電源を入れ、シャッターボタンを半押しする
外付けストロボと同じチャンネルが内蔵ストロボに設定されます。

- W⚡モードを設定すると、ファインダー内に内蔵ストロボの現在のチャンネルが10秒間表示されます。
- 使用するすべてのストロボは、必ず同じチャンネルに合わせてください。外付けストロボのチャンネルの設定方法は、AF540FGZ／AF360FGZの説明書をご覧ください。

内蔵ストロボをワイヤレスモードにする

外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合は、カメラのストロボモードをワイヤレスモードに設定します。

1 十字キー（▼）を押す
「ストロボモード」画面が表示されます。
2 十字キー（◀▶）でW⚡モードを選ぶ
OKボタンを押すと、撮影できる状態になります。

ドライブモードが3sの場合、またはレンズの絞りが**A**位置以外の場合は、W⚡はグレー表示となり選択できません。

● **内蔵ストロボの発光方式を変更する**

内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方式を変更することができます。「**C**カスタム3」メニュー（p.79）の「15. ワイヤレス時の発光」で設定します。

1	オン	内蔵ストロボを本発光させます。
2	オフ	内蔵ストロボをコントロール発光させます。

内蔵ストロボでHS⚡（ハイスピードシンクロ）は利用できません。

ワイヤレス撮影のしかた

● **内蔵ストロボと外付けストロボの組み合わせで撮影する場合**

1 カメラとチャンネルを合わせた外付けストロボを、発光させたい位置に固定する
2 カメラのストロボモードを W⚡ に設定し、内蔵ストロボをポップアップさせる
3 両方のストロボが充電完了していることを確認して、撮影する

● **外付けストロボ同士の組み合わせで撮影する場合**

1 カメラに取り付けた側のストロボのワイヤレスモードを、MASTERまたはCONTROLに設定する

MASTER（マスター）	カメラ側のストロボ、離して使う側のストロボの両方を本発光させる場合
CONTROL（コントロール）	カメラ側のストロボはコントロール発光のみで、本発光はさせない場合

2 カメラから離して使う側のストロボのワイヤレスモードを SLAVEに、チャンネルをカメラ側のストロボと同じチャンネルに設定し、発光させたい位置に固定する
3 両方のストロボが充電完了していることを確認して、撮影する

ワイヤレスモードでは、手ぶれ補正機能は働きません。

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を使用してワイヤレスで撮影するときには、ストロボが発光されるまでにストロボ間で以下のような情報伝達が行われています。

シャッターボタンを全押しする
↓

1 カメラ側のストロボが小光量のコントロール発光（カメラ側の発光モードを伝達）
2 カメラから離した方のストロボが小光量のコントロール発光（被写体の状態を確認）
3 カメラ側のストロボが小光量のコントロール発光（発光量をカメラから離した方のストロボに伝達）
※ HS⚡（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後カメラ側のストロボがもう一度小発光します。
4 カメラから離した方のストロボが本発光

カメラ側の外付けストロボのワイヤレスモードがMASTER、または内蔵ストロボの「15. ワイヤレス時の発光」（p.144）が「オン」の場合は、すべてのストロボが同時に本発光します。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能が使用できます。ストロボの種類によって使用できない場合や使用条件がありますので、p.140の一覧表をご覧ください。

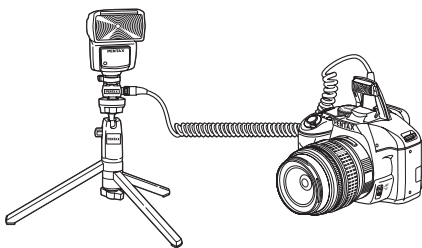
- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。（p.69）
- 内蔵ストロボの赤目軽減機能と外付けストロボのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいます。スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボと外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

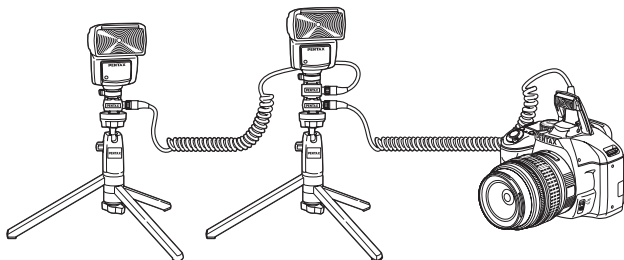
内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

AF200FGのように、ワイヤレスモードを持たないストロボと内蔵ストロボを同時に使う場合は、図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプターFG（別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプターF（別売）を付け、延長コードF5P（別売）で接続します。オフカメラシューアダプターFの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。
なお、内蔵ストロボと組み合わせて使用できるのは、P-TTLオート対応ストロボのみです。

内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

ストロボの多灯撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボ複数台と内蔵ストロボを組み合わせて使用できます。AF540FGZをつなぐ場合は、ストロボ本体の延長コード接続用端子が使用できます。AF360FGZ／AF200FGをつなぐ場合は下の図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（別売）にオフカメラシューアダプターF（別売）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターFと、延長コードF5P（別売）で接続します。
接続方法については、ストロボの説明書もご覧ください。

注意
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGのご使用をお勧めします。

2台以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台、またはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせることで、複数のストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。

- AF200FGを使用する場合は、AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせる必要があります。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。弊社製オートストロボのご使用をお勧めします。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する（p.146）
2 外付けストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定する
3 カメラの露出モードを**P**／**Tv**／**Av**／**M**モードに設定する
4 外付けストロボと内蔵ストロボの充電完了を確認し、撮影する

- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが「2」に対して、それ以外のストロボが「1」、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが「2」に対して内蔵ストロボが「1」になります。
- 外付けストロボを複数台、または外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

6 撮影のための設定

撮影した画像の保存形式などの設定方法をご紹介します。

画像の保存形式を設定する

JPEG記録サイズを設定する

JPEG画像の記録サイズを10M／6M／2Mから選択することができます。画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。また、画像の容量は、設定している「JPEG画質」によっても異なります。初期設定は、10Mです。

記録サイズ	画素数	用紙サイズ
10M	3872×2592	4切／A3サイズ
6M	3008×2000	6切／A4サイズ
2M	1824×1216	2L／A5サイズ

上記の用紙サイズは、記録サイズごとに印刷に適したサイズのおおよその目安です。撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さは、画質設定や露出制御などの撮影時設定、または使用するプリンターの解像度によっても変わってきます。

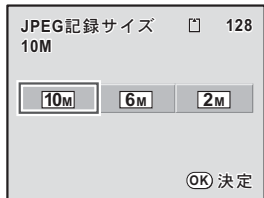
1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「JPEG記録サイズ」を選択し、OKボタンを押す

「JPEG記録サイズ」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で記録サイズを選択する

記録サイズを変更すると、その記録サイズで撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

JPEG画質を設定する

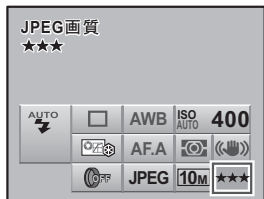
JPEG画像の画質を設定します。画像の容量は、設定している「JPEG記録サイズ」によっても異なります。初期設定は、★★★（S.ファイン）です。

★★★	S.ファイン	▲ 画質は鮮明になりますが、画像の容量が大きくなります。
★★	ファイン	
★	エコノミー	▼ 画質は粗くなりますが、画像の容量が小さくなります。

1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「JPEG画質」を選択し、OKボタンを押す

「JPEG画質」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でJPEG画質を選択する

画質を変更すると、その画質で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

記録形式を設定する

画像のファイルフォーマットを設定します。初期設定はJPEGです。

JPEG	JPEG形式で記録します。画像の記録サイズは「JPEG記録サイズ」、画質は「JPEG画質」の設定によって変えることができます。画像の容量は設定によって異なります。
RAW	RAWデータは、CCDの出力を加工せずに記録するデータのことです。ホワイトバランス、カスタムイメージ、色空間の設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。RAW展開（p.195）やパソコンに転送し、付属ソフトウェアのPENTAX PHOTO Laboratory 3を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使ってJPEGなどの画像データを作成します。
RAW+	RAW形式とJPEG形式両方で記録されます。❓（ヘルプ）ボタンにRAWボタン機能を割り当てているときは、❓ボタンを押すと、一時的に両形式で記録することができます。

1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「記録形式」を選択し、OKボタンを押す

「記録形式」画面が表示されます

3 十字キー（◀▶）で記録形式を選択する

記録形式を変更すると、その記録形式で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

RAWファイルの形式を設定する

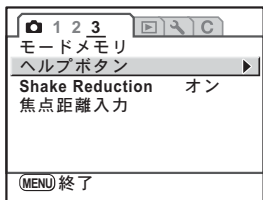
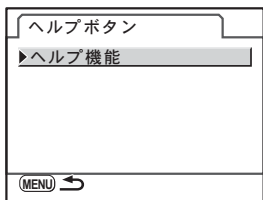
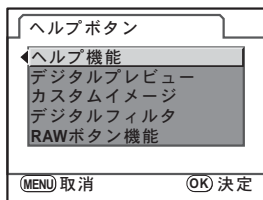
RAW形式で記録する場合は、「撮影1」メニュー（p.77）の「RAWファイル形式」でPEFとDNGのどちらかを選択します。初期設定は「PEF」です。

PEF	ペンタックス独自のRAWファイルフォーマット
DNG	Adobe Systems社が提唱する汎用の公開RAWファイルフォーマット

?ボタンの機能を設定する

?（ヘルプ）ボタンにヘルプ機能／デジタルプレビュー／カスタムイメージ／デジタルフィルタ／RAWボタン機能のいずれかを割り当てて、撮影時にボタンを押すだけで、割り当てた機能を利用することができます。

ヘルプ機能	機能の説明を表示します。（p.34）
デジタルプレビュー	デジタルプレビューを表示します。「ヒストグラム」と「白とび黒つぶれ警告」を表示するか否かを設定できます。（p.119）
カスタムイメージ	カスタムイメージを設定します。（p.157）
デジタルフィルタ	デジタルフィルタを設定します。（p.132）
RAWボタン機能	「記録形式」の設定にかかわらず、JPEG形式とRAW形式を同時に記録します。撮影ごとに解除するか否かと、ボタンを押したときの記録形式を選択します。（p.155）

1 「撮影3」メニューの「ヘルプボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▶）を押す

3 **十字キー（▲▼）で❓（ヘルプ）ボタンを押したときに実行する機能を選択し、OKボタンを押す**

4 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

RAWボタンの機能を設定する

❓（ヘルプ）ボタンの機能が「RAWボタン機能」に設定されているときの、機能を設定します。
設定できる項目は、以下の通りです。

撮影毎に解除	☑（オン）／□（オフ）
記録形式	❓ボタンを押したときに移行する記録形式

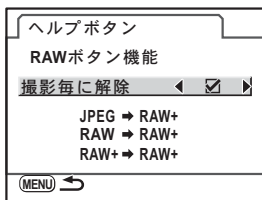
1 **p.155の手順3で「RAWボタン機能」を選ぶ**

2 **十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選ぶ**

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

ヘルプボタン
RAWボタン機能
撮影毎に解除 ◀ ☑ ▶
JPEG ➡ RAW+
RAW ➡ RAW+
RAW+ ➡ RAW+
MENU ↩

☑（オン）に設定すると、1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。初期設定は☑（オン）です。また、「撮影毎に解除」が□（オフ）のときは、次の場合に設定が解除されます。

- 再び❓ボタンを押したとき
- 電源を切ったとき
- モードダイヤルを回したとき
- メニューを表示したとき
- 再生モードにしたとき

4 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左側が「記録形式」の設定、右側が❓ボタンを押したときの記録形式となります。

5 十字キー（▶）を押し、❓ボタンを押したときの記録形式を十字キー（▲▼）で選ぶ

6 OKボタンを押す

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像の仕上がりイメージを設定する（カスタムイメージ）

露出モードが **P**（プログラム）／**Sv**（感度優先）／**Tv**（シャッター優先）／**Av**（絞り優先）／**M**（マニュアル）に設定されているときに、画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影することができます。「画像仕上」は、鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／モノトーンの6種類（初期設定：鮮やか）から選択し、それぞれ以下の項目が調整できます。

彩度*1	色の鮮やかさを設定します。（設定値：–4～+4）
色相*1	色合いを設定します。（設定値：–4～+4）
コントラスト	画像の明暗差を設定します。（設定値：–4～+4）
シャープネス*2	画像の輪郭の強調度合いを設定します。（設定値：–4～+4）
フィルタ効果*3	モノクロ用の色フィルターを使用したような擬似的な効果が得られます。フィルタの色を設定します。（設定値：なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調）
調色*3	冷黒調（–方向）から温黒調（+方向）の度合いを設定します。（設定値：–4～+4）

*1 画像仕上が「モノトーン」以外のときに設定します。
*2 輪郭の線をさらに細かく描写できる「ファインシャープネス」に変更することもできます。
*3 画像仕上が「モノトーン」のときに設定します。

1 ステータススクリーンでOKボタンを押す

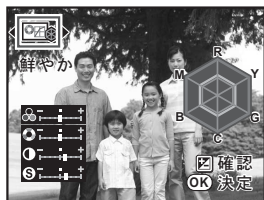
コントロールパネルが表示されます。

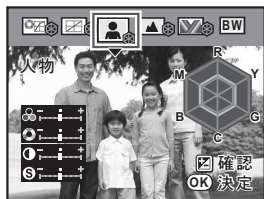
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）でカスタムイメージを選択し、OKボタンを押す

「カスタムイメージ」画面が表示されます。

電源を入れてから、直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（◀▶）で画像仕上を選ぶ

4 十字キー（▲▼）で彩度／色相／コントラスト／シャープネスの変更したい項目を選ぶ

画像仕上がモノトーンの場合は、フィルタ効果／調色／コントラスト／シャープネスの設定を変更できます。

5 十字キー（◀▶）で設定を変更する

設定に応じて背景画像も変化します。

彩度／色相は、レーダーチャートで視覚的に確認できます。

シャープネスでは、電子ダイヤルを回してファインシャープネスに切り替えることができます。ファインシャープネスは、輪郭の線をより細く繊細に表現するので、髪の毛などの描写に適しています。

6 OKボタンを押す

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

画像仕上がモノトーンの場合は、レーダーチャートは表示されません。

ホワイトバランスを調整する

ホワイトバランスとは、白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。ホワイトバランスの **AWB**（オート）で撮影した色合いに納得がいかないときや、意図的に効果を出したいときなどに、ホワイトバランスを設定してください。初期設定は、**AWB**（オート）です。

AWB	オート	調整をカメラにまかせます。（約4000～8000K）
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。（約5200K）
⌂◣	日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。（約8000K）
☁	曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。（約6000K）
蛍光灯アイコン	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類によって、**D**（昼光色蛍光灯、約6500K）／**N**（昼白色蛍光灯、約5000K）／**W**（白色蛍光灯、約4200K）から選択することができます。
白熱灯アイコン	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。（約2850K）
⚡WB	ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。（約5400K）
マニュアルアイコン	マニュアル	撮影時の光の状態で白いものが白く写るように、手動でホワイトバランスを調整します。

* 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。

1 モードダイヤルを、P／Sv／Tv／Av／Mのいずれかに合わせる

2 撮影モードで十字キー（◀）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）を押し、任意の設定にする

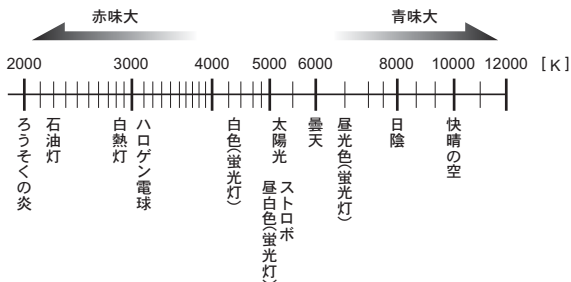
Av ボタンを押すと、設定したホワイトバランスでデジタルプレビューが表示されます。デジタルプレビューを表示すると、ホワイトバランスの微調整がしやすくなります。

4 OK ボタンを押す

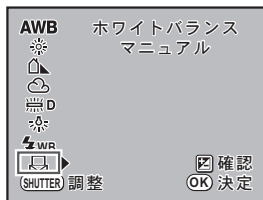
ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- ピクチャーモード／SCN（シーン）モードでは、ホワイトバランスを調整できません。
- ストロボを発光すると光源が変化するため、ストロボを発光したときのホワイトバランスを設定できます。「C カスタム3」メニュー（p.79）の「16. ストロボ発光時のWB」で、「ストロボ」「変更しない」から選びます。

色温度について

光の色は、温度が高くなるにつれて青味を帯びた光色に、温度が低くなるにつれて赤味を帯びた光色に変化します。このような光の色の変化を絶対温度（K：ケルビン）で表したものを「色温度」といいます。このカメラでは、様々な光の下で自然な色で撮影できるようホワイトバランスを設定できます。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。マニュアルホワイトバランスを使うと、あらかじめカメラに用意されたホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

1　p.160の手順3で（マニュアル）を選ぶ

2　ホワイトバランスを測定する照明の下で、ファインダーいっぱいに白い紙等を入れるか、白くしたい場所を被写体に選ぶ

3　シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードレバーを**MF**の位置に合わせてください。

測定範囲を選択する画面が表示されます。

4　電子ダイヤルで、測定範囲を画面全体とスポットのどちらかに選ぶ

5　スポットを選んだ場合は、十字キー（▲▼◀▶）で測定枠を測定したい場所に移動する

6 OKボタンを押す

「ホワイトバランス」画面に戻ります。
微調整が必要なときは「ホワイトバランスの微調整をする」の手順で調整します。

7 OKボタンを押す

設定したホワイトバランスで撮影できる状態になります。

- ホワイトバランスを調整するためにシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 測定がうまくいかなかったときは、「NG」と表示されます。表示中に**OK**ボタンを押すと、「ホワイトバランス微調整」画面に戻り、再測定できます。
- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

ホワイトバランスの微調整をする

設定したホワイトバランスを細かく微調整できます。

1 「Cカスタム2」メニューの「8. ホワイトバランス微調整」を「オン」に設定する

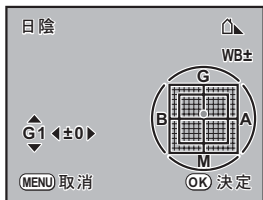
8. ホワイトバランス微調整
1 オフ
2 オン
ホワイトバランス設定時の
微調整が可能です

2 p.159の手順1～3で、任意の設定をする

3 十字キー（▶）を押す

「ホワイトバランス微調整」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で、ホワイトバランスの微調整をする

G-M／B-Aの座標軸から、最大で7段階、225通りの調整が可能です。

G-M	グリーンーマゼンタ間の色味を調整します。	▲▼
B-A	ブルーーアンバー間の色味を調整します。	◀▶

5 OKボタンを押す

「ホワイトバランス」画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

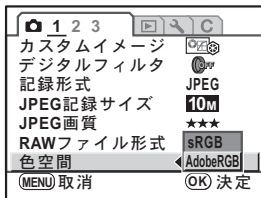
ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- ホワイトバランスの微調整をした後に「Cカスタム2」メニューの「8. ホワイトバランス微調整」を「オフ」に設定すると、微調整した値は無効になります。再度「8. ホワイトバランス微調整」を「オン」に設定すると、以前設定した値が有効になります。
- 🖳（マニュアル）を選択しているときは「ホワイトバランス微調整」画面で、シャッターボタンを全押ししてホワイトバランスを測定することができます。

色空間を設定する

使用する色空間を設定できます。初期設定は「sRGB」です。

1	sRGB	sRGB色空間に設定します。
2	AdobeRGB	AdobeRGB色空間に設定します。

「撮影1」メニュー（p.77）の「色空間」で設定します。

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のように変わります。
sRGBのとき　　　：IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき：_IGPxxxx.JPG
「xxxx」はファイルNo.です。4桁の連番で表されます。（p.224）

色空間とは

デジタルカメラやモニター、プリンターなどの画像入出力機器は、それぞれ色を再現できる範囲が異なります。この色再現可能範囲を「色空間」といいます。
異なる色空間を持つ機器同士の色再現を合わせるために、いくつかの基準となる色空間が提案されていますが、このカメラではsRGB色空間とAdobeRGB色空間に対応しています。
sRGB色空間はパソコンを中心とした機器で広く使われています。
AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも広い色再現範囲を持っており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。
なお、AdobeRGB色空間で作られた画像をsRGB対応の機器でそのまま出力すると、sRGB色空間で作られた画像を出力したときに比べ色が薄く見えます。

6 撮影のための設定

7 いろいろな再生

再生モードでの様々な再生方法をご紹介します。

再生関連機能の操作

再生に関する機能は、「▶再生」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.32) をご覧ください。

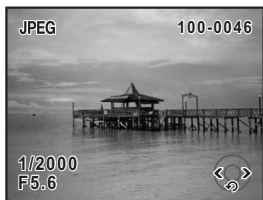
再生メニューの設定項目

「▶再生1～2」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで**MENU**ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.177
	画像比較	画像を2枚並べて表示します。	p.176
	デジタルフィルタ	撮影した画像の色調を変えたり、またソフトやスリムに加工します。明るさの調整もできます。	p.192
	リサイズ	画像の記録サイズと画質を変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくします。	p.188
	トリミング	画像の必要な部分だけを切り取って、別の画像として保存します。	p.190
	プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.184
	DPOF	プリント予約をします。	p.200
▶2	RAW展開	RAW画像をJPEGに変換します。	p.195
	インデックス	撮影済みの複数の画像を貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.172
	再生時の表示方法	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するか否かと、拡大時の最初の拡大率を設定します。	p.168
	マルチ画面設定	マルチ画面表示で1画面に表示する画像数を4／9／16画像から設定します。	p.170
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.183

画像を拡大表示する

再生した画像を約16倍まで拡大して表示できます。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

2 電子ダイヤルを右（🔍の方向）に回す

1クリック回すごとに画面が拡大（1.2〜16倍）されます。

拡大表示中にできる操作

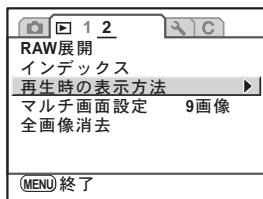
十字キー（▲▼◀▶）	拡大表示位置を移動します。
電子ダイヤル（右方向）	表示を拡大します。（最大16倍まで）
電子ダイヤル（左方向）	表示を縮小します。（最小1.2*倍まで）
OKボタン	1倍表示に戻ります。
INFOボタン	情報表示のあり／なしを切り替えます。

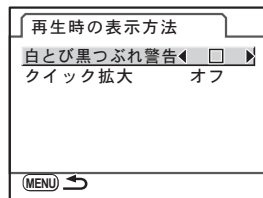
* 電子ダイヤル（右方向）の1クリック目の倍率（拡大倍率の最小値）は、初期設定では1.2倍です。「▶再生2」メニューの「再生時の表示方法」で変更できます。

- クイックビュー（p.61）とデジタルプレビュー（p.119）中も、同じ操作で画像を拡大表示できます。
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.75倍なので、拡大1クリック目は等倍で表示されます。

再生時の表示方法を設定する

再生モードで白とび黒つぶれ警告を表示するか否かと、拡大表示するときの最初の拡大率を設定できます。

1 「▶再生2」メニューの「再生時の表示方法」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で「白とび黒つぶれ警告」の☑（オン）／□（オフ）を切り替える

4 十字キー（▼）を押し、「クイック拡大」を選ぶ

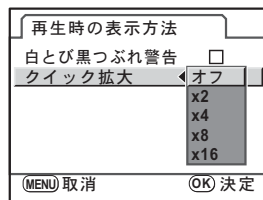
5 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で倍率を選ぶ

オフ／×2／×4／×8／×16から選択します。

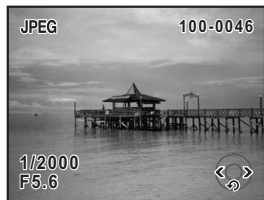
6 OKボタンを押す

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

複数の画像を表示する

マルチ画面表示をする

撮影した画像を、画像モニターに複数枚(4/9/16画像)ずつ表示します。初期設定は「9画像」表示になっています。表示枚数は任意に選択できますが、ここでは9画像表示の場合で説明します。

1 ▶ボタンを押す

2 電子ダイヤルを左（⊞ の方向）に回す

マルチ画面表示になります。

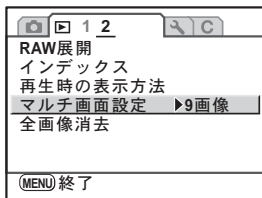
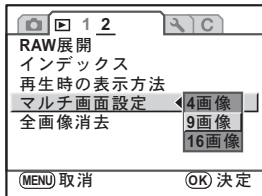
画像が小さなコマで一度に9画像ずつ表示されます。十字キー（▲▼◀▶）で画像が選択できます。画面右端にスクロールバーが表示され、最下行の画像を選択しているときに十字キー（▼）を押すと、次の9画像が表示されます。

表示できない画像には「？」が表示されます。

3 電子ダイヤルを右（🔍 の方向）に回すか、OKボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

表示する画像数を選択する

1 「▶再生2」メニューの「マルチ画面設定」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で1画面に表示する画像数を選んでOKボタンを押す

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

カレンダー／フォルダを表示する

撮影日ごと、またはフォルダごとに画像を表示します。

撮影日ごとに表示する

撮影した日付ごとに画像を表示します。

1 マルチ画面表示で電子ダイヤルをさらに左（⊞の方向）に回す

カレンダー表示になります。
画像が保存されている撮影日だけが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押し、撮影日を選択する

3 十字キー（◀▶）を押し、画像を選択する

OK ボタンを押すと、選択した画像が1画像表示されます。

フォルダごとに表示する

画像が保存されているフォルダごとに表示します。

1 マルチ画面表示で電子ダイヤルをさらに左（⊞の方向）に回す

カレンダー表示になります。

2 INFOボタンを押す

フォルダ表示になります。

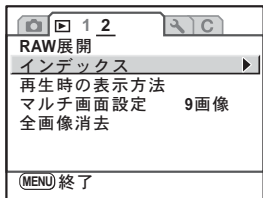
3 十字キー（▲▼◀▶）で表示したいフォルダを選んでOKボタンを押す

選択したフォルダのマルチ画面表示になります。

- 🗑 ボタンを押すと、選択しているフォルダごと画像を消去することができます。（p.182）
- カレンダー／フォルダ表示は**INFO**ボタンで切り替えます。次にカレンダー／フォルダ表示をした場合、直前に表示した方が先に表示されます。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

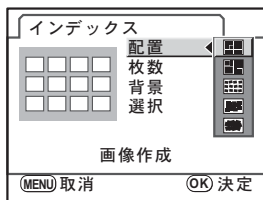
撮影済みの複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。表示された画像は、新規保存することができます。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

1 「▶再生2」メニューの「インデックス」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

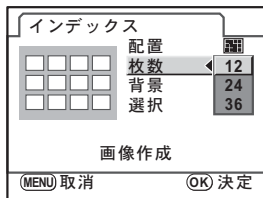
「インデックス」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

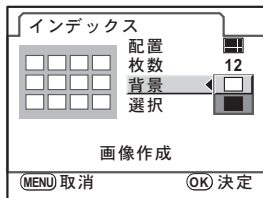
4 十字キー（▲▼）で配置の種類を選んでOKボタンを押す

サムネイル／スクエア／ランダム1／ランダム2／ランダム3の5種類の配置が選択できます。

5 十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー（▲▼）で貼り付ける枚数を選んでOKボタンを押す

12／24／36枚から選択します。

7 十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

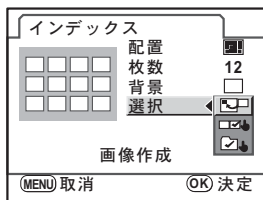
8 十字キー（▲▼）で背景色を選んでOKボタンを押す

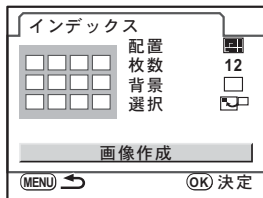
白または黒を選択します。

9 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

10 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選んでOKボタンを押す

（全画像）　：保存されているすべての画像から自動的に選択します。
（手動）　　：貼り付ける画像を1つずつ選択します。
（フォルダ）：指定したフォルダから自動的に選択します。

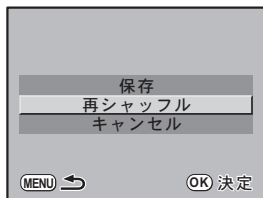
を選択した場合は、続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。

を選択した場合は、続けて「フォルダ選択」を選び、フォルダを指定します。

11 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OKボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

12 十字キー（▲▼）で「保存」または「再シャッフル」を選択し、OKボタンを押す

保存：インデックス画像を 6M のファイルとして保存します。

再シャッフル：
貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。

保存が完了すると、再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

- インデックスの画像作成は、処理に時間がかかることがあります。
- 保存されている画像の数が「枚数」で指定した枚数より少ない場合、配置が「サムネイル」のときは空欄、それ以外のときは画像が重複して表示されます。
- サムネイル／スクエアを選択したときの画像の配置の順番は、ファイルNo.の小さい順になります。

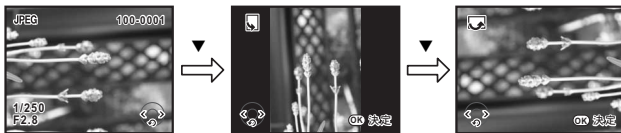
画像を回転する

表示されている画像を左回りに90°ずつ回転し、再保存することができます。再保存した画像には回転表示情報が付加され、再生時に縦に表示されます。

プロテクトされた画像は、回転表示情報を保存できません。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で回転したい画像を選ぶ

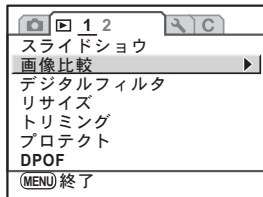
2 十字キー（▼）を押す

1回押すごとに画像が左回りに90°ずつ回転して表示されます。

3 OKボタンを押す

画像の回転表示情報が保存されます。

画像を比較する

2枚の画像を並べて表示します。

1 「▶再生1」メニューの「画像比較」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

直前に再生／撮影した画像が左右に並んで表示されます。

3 電子ダイヤルを回して、比較する画像を選択する

以下の操作で表示を切り替えます。

OKボタン	押すごとに画像の選択枠が右→両方→左に変わります。
十字キー（▲▼◀▶）	拡大表示位置を移動します。画像の選択枠が両方のときは、2枚同時に操作できます。
電子ダイヤル	画像の選択枠が左または右の場合に、前後の画像を表示します。選択枠が両方のときは、2枚の画像を同じ倍率で拡大／縮小します。
INFOボタン	情報表示のあり／なしを切り替えます。
🗑ボタン	画像の選択枠が左または右の場合に、選択している画像を消去します。

4 MENUボタンを押す

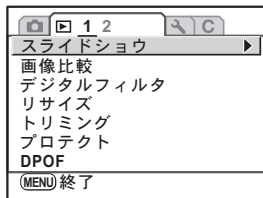
通常の再生モードに戻ります。

スライドショウで連続再生する

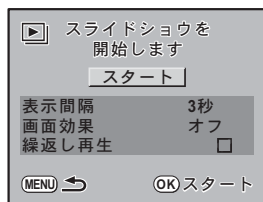
SDメモリーカードに保存された全画像を連続して再生します。

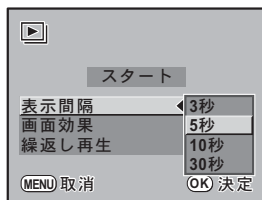
スライドショウの表示方法を設定する

スライドショウでの画像の表示のしかたを設定します。

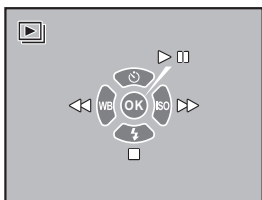
1 **「▶ 再生 1」メニューの「スライドショウ」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ**

次の項目が設定できます。

項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3／5／10／30秒（初期設定：3秒）
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	オフ／フェード／ワイプ／ズーム（初期設定：オフ）
繰返し再生	最後の画像を再生したあとに、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（オフ）／☑（オン）（初期設定：□（オフ））

4 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を切り替える

スライドショウを開始する

1 p.177の手順3の画面で「開始」を選び、OKボタンを押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

スライドショウ実行中にできる操作

OK ボタン	一時停止
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示
十字キー（▼）	停止

一時停止中にできる操作

OK ボタン	一時停止を解除（再実行）
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示
十字キー（▼）	停止

2 スライドショウを終了する

スライドショウの実行中または一時停止中に、次のいずれかの操作をすると終了します。

- 十字キー（▼）を押す[*1]
- ▶ボタンを押す[*1]
- **MENU**ボタンを押す[*1]
- シャッターボタンを半押し、または全押しする[*2]
- モードダイヤルを回す[*2]

*1 スライドショウ終了後、通常の再生モードになります。
*2 スライドショウ終了後、撮影モードになります。

複数画像を消去する

選択して消去する

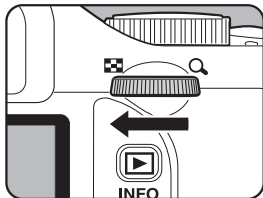
マルチ画面表示で複数の画像を選択し、一括して削除します。

消去した画像は復元できません。

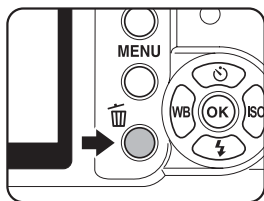
- プロテクトされている画像は消去できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになり、1画像表示になります。

2 電子ダイヤルを左（▦ の方向）に回す

マルチ画面表示になります。

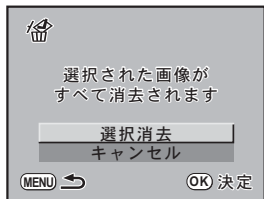
3 🗑ボタンを押す

画像の上に□が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。
画像を選択して電子ダイヤルを回すと、1画像表示にして確認することができます。
プロテクトされた画像は選択できません。

5 🗑ボタンを押す

消去の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「選択消去」を選ぶ

7 OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

フォルダを消去する

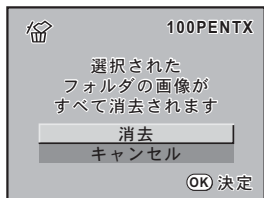
選択しているフォルダごと画像を削除します。

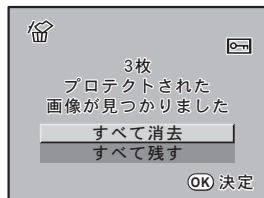
1 再生モードで電子ダイヤルを左（⊞の方向）に2クリック回す

カレンダーまたはフォルダ表示になります。
カレンダー表示になっているときは**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で消去するフォルダを選び、🗑ボタンを押す

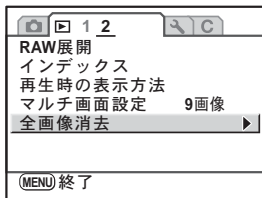
フォルダ消去の確認画面が表示されます。

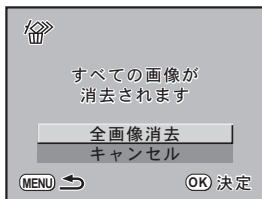
3 十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォルダとフォルダ内の画像が消去されます。
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）で「すべて消去」または「すべて残す」を選び、**OK**ボタンを押します。
「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

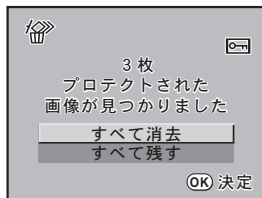
注意 消去した画像は復元できません。

1 **「▶再生2」メニューの「全画像消去」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で「全画像消去」を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

全画像が消去されます。

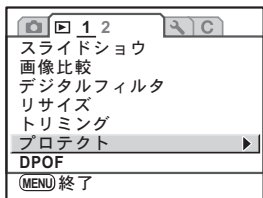
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）で「すべて消去」または「すべて残す」を選び、**OK**ボタンを押します。

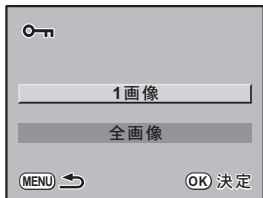
「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意 プロテクトされた画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1画像ずつ設定する

1 **「▶再生1」メニューの「プロテクト」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で「1画像」を選び、OKボタンを押す**

4 **十字キー（◀▶）で、プロテクトする画像を選ぶ**

5　十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

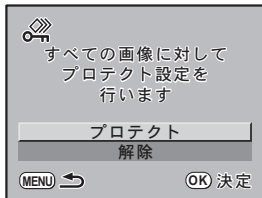
6　OKボタンを押す

画像がプロテクトされ、画面右上に🔑が表示されます。（p.25）
他の画像をプロテクトする場合は、手順4〜6を繰り返します。

全画像を設定する

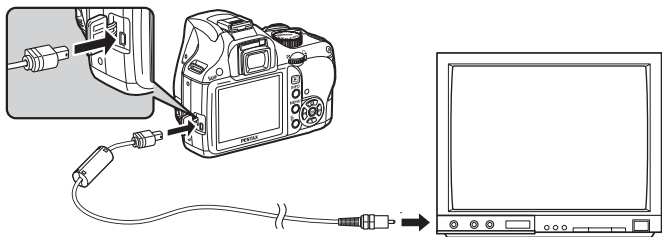
1　p.184の手順3で「全画像」を選び、OKボタンを押す

2　十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

SDメモリーカード内のすべての画像がプロテクトされます。
「解除」を選択すると、全画像のプロテクトが解除されます。

AV機器と接続する

ビデオケーブルI-VC28（別売）を使用すると、テレビなどのビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして画像を再生することができます。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、ビデオケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、USB／VIDEO端子に接続する

3 ビデオケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC84J（別売）のご使用をお勧めします。（p.40）
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- 国や地域によっては、カメラのビデオ出力方式が初期設定になっていると、画面がうまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を切り替えてください。（p.225）
- AV機器に接続している間は、カメラの画像モニターは表示されません。

8 画像を加工する

撮影した画像の加工方法とRAW展開をご紹介します。

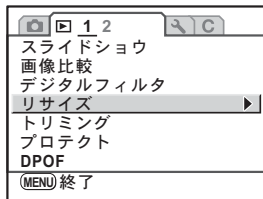
画像のサイズを変更する

画像の記録サイズを変更したり、画像の一部を切り取って画像のサイズを小さくします。

記録サイズと画質を変更する（リサイズ）

画像の記録サイズと画質を変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくします。

- リサイズできるのは、このカメラで撮影したJPEGファイルのみです。
- 元の画像よりも大きいサイズやきれいな画質は選択できません。

1 「▶再生1」メニューの「リサイズ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で、リサイズする画像を選び、OKボタンを押す

記録サイズと画質を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「JPEG記録サイズ」を選択し、十字キー（◀▶）でサイズを選択する

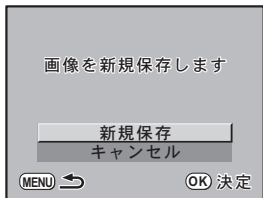
10M／6M／2M／640（640×416）から選択します。

5 十字キー（▲▼）で「JPEG画質」を選択し、十字キー（◀▶）で画質を選択する

★★★／★★／★から選択します。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

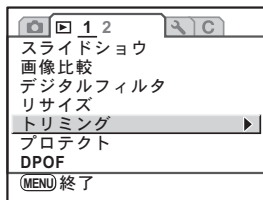
7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選ぶ

8 OKボタンを押す

リサイズされた画像が、新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、別の画像として保存します。

- トリミングできるのは、このカメラで撮影したJPEGファイルのみです。
- 元の画像よりも大きいサイズは選択できません。

1 「▶再生1」メニューの「トリミング」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で、トリミングする画像を選び、OKボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

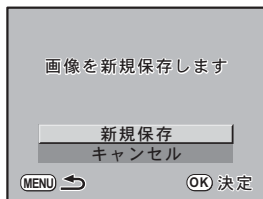
4 トリミングする大きさと範囲を決める

以下の操作で大きさと範囲を決めます。

電子ダイヤル	トリミングする大きさを指定します。 9M（3680×2448）／8M（3456×2320）／7M（3264×2160）／6M（3008×2000）／4M（2464×1632）／2M（1824×1216）／1M（1248×832）が選択できます。
十字キー（▲▼◀▶）	トリミングする範囲を指定します。
INFOキー	トリミング範囲を回転します。回転できるサイズのときのみ回転できます。

5 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選ぶ

7 OKボタンを押す

トリミングされた画像が、新規保存されます。

デジタルフィルタで加工する

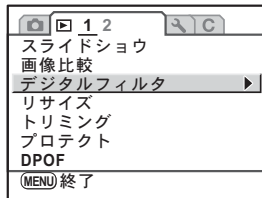
撮影した画像を、デジタルフィルタを使って加工できます。加工した画像は、新規保存されます。
以下のフィルタが選択できます。

フィルタ名	効果	パラメータ
トイカメラ	おもちゃのカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：+1／+2／+3
		ぼかし：+1／+2／+3
		トーンブレイク：赤／緑／青
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	+1／+2／+3
ソフト	全体にぼかしたような、ソフトな画像に加工します。	+1／+2／+3
クロス	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部にクロス状の光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	個数：少／中／多
		大きさ：短／中／長
		角度：0／30／45／60°
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	ブルー／アンバー：-2／-1／オフ／+1／+2
		白枠：細／中／太
色抽出	特定の色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	赤／マゼンタ／シアン／青／緑／イエロー
イラスト	クレヨンや絵の具で描いたような画像に加工します。	パステル画／水彩画
HDR	擬似的にハイダイナミックレンジ画像にします。	弱／標準／強
白黒	白黒の画像にします	白黒／赤／緑／青
セピア	古い写真のようなセピア色に加工します。	弱／標準／強
カラー	選択したカラーフィルタをかけた画像にします。	色：赤／マゼンタ／シアン／青／緑／イエロー
		濃淡：淡／標準／濃
スリム	画像の縦横比を変更します。	±8段階
明るさ	画像の明るさを変更します。	±8段階

フィルタ名	効果	パラメータ
カスタム	好みのフィルターを作成して保存することができます。	カラー強度：オフ／+1／+2／+3
		カラー：赤／マゼンタ／シアン／青／緑／イエロー
		ハイコントラスト：オフ／+1／+2／+3
		ソフトフォーカス：オフ／+1／+2／+3
		輪郭強調：-3～+3
		トーンブレイク：オフ／赤／緑／青
		シェーディング：-3～+3
		シェーディングタイプ：6種類

メモ デジタルフィルタで加工できるのは、このカメラで撮影したJPEGファイルまたはRAWファイルのみです。

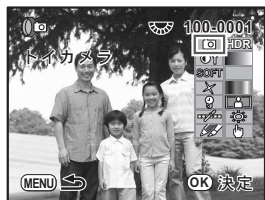
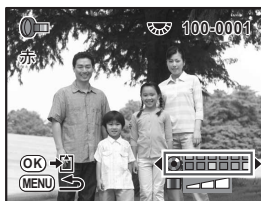
1 再生モードで画像を選択する

2 「▶再生1」メニューの「デジタルフィルタ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

フィルタ選択画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）でフィルタを選び、OKボタンを押す

フィルタを選択すると、効果が画面で確認できます。

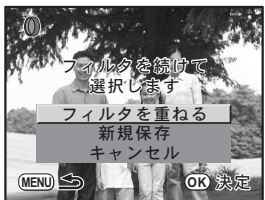
電子ダイヤルを回して画像を切り替えることができます。

5 十字キー（▲▼）でパラメータを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

カラーフィルタ

スリムフィルタ

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「フィルタを重ねる」または「新規保存」を選ぶ

続けて他のフィルタを重ねて指定する場合は「フィルタを重ねる」を選択します。

8 OKボタンを押す

「フィルタを重ねる」を選んだ場合は、手順4に戻ります。
「新規保存」を選んだ場合は、フィルタ処理された画像が新規保存されます。

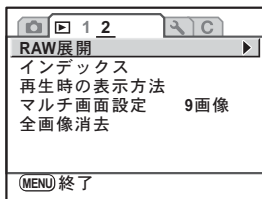
フィルタは20回まで重ねることができます。

RAW展開する

撮影したRAWファイルをJPEGに変換します。

RAW展開できるのは、このカメラで撮影したRAWファイルのみです。他のカメラで撮影したRAWファイルやJPEGファイルはRAW展開できません。

画像をRAW展開する

1 **「▶ 再生2」メニューの「RAW展開」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

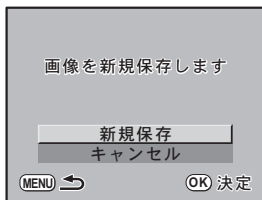
3 **十字キー（◀▶）で、RAW展開する画像を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

画像に記録されているパラメータが表示されます。
パラメータを指定する場合は、「パラメータを指定する」を参照してください。

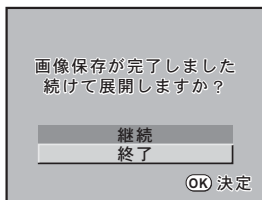
5 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選ぶ

7 OKボタンを押す

RAW展開処理された画像が、撮影画像とは別の名前で保存されます。

8 十字キー（▲▼）で「終了」を選び、OKボタンを押す

他のファイルも展開する場合は、「継続」を選びます。

パラメータを指定する

RAW展開するときのパラメータを指定します。
変更できるパラメータは以下の通りです。

パラメータ	値
記録サイズ	10M（3872×2592）／6M（3008×2000）／2M（1824×1216）
画質	★★★（S.ファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／モノトーン（p.157）
ホワイトバランス	**AWB**（オート）／☼（太陽光）／⌂（日陰）／☁（曇天）／**D**（昼光色蛍光灯）／**N**（昼白色蛍光灯）／**W**（白色蛍光灯）／☀（白熱灯）／WB（ストロボ）／（マニュアル）（p.159）
増減感	–2.0～+2.0
高感度NR	オフ／微弱／弱／強
色空間	sRGB／AdobeRGB
シャドー補正	オフ／オン

1　p.195 の手順 4 の画面で十字キー（▲▼）を押し、変更したいパラメータを選ぶ

2　十字キー（◀▶）で値を変更する

3　OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開処理されて新規保存されます。

ホワイトバランスで「マニュアル」を選択した場合は、☑Avボタンを押すと測定画面が表示されます。測定範囲はスポットのみとなります。

9 カメラから印刷する

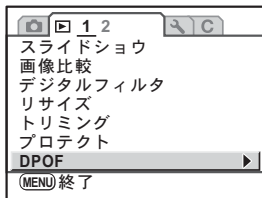
プリントの設定方法をご紹介します。

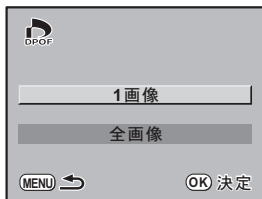
プリントサービスの設定をする（DPOF）

画像を記録したSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリント注文をすることができます。
あらかじめDPOF（Digital Print Order Format）の設定をすることで、プリント枚数の指定や、画像に日付を入れることができます。

- RAW画像はDPOF設定できません。
- DPOF設定ができるのは、最大で999画像です。

1画像ずつ設定する

1 **「▶再生1」メニューの「DPOF」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で「1画像」を選び、OK ボタンを押す**

4 十字キー（◀▶）で、DPOFを設定する画像を選ぶ

5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。

6 電子ダイヤルを回し、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

他の画像も設定する場合は、手順4～6を繰り返します（最大999画像）。

7 OKボタンを押す

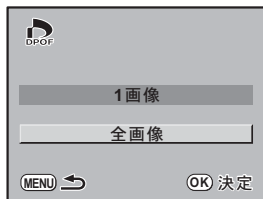
DPOF設定が保存され、再生モードに戻ります。

プリンターやプリント取扱店のプリント機器によっては、DPOFの設定で日付をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

DPOF設定を解除するには、手順5で枚数を「00」に設定して**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

1 p.200の手順3で「全画像」を選ぶ

全画像の設定画面が表示されます。

2 プリント枚数と日付を指定する

設定のしかたはp.201の手順5～6をご覧ください。

3 OK ボタンを押す

設定した値で全画像のDPOF設定が保存され、メニュー選択前の画面に戻ります。

注意 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいかを確認してください。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

パソコンを介さなくても、カメラとプリンターを直接つないで写真をプリント（ダイレクトプリント）できます。
ダイレクトプリントする場合、カメラとPictBridge対応プリンターを、付属のUSBケーブル（I-USB7）で接続します。
どの画像をプリントするのか、何枚プリントするのか、日付を入れるのかなどは、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。
ダイレクトプリントは次の手順で行います。

1 カメラの転送モードを「PictBridge」に設定する（p.204）
2 カメラをプリンターに接続する（p.205）
3 プリントの設定をする
　1画像ずつプリントする（p.206）
　全画像をプリントする（p.208）
　DPOF設定でプリントする（p.209）

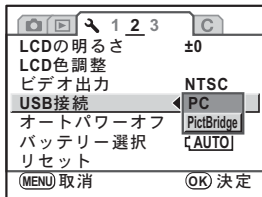
- カメラをプリンターに接続するときは、ACアダプターキットK-AC84J（別売）のご使用をお勧めします。プリンターと通信中に電池が消耗すると、プリンターが誤動作したり、画像データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの種類によっては、カメラ側の設定（印刷設定、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 設定されたプリント枚数が500枚以上になる場合、正しくプリントされないことがあります。
- 1枚の用紙に複数画像をプリントする設定はカメラ側ではできません。プリンター側で設定するか、パソコンを使って印刷してください。
- RAW画像は、カメラから直接印刷できません。RAW画像の印刷は、「RAW展開」（p.195）でJPEGに変換するか、パソコンに転送して、PENTAX PHOTO Browser 3を用いて行ってください。
- パソコンと接続する場合は、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」をご覧ください。

転送モードを設定する

1 「🔧詳細設定2」メニューの「USB接続」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「PictBridge」を選ぶ

4 OKボタンを押す

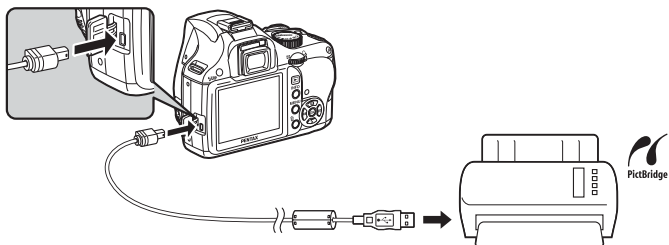
設定が変更されます。

5 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラをプリンターに接続する

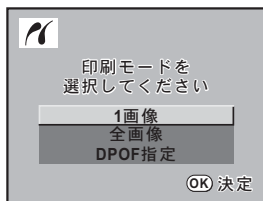
1 カメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、付属のUSBケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、USB／VIDEO端子に接続する

3 USB ケーブルのもう一方の端子を、PictBridge 対応プリンターに接続する

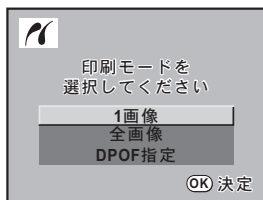
PictBridge対応プリンターには、PictBridgeのロゴが表示されています。

4 プリンターの電源を入れる

5 プリンターが起動したら、カメラの電源を入れる

PictBridge メニュー画面が表示されます。

「USB接続」が「PC」に設定されていると、PictBridgeメニュー画面は表示されません。

1画像ずつプリントする

1 PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「1画像」を選ぶ

2 OKボタンを押す

1画像印刷画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でプリントする画像を選ぶ

4 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。

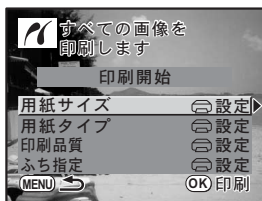
5 電子ダイヤルを回し、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

6 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。
初期設定のまま印刷するときは、手順11へ進みます。
印刷設定を変更するときは、手順7へ進みます。

7 十字キー（▲▼）で「用紙サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

「用紙サイズ」画面が表示されます。

8 十字キー（▲▼◀▶）で用紙サイズを選ぶ

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。
「設定」を選択するとプリンターの設定に従います。

9 OKボタンを押す

10 手順7～9の操作を繰り返して、「用紙タイプ」「印刷品質」「ふち指定」を設定する

「設定」を選択するとプリンターの設定に従います。
「用紙タイプ」は、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
「印刷品質」は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。

11 十字キー（▲▼）で「印刷開始」を選び、OKボタンを押す

設定した内容でプリントされます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

全画像をプリントする

1 PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「全画像」を選ぶ

2 OK ボタンを押す

全画像印刷画面が表示されます。

3 プリント枚数、日付プリントの有無を設定する

全画像を何枚ずつプリントするか、日付をプリントするかどうかを選びます。

設定のしかたはp.206の手順4～5をご覧ください。

十字キー（◀▶）で印刷する画像を確認できます。

4 OK ボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。

印刷設定を変更するときは、p.207の手順7～10をご覧ください。

5 十字キー（▲▼）で「印刷開始」を選び、OK ボタンを押す

設定した内容でプリントされます。

MENU ボタンを押すと、印刷を中止します。

プリントサービスの設定（DPOF）内容でプリントする

1 **PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「DPOF指定」を選ぶ**

2 **OKボタンを押す**

DPOF指定印刷画面が表示されます。
十字キー（◀▶）で、画像ごとの印刷枚数、日付の有無、プリント合計枚数を確認できます。

3 **OKボタンを押す**

印刷設定の確認画面が表示されます。
印刷設定を変更するときは、p.207の手順7～10をご覧ください。

4 **十字キー（▲▼）で「印刷開始」を選び、OKボタンを押す**

設定した内容でプリントされます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

USBケーブルを取り外す

プリントが終了したら、USBケーブルをカメラとプリンターから取り外します。

1 **カメラの電源を切る**

2 **カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す**

10 カメラの設定をする

カメラ本体の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.32)をご覧ください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー（◀▶）で「🔧詳細設定1～3」メニューを表示します。

メニュー	項目	機能	参照
🔧1	Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.219
	日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.216
	ワールドタイム	海外で使用する際、現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。	p.216
	文字サイズ	メニュー選択時の文字の大きさを設定します。	p.220
	ガイド表示	画像モニターに操作ガイドを表示するか否かを設定します。	p.220
	フォルダ名	画像が保存されるフォルダ名の付け方を設定します。	p.224
	電子音	電子音のオン／オフを切り替えます。	p.215
🔧2	LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.221
	LCD色調整	画像モニターの色味を調整します。	p.222
	ビデオ出力	AV機器への出力方式を設定します。	p.225
	USB接続	USBケーブルの接続先（パソコンまたはプリンター）を設定します。	p.204
	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.225
	バッテリー選択	セットした電池の種類を設定します。	p.226
	リセット	設定内容を初期化します。	p.232

メニュー	項目	機能	参照
🔧3	ピクセルマッピング	CCDの画素の欠損部分を補完します。	p.228
	ダストアラート	CCDに付着したほこりを検知します。	p.244
	ダストリムーバル	CCDを振動させてクリーニングします。	p.243
	センサークリーニング	CCDをブロアーでクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.246
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.214

●「🔧詳細設定1」メニュー

●「🔧詳細設定2」メニュー

●「🔧詳細設定3」メニュー

SDメモリーカードをフォーマットする

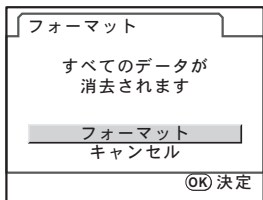
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットすると、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

1 「詳細設定3」メニューの「フォーマット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

音／日時／言語を設定する

電子音をオン／オフする

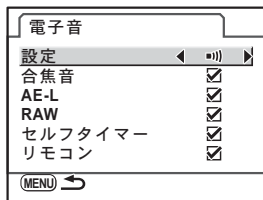
カメラ操作時の電子音のオン／オフを設定できます。初期設定は、すべて☑（オン）です。
設定できる項目は合焦音／AE-L（AEロックのボタン操作音）／RAW（RAWのボタン操作音）／セルフタイマー／リモコンの5種類です。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「電子音」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「電子音」画面が表示されます。

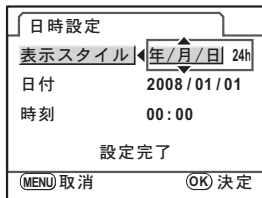
3 十字キー（▲▼）で項目を選び、十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を設定する

「設定」を選んで十字キー（◀▶）で□（オフ）にすると、すべての項目の電子音を鳴らさない設定にできます。

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

日時とその表示スタイルを変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、日付と時刻の表示形式を設定します。日付の表示形式は、年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。時刻の表示形式は、12h（12時間制）／24h（24時間制）から選択できます。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.212）の「日時設定」で設定します。

☞日時を設定する （p.54）

ワールドタイムを設定する

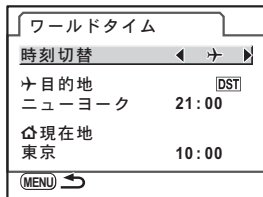
「初期設定をする」（p.50）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際、画像モニターに、目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

ガイド表示画面の日時は、この設定で切り替わります。

4 十字キー（▼）を押す

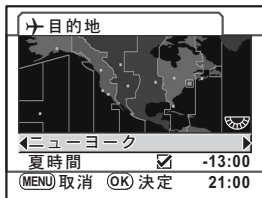
選択枠が✈（目的地設定）に移動します。

5 十字キー（▶）を押す

目的地設定の画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

電子ダイヤルを回すと、表示する地域が切り替わります。

選択した都市の現在時刻・位置・時差が表示されます。

7 十字キー（▼）で「夏時間」を選ぶ

8 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

9 OKボタンを押す

目的地の設定が保存されます。

10 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.218）をご覧ください。
- 手順4で⌂（現在地設定）を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- ワールドタイムが ✈（目的地）になっていると、ガイド表示とステータススクリーンに✈が表示されます。（p.22）
- ワールドタイムを ✈（目的地）に切り替えると、ビデオ出力方式（p.225）はその都市の初期設定に切り替わります。

都市名一覧

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	リスボン
	マドリード
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	コペンハーゲン
	ベルリン
	プラハ
	ストックホルム
	ブダペスト
	ワルシャワ
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ

地域	都市名
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ
	エルサレム
	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム

地域	都市名
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／韓国語／中国語（繁体字／簡体字）／日本語の19言語に対応しています。

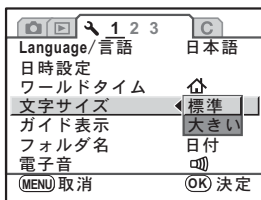
「🔧詳細設定1」メニュー（p.212）の「Language/言語」画面で設定します。

☞言語を設定する （p.50）

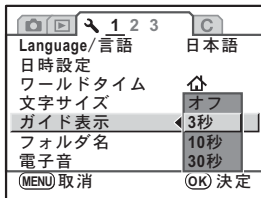
画像モニター／メニュー表示を設定する

文字サイズを設定する

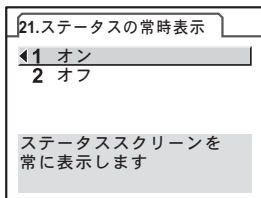
選択しているメニューの文字の大きさを、標準（通常表示）／大きい（拡大表示）に設定します。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.212）の「文字サイズ」で設定します。

ガイド表示時間を設定する

電源を入れたときや、撮影モードを変更したときに、画像モニターにガイドを表示する時間を設定します。（p.22）
オフ／3秒／10秒／30秒から選択します。初期設定は「3秒」です。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.212）の「ガイド表示」で設定します。

ステータス表示を設定する

画像モニターに常にステータス表示をするかどうかを設定します。初期設定は「オン」です。

「**C** カスタム3」メニュー（p.78）の「21. ステータスの常時表示」で設定します。

画像モニターの明るさを設定する

画像モニターの明るさを設定できます。屋外などで画像モニターの表示が見えにくいときなどに設定してください。

「🔧詳細設定2」メニュー（p.212）の「LCDの明るさ」で設定します。

画像モニターの色味を設定する

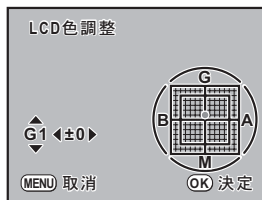
画像モニターの色味を調整します。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「LCD色調整」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「LCD色調整」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で調整する

15段階の調整ができます。

G-M	グリーン－マゼンタ間の色味を調整します。	▲▼
B-A	ブルー－アンバー間の色味を調整します。	◀▶

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

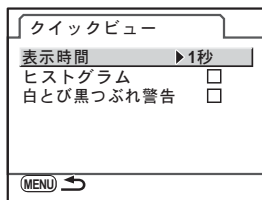
クイックビューの表示を設定する

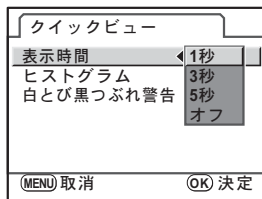
撮影直後に画像を表示するクイックビューの表示時間と、ヒストグラムと白とび黒つぶれ警告を表示するか否かを設定できます。初期設定では表示時間は「1秒」、ヒストグラムと白とび黒つぶれ警告は表示されません。

1 「📷撮影2」メニューの「クイックビュー」を選ぶ

2

十字キー（▶）を押す

「クイックビュー」画面が表示されます。

3

十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選び、OKボタンを押す

4

十字キー（▲▼）で「ヒストグラム」を選ぶ

5

十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6

十字キー（▲▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選ぶ

7

十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

8

MENUボタンを2回押す

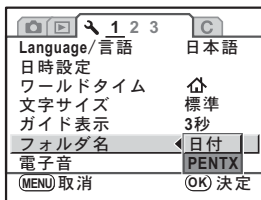
メニュー選択前の画面に戻ります。

フォルダ名／ファイルNo.の命名規則を設定する

フォルダ名の付け方を選択する

画像が保存されるフォルダ名の付け方を設定します。初期設定は「日付」です。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した「月」と「日」が2桁表示でフォルダ名に付けられます。「xxx」は100から999までの連番です。「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.216）の表示スタイルに準じます。 （例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダ
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダ名が付けられます。 （例）101PENTX

「詳細設定1」メニュー（p.212）の「フォルダ名」で設定します。

ファイルNo.の付け方を選択する

「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.229）で、「ファイルNo.」を☑（オン）または□（オフ）に設定することで、画像が保存されるフォルダが新しくなったときの、画像のファイルNo.の付け方を選ぶことができます。

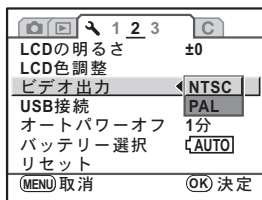
☑（オン）	前のフォルダに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□（オフ）	画像を保存するフォルダが新しくなるたびに、最初に保存される画像のファイルNo.が0001に戻ります。

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚ごとにフォルダが分かれて保存されます。ただし、オートブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダに保存されます。

ビデオ出力方式／電源を設定する

ビデオ出力方式を選択する

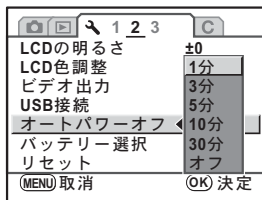
テレビなどのAV機器をモニターにして再生するときの出力方式を、NTSC方式とPAL方式から選択します。

「🔧詳細設定2」メニュー（p.212）の「ビデオ出力」で設定します。

☞AV機器と接続する （p.186）

ビデオ出力方式は地域によって異なります。ワールドタイムを✈（目的地）に切り替えると、その都市の初期設定に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。電源が切れるまでの時間は、1分／3分／5分／10分／30分／オフから選択できます。初期設定は、「1分」です。

「🔧詳細設定2」メニュー（p.212）の「オートパワーオフ」で設定します。

スライドショウで再生しているときとUSB接続しているときは、オートパワーオフは働きません。

電池の種類を設定する

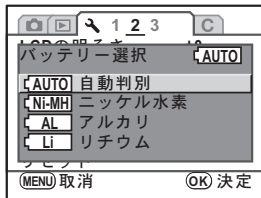
使用する電池の種類を設定します。初期設定は「自動判別」です。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「バッテリー選択」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「バッテリー選択」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）でバッテリーを選ぶ

「自動判別」に設定すると、セットされた電池の種類を自動で判別します。

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを2回押す

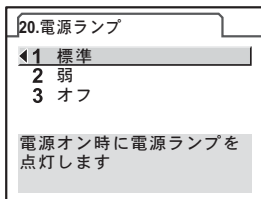
メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

セットした電池と設定が異なると、電池残量が正しく判断されません。正しく設定するようにしてください。通常は自動判別のままで問題ありませんが、低温時や長期間保存してあった電池を利用する場合などは、電池の種類を正しく指定することにより、適切な残量表示ができます。

電源ランプの点灯を設定する

電源ランプの点灯を、標準／弱／オフから選択します。初期設定は「標準」です。

「**C** カスタム3」メニュー（p.78）の「20. 電源ランプ」で設定します。

電源ランプを「オフ」に設定していても、USBケーブルでパソコンやプリンターと接続してデータを送信しているときは、電源ランプは点灯します。

ピクセルマッピングを行う

ピクセルマッピングは、CCDの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ピクセルマッピング」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

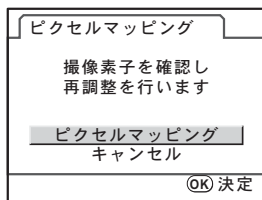
3 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選び、OKボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。

ピクセルマッピング

撮像素子を確認し
再調整を行います

ピクセルマッピング
キャンセル

OK 決定

注意

電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングをおこなえません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC84J（別売）を使用するか、容量が十分残っている電池を使用してください。

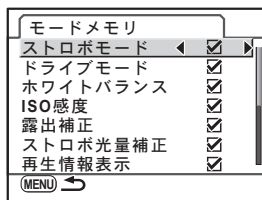
カメラに保存する撮影モードの設定を選択する

カメラの電源を切ったときに、どの設定を記憶させるかを選択します。設定できる内容は、ストロボモード／ドライブモード／ホワイトバランス／ISO感度／露出補正／ストロボ光量補正／再生情報表示／ファイルNo.です。初期設定はすべて☑（オン）です。

1 「📷撮影3」メニューの「モードメモリ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「モードメモリ」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

5 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ 「ファイルNo.」を☑（オン）にすると、フォルダが新しくなってもファイル名の連番が継続されます。詳しくは、「ファイルNo.の付け方を選択する」（p.224）をご覧ください。

11 設定をリセットする

カメラの設定を初期化します。

撮影／再生／詳細設定メニューのリセット

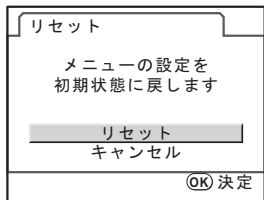
「撮影」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニューの設定内容を初期状態に戻します。

メモ Language/言語 ／日時設定／ワールドタイムの都市設定／文字サイズ／ビデオ出力と「C カスタム」メニューの内容はリセットされません。

1 「詳細設定2」メニューの「リセット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

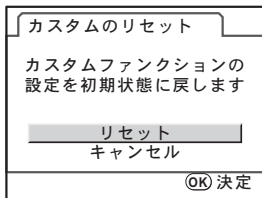
カスタムメニューのリセット

「Cカスタム」メニューの設定内容をすべて初期状態に戻します。

1 **「Cカスタム4」メニューの「カスタムのリセット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

12 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても現在の設定（ラストメモリー）は保存されます。

リセット設定

する　：リセット（p.231）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.106 p.125 p.128 p.130
ストロボモード	撮影モードによって異なる	する	p.65
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	p.159
ISO感度	AUTO （ISO100～800）	する	p.87

「撮影」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
カスタムイメージ	鮮やか	する	p.157
デジタルフィルタ	フィルターオフ	する	p.132
記録形式	JPEG	する	p.152
JPEG記録サイズ	10M（3872×2592）	する	p.150
JPEG画質	★★★（S.ファイン）	する	p.151
RAWファイル形式	PEF	する	p.153
色空間	sRGB	する	p.164
AFモード	**AF.A**	する	p.111
測光方式	（分割）	する	p.101
測距点切替	（ワイド）	する	p.113

項目			初期設定	リセット設定	参照
クイックビュー	表示時間		1秒	する	p.222
	ヒストグラム		□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
モードメモリ			すべて ☑（オン）	する	p.229
ヘルプボタン	（機能選択）		ヘルプ機能	する	p.154
	デジタルプレビュー	ヒストグラム	□（オフ）	する	
		白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
	RAWボタン機能	撮影毎に解除	☑（オン）	する	
		JPEG／RAW／RAW+からの記録形式	すべてRAW+	する	
Shake Reduction			☑（オン）	する	p.122
焦点距離入力			35	する	p.124

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.177
	画面効果	オフ	する	
	繰返し再生	□（オフ）	する	
画像比較		—	—	p.176
デジタルフィルタ*		白黒	する	p.192
リサイズ		設定可能な最大値	—	p.188
トリミング		設定可能な最大値	—	p.190
プロテクト		—	しない	p.184
DPOF		—	しない	p.200
RAW展開		記録サイズ：10M 画質：★★★ 増減感：±0	する	p.195
インデックス		—	—	p.172
再生時の表示方法	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	p.168
	クイック拡大	□（オフ）	する	
マルチ画面設定		9画像	する	p.170
全画像消去		—	—	p.183

* フィルタのパラメータの設定が保存／リセット可能です。

「詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		初期設定による	しない	p.219
日時設定		初期設定による	しない	p.216
ワールドタイム	ワールドタイム設定	⌂（現在地）	する	p.216
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
文字サイズ		初期設定による	しない	p.220
ガイド表示		3秒	する	p.220
フォルダ名		日付	する	p.224
電子音		すべて☑（オン）	する	p.215
LCDの明るさ		±0	する	p.221
LCD色調整		±0	する	p.222
ビデオ出力		初期設定による	しない	p.225
USB接続		PC	する	p.204
オートパワーオフ		1分	する	p.225
バッテリー選択		自動判別	する	p.226
リセット		—	—	p.232
ピクセルマッピング		—	—	p.228
ダストアラート		—	—	p.244
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.243
	起動時の作動	□（オフ）	する	
センサークリーニング		—	—	p.246
フォーマット		—	—	p.214

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. 露出設定ステップ	1/2 EVステップ	する	p.105
2. ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.87
3. 測光作動時間	10秒	する	p.103
4. AFロック時のAE-L	オフ	する	p.115
5. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.103
6. ブラケット撮影順	0 – +	する	p.106
7. シャドー補正	オン	する	—
8. ホワイトバランス微調整	オフ	する	p.162
9. **AF**ボタンの機能	AF作動1	する	p.105 p.110
10. リモコン時のAF	オフ	する	p.129
11. 長秒時NR	オン	する	p.89
12. 高感度NR	オフ	する	p.89
13. **P**時の電子ダイヤル	オフ	する	p.92
14. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.71
15. ワイヤレス時の発光	オン	する	p.144
16. ストロボ発光時のWB	ストロボ	する	p.160
17. ISO感度常時表示	オフ	する	—
18. キャッチインフォーカス	オフ	する	p.118
19. 絞りリングの使用	禁止	する	p.241
20. 電源ランプ	標準	する	p.227
21. ステータスの常時表示	オン	する	p.221
カスタムのリセット	—	—	p.233

各種レンズを組み合わせたときの機能

各種レンズの使用について

工場出荷時の設定で使用できるレンズは、DA・DA L・FA Jレンズまたは絞りリングに**A**（オート）位置のあるD FA・FA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置から外した場合は、「「19. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.241）をご覧ください。

○：絞りが**A**位置であれば、その他は制限なく使用可
×：使用不可

機能＼レンズ［マウント名］	DA・DA L・D FA・FA J・FAレンズ［KAF、KAF2］*4	Fレンズ［KAF］*4	Aレンズ［KA］
オートフォーカス（レンズ単体使用）	○	○	－
（AFアダプター 1.7×使用）*1	－	－	○*5
マニュアルフォーカス（フォーカスインジケーター表示の利用）*2	○	○	○
（マット面の利用）	○	○	○
5点測距	○	○	×*5
パワーズーム	×	－	－
絞り優先自動露出	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○
P-TTLオートストロボ*3	○	○	○
分割測光（16分割）	○	○	○
手ぶれ補正機能使用時のレンズ焦点距離の自動取得	○	○	×

*1 レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズで**A**位置でのみ使用可。
*2 レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可。
*3 内蔵ストロボおよびAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FC使用時。
*4 F・FAソフト85mm F2.8、およびFAソフト28mm F2.8では「**C**カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」を設定した上で手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。
*5 測距点は■（中央）となります。

レンズ名称とマウント名称について
DAレンズのうち超音波モーターを搭載したレンズと、FAズームレンズのうちパワーズームが可能なレンズのマウントはKAF2マウント（AFカプラーのないレンズはK AF3マウント）です。
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）と、超音波モーターを搭載していないDA・DA Lレンズ、D FA・FA J・FレンズのマウントはKAFマウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。なお、このカメラにはパワーズーム機能はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて
絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しません。その場合は機能制限がありますので、「「19. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.241）をご覧ください。
DA・DA L・FA Jレンズまたは絞り**A**位置のあるレンズを絞り**A**位置で使用すると、カメラの露出モードをすべて利用できます。

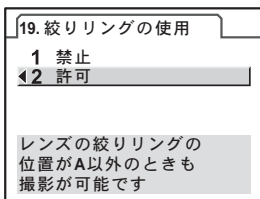
使用レンズと内蔵ストロボについて
絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズおよびソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、ご注意ください。

「19. 絞りリングの使用」設定時の注意

「**C**カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」を選択すると、D FA・FA・F・Aレンズの絞りを**A**（オート）位置以外にしたり、**A**位置のないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、次の制約があるので、ご使用の際はご注意ください。

19. 絞りリングの使用

1 禁止
2 許可

レンズの絞りリングの
位置がA以外のときも
撮影が可能です

絞りA位置以外で使用するときの制約

使用レンズ	露出モード	制約内容
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	
FA・Fソフト85mm　FAソフト28mm（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
すべてのレンズ	**M**（マニュアル）モード	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。**Av**ボタンを押すと絞り込み測光を行い、手動絞りで設定した絞り値で適正露出になるようにシャッタースピードが設定されます。

絞りを**A**位置以外にセットした場合、**M**（マニュアル）モード以外はモードダイヤルの位置にかかわらず、**Av**（絞り優先）モードで作動します。

12 付録

CCDのクリーニング

CCDに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CCDのクリーニングが必要です。

CCDを振動させてほこりを落とす（ダストリムーバル）

ダストリムーバル機能でCCDを振動させて付着したゴミを落とします。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ダストリムーバル」を選ぶ

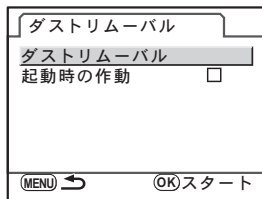
2 十字キー（▶）を押す

「ダストリムーバル」画面が表示されます。

3 OKボタンを押す

CCDが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源を入れるたびにダストリムーバルを作動させたい場合は、「起動時の作動」を選び、十字キー（◀▶）で☑（オン）にします。

ダストリムーバブルが終了すると、「🔧詳細設定3」メニューに戻ります。

CCDに付着したほこりを検知する（ダストアラート）

ダストアラートはCCDに付着したほこりを検知し、ほこりの位置を視覚的に表示する機能です。
検知した画像を保存して、センサークリーニング（p.246）を行うときに表示させることができます。

ダストアラートを行うために、次の条件を整えてください。

- DA・DA L・FA Jレンズ、または絞りリングに**A**（オート）位置のあるD FA・FA・Fレンズを取り付ける
- 絞りリングがあるレンズは**A**位置に合わせる
- フォーカスモードレバーを**AF**に合わせる

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ダストアラート」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

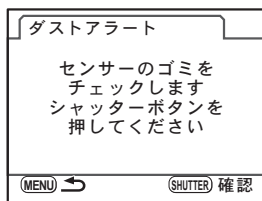
「ダストアラート」画面が表示されます。

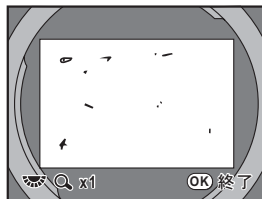
3 白い壁などなるべく均一で明るいものをファインダーいっぱいに入れて、シャッターボタンを全押しする

ダストアラート

センサーのゴミを
チェックします
シャッターボタンを
押してください

MENU ↩　SHUTTER 確認

画像処理の後、ダストアラート画像が表示されます。
「NG」が表示されたときは、**OK**ボタンを押してもう一度撮影してください。

4 OKボタンを押す

画像が保存され、「🔧詳細設定3」メニューに戻ります。

- ダストアラート機能は、極端な長時間露光になることがあります。処理が完了する前にレンズの方向を変えると正しくゴミの状況を把握できなくなります。
- 被写体条件や温度などによっては、ゴミが正しく検出できない場合があります。
- ダストアラート画像は、保存してから30分以上経過すると消去されます。新たにダストアラート画像を保存してからセンサークリーニングを行ってください。
- 保存したダストアラート画像は、再生モードで表示できません。
- SDメモリーカードを入れていないと、ダストアラート画像は保存できません。

- ダストラート画像は、カメラの設定にかかわらず、一時的に固有の撮影条件で撮影されます。
- ダストアラート画像が表示されているときに電子ダイヤルを回すか **INFO** ボタンを押すと、全画面表示に切り替えができます。

ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにミラーアップし、シャッターを開けます。
CCDは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。
クリーニングには、イメージセンサークリーニングキットO-ICK1（別売）もご使用いただけます。

注意

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- シャッター速度を **Bulb** にしてセンサークリーニングを行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CCDに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- 電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません」と画像モニターに表示されます。
- クリーニングをするときは、ACアダプターキットK-AC84J（別売）のご使用をお勧めします。ACアダプターキットK-AC84Jを使用しない場合は、容量が十分に残っている電池を使用してください。クリーニングの途中で電池容量が少なくなると警告音が鳴るので、速やかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCCD部、ミラー部を破損する恐れがあります。

- センサークリーニング中はセルフタイマーランプが点滅します。
- このカメラは手ぶれ補正機能に対応した CCD を使用しているので、センサークリーニング中にCCDが振動する音がしますが、故障ではありません。

1 カメラの電源を切り、レンズを取り外す

2 カメラの電源を入れる

3 「🔧詳細設定3」メニューの「センサークリーニング」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

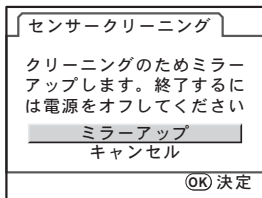
「センサークリーニング」画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「ミラーアップ」を選ぶ

センサークリーニング

クリーニングのためミラーアップします。終了するには電源をオフしてください

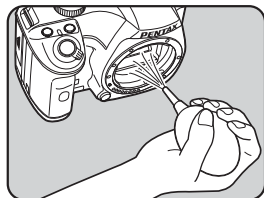
ミラーアップ
キャンセル

OK 決定

6 OKボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。

30分以内にダストアラートでほこりの検知を行っている場合は、画像モニターにダストアラート画像が表示されます。ほこりの位置を確認しながら、クリーニングができます。

7 CCDをクリーニングする

CCDに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CCDがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCCDを布で拭かないでください。

8 カメラの電源を切る

9 ミラーが元に戻ったことを確認後、レンズを取り付ける

別売アクセサリー

このカメラには、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

電源関連

ACアダプターキット K-AC84J
（ACアダプターD-AC76・DCカプラーD-DC84・ACコードD-CO2Jのセット）
家庭用電源からカメラへ電源を供給します。

ストロボ関連

オートストロボ AF540FGZ
オートストロボ AF360FGZ
AF540FGZはガイドナンバーの最大値が約54（ISO100・m）、AF360FGZはガイドナンバーの最大値が約36（ISO100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。スレーブ機能や光量比制御撮影、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、スローシンクロ撮影、後幕シンクロ撮影などが可能です。

AF540FGZ

AF360FGZ

オートストロボ AF200FG
ガイドナンバーの最大値が約20（ISO100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた光量比制御撮影、スローシンクロ撮影などが可能です。

AF200FG

オートマクロストロボ AF160FC
近接撮影用のストロボシステムで、小さな被写体の無影撮影などができます。従来のTTLオートストロボ機能にも対応し、同梱のアダプターリングと組み合わせて、幅広くペンタックス製品に利用できます。

AF160FC

ホットシューアダプター FG

延長コード F5P

ホットシューアダプター FG

オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コードです。

オフカメラシューアダプター F

オフカメラシュークリップ CL-10
AF540FGZ／AF360FGZをワイヤレスで使用するときに、ストロボを机やスタンドなどに固定するための大型クリップです。

オフカメラシュークリップ CL-10

ファインダー関連

マグニファイヤー FB
ファインダー中央部を2倍に拡大して見るためのアクセサリーです。
蝶番式になっていますので、接眼部を跳ね上げて全視野を見られるようにもできます。

マグニファイヤー FB

レフコンバーター A
ファインダーを見る角度を90°間隔に変えることができるアクセサリーです。倍率は1倍／2倍に切り替えることができます。

レフコンバーター A

視度調整レンズアダプター M
視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
約–5～+3m^{-1}（毎メートル）までの8種類をご用意していますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

視度調整レンズアダプター M

アイカップ FQ（※）

リモートコントロール F

カメラ前面5m以内からのリモコン撮影に使用します。

カメラケース／ストラップ

カメラケース O-CC84

カメラストラップ O-ST84（※）

イメージセンサークリーニングキット O-ICK1

カメラのCCDや、レンズなどの光学製
品の清掃に使用します。

その他

ボディマウントキャップ K

ホットシューカバー FK（※）

USBケーブル I-USB7（※）

ビデオケーブル I-VC28

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p.42、p.73) 次の操作をすると、保存できる可能性があります。 ・記録形式をJPEGに変更する(p.150) ・JPEG 記録サイズ／ JPEG 画質を変更する(p.151)
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。(p.42)
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。(p.214)
カードがロックされています	ロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。(p.43)
電子的にロックされています	SDメモリーカードのセキュリティ機能によって保護されています。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。(p.184)
電池容量がなくなりました	電池残量がありません。新しい電池と交換してください。(p.37)

エラーメッセージ	内容
電池容量がたりないため クリーニングを おこなえません	センサークリーニング時に電池容量が足りない場合に表示されます。電池を交換するか、ACアダプターキットK-AC84J（別売）を使用してください。（p.40）
電池容量がたりないため ピクセルマッピングを おこなえません	ピクセルマッピング時に電池容量が足りない場合に表示されます。電池を交換するか、ACアダプターキットK-AC84J（別売）を使用してください。（p.40）
フォルダが作成できません	最大のフォルダNo.（999）およびファイルNo.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.214）
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく保存 できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定または回転情報が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定または回転をしてください。（p.73）
NG	マニュアルホワイトバランス測定、ダストアラート検知に失敗しました。もう一度やり直してください。（p.161、p.244）
これ以上 選択できません	選択削除は、上限枚数（100枚）以上は選択できません。（p.180）
このRAWファイルを 展開できません	他のカメラで撮影されたRAWファイルは、RAW展開できません。
この画像を フィルタ処理できません	他のカメラで撮影した画像に対して、デジタルフィルタを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで、画像の作成に失敗しました。（p.172）
DPOFファイルが ありません	DPOF設定されたファイルがありません。DPOF設定をしてから、DPOF指定印刷をしてください。（p.200）
プリンターエラーです	プリンターにエラーが発生したため、印刷できません。プリンターのエラーを解消してから、印刷してください。
用紙がありません	プリンターに用紙がありません。プリンターに用紙をセットしてから、印刷してください。
プリンターの設定が 変更されました	プリンター状態の変更通知を受信しました。**OK**ボタンを押すと、プリンターと再接続します。

エラーメッセージ	内容
用紙が少なくなりました	プリンターの用紙が少なくなり、プリンター側から信号を受けた時点で表示されます。2秒表示した後、動作を続行します。
インクが少なくなりました	プリンターのインクが少なくなり、プリンター側から信号を受けた時点で表示されます。2秒表示した後、動作を続行します。
インクがありません	プリンターのインクがなくなりました。プリンターのインクを交換してから、印刷してください。
用紙が詰まりました	印刷中に用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いてから、印刷してください。
データエラーです	印刷中にデータエラーが発生しました。
電源をオフにしてください	PictBridgeモードを終了するときに表示されます。カメラの電源を切ってください。

困ったときは

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	電池が入っていない	電池が入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	電池の入れ方が間違っている	電池の挿入方向を確認してください。電池室の⊕⊖表示に従って電池を入れ直してください。（p.37）
	電池の残量がない	容量のある電池に交換するか、ACアダプターキットK-AC84J（別売）を使用してください。（p.40）
シャッターがきれない	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか（p.91)、「**C**カスタム3」メニューの「19. 絞りリングの使用」で「許可」を選択してください。（p.241）
	内蔵ストロボが充電中	充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.42、p.73）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など)、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.116）
	AFエリアに被写体が入っていない	ファインダー中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。（p.114）
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	フォーカスモードレバーが **MF** になっている	フォーカスモードレバーを **AF** にしてください。（p.109）
	AF モードが **AF.C** になっている	AFモードを **AF.C** に設定（**AF.A** 時の自動設定も含む）しているときは、合焦後もピントが固定（フォーカスロック）されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。ピントを合わせたいものが決まっている場合は、AFモードを **AF.S**（シングルモード）にし、フォーカスロックを用いて撮影してください。（p.111）
	撮影モードが、**SCN** モードの／／になっている	撮影モードを（動体）、**SCN**（シーン）モードの（ステージライト）／（キッズ）／（ペット）／（ナイトスナップ）以外にしてください。（p.80）
AE ロックが働かない	**M** モード／**Bulb** になっている	**M**（マニュアル）モード、シャッター速度を **Bulb** 以外にしてください。（p.98、100）
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが／になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを（強制発光）または（強制発光＋赤目軽減）にしてください。（p.65）
	モードダイヤルがになっている	モードダイヤルを（ストロボオフ）以外に合わせてください。（p.80）
	SCN モードで／／／／になっている	**SCN**（シーン）モードを（夜景）／（夕景）／（ステージライト）／（キャンドルライト）／（美術館）以外にしてください。（p.82）
パワーズームが動かない	このカメラはパワーズームに対応していません	マニュアルズームをご使用ください。（p.64）
パソコンとのUSB 接続がうまくいかない	転送モードが「PictBridge」になっている	「詳細設定2」メニューの「USB接続」を「PC」に切り替えてください。（p.204） パソコンとの接続については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」のp.11をご覧ください。

現象	原因	対処方法
プリンターとの USB 接続がうまくいかない	転送モードが「PC」になっている	「🔧詳細設定2」メニューの「USB接続」を「PictBridge」に切り替えてください。（p.204）
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	Shake Reductionを「オン」に設定してください。（p.122）
	手ぶれ補正機能が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。（p.124）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用してください。

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源を入れるとミラーが下がります。これらを行いカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

主な仕様

型　式	P-TTLストロボ内蔵、TTL自動露出オートフォーカス一眼レフデジタルカメラ
有効画素数	約1020万画素
撮像素子	総画素数約1075万画素、原色フィルター／インターラインインターレーススキャンCCD
記録画素数	10M（RAW：3872×2592ピクセル）、10M（JPEG：3872×2592ピクセル）、6M（3008×2000ピクセル）、2M（1824×1216ピクセル）
感度（標準出力感度）	オート、マニュアル（ISO 100～3200（1 EVステップ、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップの選択可））
記録形式	RAW（PEF／DNG）、JPEG（Exif2.21）、DCF2.0準拠、DPOF対応、Print Image Matching III対応、RAW+JPEG同時記録可能
JPEG画質	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード

撮影枚数

記録サイズ	記録形式／JPEG画質	容量					
		4GB	2GB	1GB	512MB	256MB	128MB
10M 3872×2592	RAW (PEF)	約236枚	約120枚	約59枚	約29枚	約14枚	約7枚
	RAW (DNG)	約235枚	約119枚	約58枚	約29枚	約14枚	約7枚
10M 3872×2592	★★★	約921枚	約469枚	約231枚	約115枚	約58枚	約29枚
	★★	約1371枚	約698枚	約343枚	約171枚	約86枚	約44枚
	★	約2320枚	約1181枚	約586枚	約293枚	約147枚	約75枚
6M 3008×2000	★★★	約1547枚	約787枚	約387枚	約193枚	約97枚	約50枚
	★★	約2277枚	約1159枚	約570枚	約284枚	約143枚	約73枚
	★	約3893枚	約1982枚	約974枚	約487枚	約245枚	約125枚
2M 1824×1216	★★★	約3549枚	約1807枚	約902枚	約450枚	約227枚	約116枚
	★★	約6034枚	約3073枚	約1549枚	約774枚	約390枚	約200枚
	★	約10057枚	約5121枚	約2627枚	約1313枚	約662枚	約339枚

JPEG画質（圧縮比）：★★★（S.ファイン）＝1/4.5、★★（ファイン）＝1/8、★（エコノミー）＝1/16

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（D：昼光色、N：昼白色、W：白色）、白熱灯、ストロボ、マニュアル、微調整可能
画像モニター	2.7型約23万ドット、TFTカラーLCD、広視野角タイプ、明るさおよび色調整機能付

再生機能	1コマ、4画像、9画像、16画像、拡大（最大16倍まで、スクロール可）、画像比較、回転表示、カレンダー表示、フォルダ表示、スライドショウ、ヒストグラム、白とび黒つぶれ警告表示、リサイズ、トリミング、インデックス（サムネイル、スクエア、ランダム1、ランダム2、ランダム3）
露出モード	**P** プログラム、**Sv** 感度優先、**Tv** シャッター優先、**Av** 絞り優先、**M** マニュアル ピクチャーモード：AUTO PICT オートピクチャー、人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、ストロボオフ シーンモード：夜景、サーフ＆スノー、料理、夕景、ステージライト、キッズ、ペット、キャンドルライト、美術館、ナイトスナップ
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター＝1/4000～30秒(無段階)、マニュアルシャッター＝1/4000～30秒（1/2 EVステップまたは1/3 EVステップの選択可)、バルブ、電磁レリーズ、電源オフでシャッターロック
マウント	ペンタックスバヨネットKAF2マウント（AFカプラー、レンズ情報接点、電源接点付Kマウント）
使用レンズ	KAF3マウントレンズ、KAF2マウントレンズ（パワーズーム不可）、KAFマウントレンズ、KAマウントレンズ
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式、SAFOX（5点測距）、ワイド・スポット切替、オートフォーカス作動輝度範囲EV –1～18（ISO 100相当）（F1.4レンズ付）、フォーカスロック可能、フォーカスモード＝**AF.A**（オート）／**AF.S**（シングル）／**AF.C**（コンティニュアス）／**MF**
ファインダー	ペンタミラー式ファインダー、ナチュラルブライトマットIIフォーカシングスクリーン、視野率約96％、倍率約0.85倍（1.4/50mm・∞）、視度＝約–2.5～+1.5m^{-1}（毎メートル）
ファインダー内表示	フォーカス表示●合焦＝点灯／非合焦＝点滅、⚡点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボお勧め、シャッター速度、ISO感度確認、絞り値、電子ダイヤル有効表示、✱＝AEロック、撮影可能枚数、☑＝露出補正、**MF**＝マニュアルフォーカス表示、ピクチャーモード表示、手ぶれ補正表示
プレビュー機能	デジタルプレビュー：構図、露出、ピント、ホワイトバランス確認
連続撮影（Hi／Lo）	約3.5コマ/秒（JPEG（10M・★★★・連続Hi）：5コマまで、RAW：4コマまで）、約1.1コマ/秒（JPEG（10M・★★★・連続Lo）：カード空き容量まで、RAW：7コマまで）
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒／2秒（ミラーアップ機能あり）、電子音の有無設定可能、作動後解除可能

リモコン	ペンタックスリモートコントロールF（別売）受信後即レリーズ、または3秒後にレリーズの切り替え可
ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）
デジタルフィルタ	トイカメラ、ハイコントラスト、ソフト、クロス、レトロ、色抽出、イラスト、HDR、白黒、セピア、カラー、スリム、明るさ、カスタム
カスタムイメージ	画像仕上（6種類）、彩度／フィルタ効果、色相／調色、コントラスト、シャープネス／ファインシャープネス
露出ブラケット	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）
露出計・露出範囲	TTL開放分割測光（16分割）、露出範囲EV 0～21（50mm F1.4 ISO 100）、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±3 EV（1/2 EVステップ）、±2 EV（1/3 EVステップ）、露出設定ステップ選択可能
AEロック	カスタムファンクションにて **AF** ボタンに割り当て可能（タイマー式：カスタムファンクションで設定した測光作動時間の2倍）シャッターボタン半押しで継続
内蔵ストロボ	直列制御P-TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー約11（ISO 100）、28mmレンズの画角（35ミリ換算）をカバー、同調速度1/180秒以下、日中シンクロ・スローシンクロ可能、ISO連動範囲＝P-TTL：100～3200、オートポップアップ機能付
外付けストロボ同調	ホットシュー（**X** 接点専用ストロボ接点付）専用ストロボ連動ISO連動範囲＝P-TTL：100～1600、自動発光可能、赤目軽減機能可能、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ
カスタムファンクション	21項目設定可能
時計機能	ワールドタイム設定、世界75都市に対応（28タイムゾーン）
手ぶれ補正機能	撮像素子シフト方式、有効補正範囲＝最大4EV（レンズの種類や撮影条件により異なる）
ダストリムーバル	SPコーティングおよびCCD駆動によるほこり除去が可能、起動時の作動設定可
電源	単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素充電池、単3形アルカリ電池のいずれか4本
電池消耗警告	電池マーク点灯（点滅時シャッターロック）
入出力ポート	USB／VIDEO端子（USB2.0（ハイスピード対応））
ビデオ出力方式	NTSC／PAL
PictBridge	対応プリンター：　PictBridge対応のプリンター 印刷モード：　1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
外形・寸法・質量（重さ）	約122.5mm（幅）×91.5mm（高）×67.5mm（厚）（突起部を除く）約525g（ボディのみ）、約590g（単3形リチウム電池4本、SDメモリーカード込み）、約625g（単3形アルカリ電池4本、SDメモリーカード込み）

付属品	ホットシューカバー FK、アイカップFQ、ボディマウントカバー、USBケーブルI-USB7、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW84（PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3）、ストラップO-ST84、単3形リチウム電池4本、使用説明書（本書）、簡単ガイド、PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書、保証書
対応言語	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、デンマーク語、スウェーデン語、フィンランド語、ポーランド語、チェコ語、ハンガリー語、トルコ語、ギリシャ語、ロシア語、韓国語、中国語（繁体字／簡体字）

用語解説

AdobeRGB

Adobe Systems社が商業印刷原稿作成用に推奨している色空間。sRGBよりも広い色再現域をもち、印刷での色再現域をほぼカバーできるため、パソコン上での画像編集段階において、印刷でしか再現できない色域情報を失うことがありません。なお、対応しないソフトウェアで開くと色が薄く見えてしまいます。

CCD（Charge Coupled Devices）

レンズを通して入ってきた光を電気信号に変換する撮像素子。

DCF（Design rule for Camera File system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、デジタルカメラ用のファイルシステムに関する規格。

DNG RAWファイル

DNG（Digital Negative の略）は、Adobe Systems 社が提唱する汎用のRAWファイルフォーマット。標準仕様のないRAW形式をDNG形式に変換することで、画像の可搬性が向上します。

DPOF（Digital Print Order Format）

画像を記録したカードに、プリントするコマや枚数などの情報を書き込むためのルール。DPOF対応のプリント取扱店に持っていくと、簡単にプリントすることができます。

EV（Exposure Value）

露出値。絞り値とシャッター速度の組み合わせで決まります。

Exif（Exchangeable image file format for digital still camera）

電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された、デジタルカメラ用のファイルフォーマットに関する規格。

ISO感度

光の明るさを感じる度合い。ISO感度が高いほど、暗いところでも速いシャッター速度で撮影できるため、カメラぶれしにくくなります。しかし、ISO感度が上がるほど、画像のノイズが多くなります。

JPEG
画像の圧縮方式で、このカメラでは画質を★★★（S.ファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）から選べます。JPEG形式で記録した画像は、パソコンで閲覧したり、電子メールに添付するのに適しています。

NTSC／PAL
ビデオ出力方式。主に日本、北米、韓国ではNTSCが用いられ、主にヨーロッパ諸国や中国ではPALが用いられています。

RAWデータ
CCDからの生出力を記録した画像データ。RAWデータはカメラ内部で画像処理される前の生データなので、RAW以外では撮影前にしておかなければならない設定（ホワイトバランス・コントラスト・彩度・シャープネスなど）を、撮影された後に1コマ1コマ個別に設定できます。またRAWデータはJPEGの8bitデータに対し、16倍の情報量を持った12bitデータなので、大変豊かな階調表現が可能です。パソコンに転送し、付属のソフトウェアを使用することで、JPEGなど設定の異なる画像データを作成することができます。

sRGB（standard RGB）
IEC（International Electrotechnical Commission、国際電気標準会議）が定める色空間の国際規格。一般的なパソコン用モニターの標準値から定義された色空間で、Exifの標準色空間としても使用されています。

色温度
被写体を照らしている光源の色を数値で表したもの。絶対温度で表され、単位はケルビン（K）を使用します。色温度が高くなるにつれて光の色は青味を帯び、色温度が低くなるにつれ光の色は赤味を帯びていきます。

色空間
色スペクトルのうちで使用する範囲を定義したもの。デジタルカメラでは、Exifの定義により「sRGB」が標準として使われています。このカメラでは、sRGBより多くの色を表現できる「AdobeRGB」も色空間として使用できます。

オートブラケット
露出を自動で変えて撮る機能。シャッターボタンを押したときに、補正なしの画像、マイナス補正した画像、プラス補正した画像を連続して撮影できます。

画質
画像の圧縮率。圧縮率が低くなるにつれて画像はきめ細かく、圧縮率が高くなるにつれて画像は粗くなります。

カメラぶれ（手ぶれ）
シャッターが開いている間にカメラが動いてしまったために、被写体全体が流れたように写ってしまう現象。シャッター速度が遅いときに発生しがちです。
ISO感度を高めたり、ストロボを使ったりしてシャッター速度を速くする、また、三脚などを使ってカメラを固定することで防止できます。また、カメラぶれはシャッターボタンを押す動作で発生しがちなので、手ぶれ補正機能やセルフタイマー、リモコンを使うのも有効です。

記録サイズ
画像の大きさを点（ピクセル）の数で表したもの。画像を構成する点（ピクセル）の数が多くなるほど、画像の大きさは大きくなります。

黒つぶれ
画像の暗い部分の階調が失われ、真っ黒になってしまうこと。

ケラレ
撮影した写真の周辺部がフードやフィルターなどでさえぎられて黒くなったり、レンズでストロボ光の一部がさえぎられて影になる現象。

減光（ND）フィルター
色調には影響を与えずに、明るさだけを調整するフィルターで、いろいろな濃度のものがあります。

絞り
光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてCCDにあたる光の量を調整する機構のこと。

シャッター速度
シャッターを開き、光をCCDにあてている時間。シャッター速度を速くしたり、遅くしたりすることで、CCDにあたる光の量を調整します。

白とび
画像の明るい部分の階調が失われ、真っ白になってしまうこと。

測距点
ファインダー内でピントを合わせる位置。このカメラでは、「ワイド」「スポット」が選択できます。

測光方式
露出を決めるために、被写体の明るさを計測する方式。このカメラでは、「分割測光」「中央重点測光」「スポット測光」が選択できます。

ダイナミックレンジ（D-range）
画像がどれだけ階調豊かに再現できるかを数値で表したもの。
デジタルカメラでは、銀塩フィルムの「ラチチュード」と同じ意味で使われます。
一般的に、ダイナミックレンジが広いと白とび黒つぶれが発生しにくく、ダイナミックレンジが狭いとシャープな画像を得られます。

ノイズリダクション
シャッター速度を遅くしたときや高感度で撮影したときに発生するノイズ（画像のざらつきやムラ）を減らす処理。

被写界深度
ピントが合って見える範囲。絞り値、レンズの焦点距離、被写体までの距離によって変わります。例えば、絞り値を大きくすると被写界深度は深くなり、小さくすると浅くなります。

ヒストグラム
画像の最も暗い部分から最も明るい部分までの階調の分布をグラフ化したもの。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。画像の露光状態を知りたいときに便利です。

ホワイトバランス
撮影時の光源に合わせて色温度を調整し、被写体を見た目どおりの色合いに補正する機能。

露出補正
シャッター速度と絞りを変えて、画像の明るさを調整すること。

索引

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックス
ピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。

電話受付
TEL 0120-97-0405 （フリーダイヤル）
（受付時間：平日 8：00～21：00　土・日・祝日・年末年始 9：00～18：00）

［宅配便・郵便による修理受付、修理に関するお問い合わせ］

PENTAX イメージング・システム事業部　東京サービスセンター
TEL 03-3975-4341（代）
〒175-0082 東京都板橋区高島平6-6-2　ペンタックス 流通センター内
営業時間 9：00～17：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

PENTAX イメージング・システム事業部　大阪サービスセンター
TEL 06-6271-7996（代）
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間 9：00～17：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　http://www.pentax.jp/

［PENTAX イメージング・システム製品に関するお問い合わせ］
お客様相談センター　ナビダイヤル　0570-001313
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS、IP電話の方は、右記の電話番号をご利用ください。　**☎03-3960-3200（代）**

〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9

営業時間　9：00～18：00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

［ショールーム・写真展・修理受付］
ペンタックスフォーラム　☎03-3348-2941（代）

〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）

営業時間　10：30～18：30

休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 3 ／ PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」をご参照ください。

HOYA 株式会社
PENTAX イメージング・システム事業部
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

53439
H01-200809
Printed in Philippines